

# 消 防 年 報

平 成 30 年



双葉地方広域市町村圏組合  
消 防 本 部

## は し が き

この消防年報は、双葉地方広域市町村圏組合消防の現勢と消防に関する各種資料を収録したもので、消防防災行政を広く一般に紹介することを目的として編集したものです。

なお、この消防年報資料は原則として暦年で表し、予算に関係のある事項については、会計年度で作成しております。

平成 31 年 3 月

双葉地方広域市町村圏組合消防本部

# ◆ 目 次 ◆

## は し が き

### 《 総 括 》

双葉地方広域市町村圏域の概況	1
市町村面積・世帯数・人口	2
双葉地方広域市町村圏組合消防のあゆみ	3
歴代消防長・消防署長	28

### 《 総 務 》

双葉地方広域市町村圏組合消防組織図	29
消防本部・消防署・分署及び出張所の事務分掌	30
双葉地方広域市町村圏組合一般会計予算	33
消防本部・消防署・分署及び出張所配置図	34
消防庁舎の現況	35
消防職員配置状況	36
職員の階級別年齢	37
職員の階級別勤続年数	38
消防大学校・県消防学校等入校状況	39
消防職員特殊技能その他資格取得	40

### 《 予 防 》

町村別工事種別建築同意等事務処理状況	41
防火対象物別建築同意等事務処理件数	42
町村別防火対象物	43
月別査察状況	44
過去5年間の防火対象物数・査察実施状況	45
火災予防条例に基づく各種届出処理状況	46
火災予防条例以外の各種届出処理状況	47
過去5年間の防火管理者講習（資格取得講習）状況	48
広報活動実施状況	49
危険物施設数（町村別）及び立入検査実施状況	50

危険物施設数（類別）	51
危険物施設数（数量別）	51
第4類（可燃性液体）屋外貯蔵タンク数（容量別）	52
危険物施設過去5年間の推移	52
危険物製造所・貯蔵所・取扱所等申請処理状況	53

### 《 警 防 》

相互応援協定等	54
消防力の現況	55
通信施設の現況	56
消防水利の現況	57
消防車両の現況	58
具備品原子力防災資器材の現況	59
消防資器材の現況	61
町村別救助活動状況	63
過去5年間の救助活動状況	64
消防車両の活動状況	65
気象注意報発令状況	67
火災気象注意報発令状況	67

### 《 火 災 》

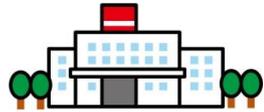
火災発生状況	68
町村別・月別火災発生件数	69
町村別・月別焼損面積	70
時間帯による火災発生件数	71
曜日別火災発生件数	71
気象別火災発生件数	72
過去5年間の火災発生状況	73
原因別火災発生状況	74

## 《 救 急 》

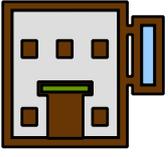
救急活動状況-----	75
過去5年間の救急活動状況-----	75
月別活動状況-----	76
過去5年間の覚知状況-----	77
医療機関搬送人員-----	77
過去5年間の署所別活動状況-----	78
町村別出場件数-----	79
曜日別出場件数-----	79
現場到着所要時間別出場件数（町村別）-----	80
収容所要時間別搬送人員（町村別）-----	80
時間別発生状況-----	81
救急隊員の行った応急処置件数-----	82
事故種別・年齢区分別・傷病程度別搬送人員-----	83
応急処置普及指導状況-----	84
救急資器材の現況-----	85

# 一 目 統 計

人口・世帯	面積・人口密度	職員数	消防団員
			
人 口 62,882人 うち男性 31,313人 うち女性 31,569人 世 帯 25,270世帯	865.12km <sup>2</sup> (構成 6町2村) 1kmあたり 72.7人	定 数 127名 実 数 126名 平均年齢 34.9歳 平均勤続年 12.8年	定 数 2,055名 実 数 1,448名

消防費	署 所	消防車両	特殊車両
			
当初予算額 1,344,479(千円) 住民1人あたり 21,381(円)	消 防 本 部 1 消 防 署 2 分 署 1 出 張 所 2	ポンプ車 7台 救急車 7台 (うち高規格7台)	大型高所放水車 1台 大型化学車 1台 大型水槽車 2台 泡原液搬送車 1台 救助工作車 1台 資器材搬送車 3台

火 災	出火原因	火災による死傷者	火災による損害額
			
火災件数 12件 (内訳) 建物 4件 林野 2件 車両 1件 その他 5件	1位 調査中・不明 6件 2位 火入れ 2件 3位 煙突・煙道 1件 排気管 放火の疑い その他	死 者 0名 負傷者 2名	33,741(千円) 1件あたり 2,811(千円)

防火対象物	危険物施設	救 急	救 助
			
防火対象物数 2,898対象物 稼働対象物数 1,529対象物 立入検査実施率 105%	危険物施設数 759施設 稼働施設数 462施設 立入検査実施率 100%	出動件数 985件 搬送人員 873人 1日あたりの出動 2.7件 搬送割合 72.0人に1人	出動件数 25件 救助人員 13人

# 総括



浪江消防署開署式 平成30年8月25日 実施

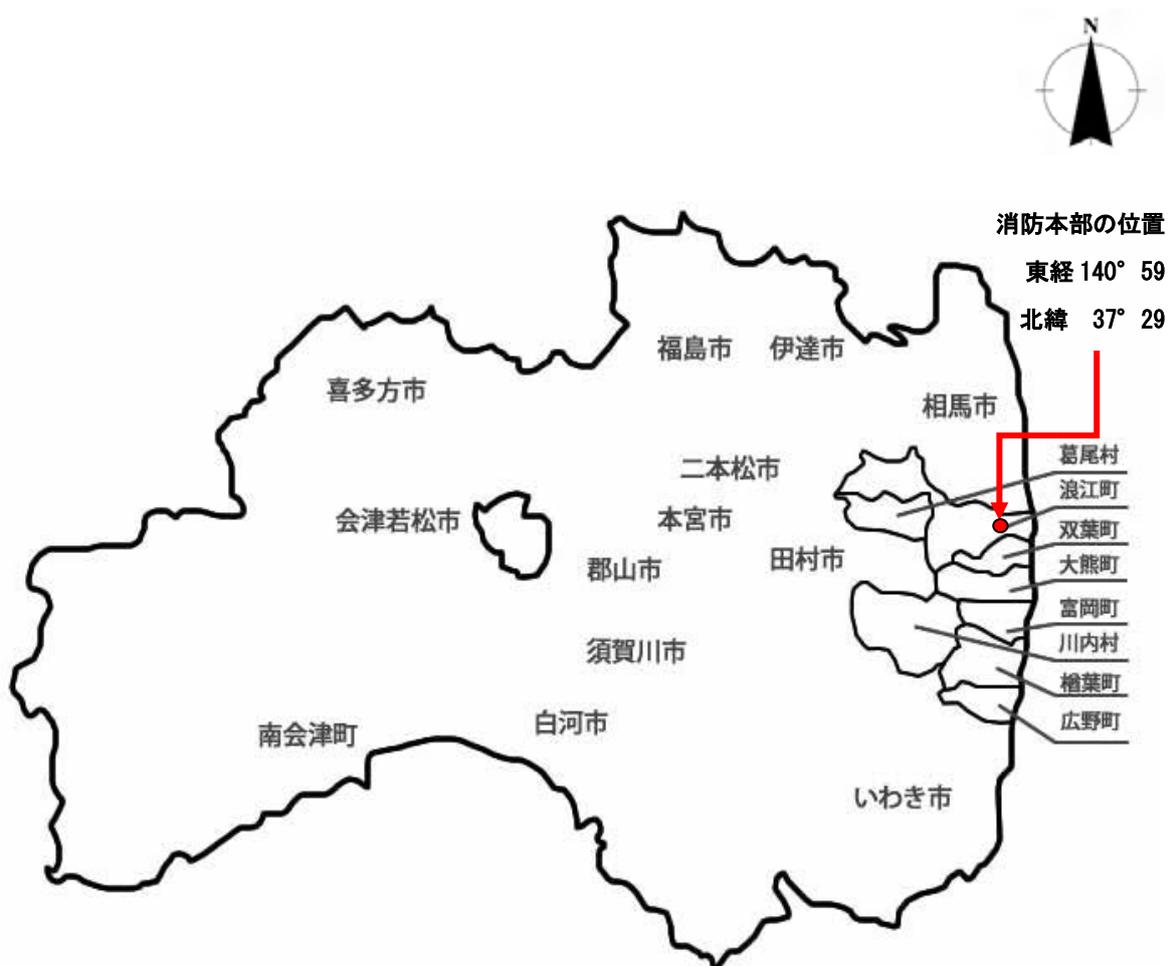


# 双葉地方広域市町村圏域の概況

## 1. 圏域の位置および環境

当圏域は、福島県の東部太平洋の浜通り中央に位置し、国道6号線・114号線・399号線及びJR常磐線の沿線にあたる6町2村を一つの広域圏として構成されている。また、常磐高速道路が南北を通過し、広野町、富岡町、浪江町にICが存在する。圏域中心部から県都福島市までの距離は75km、宮城県仙台市までは113km、東京都までは254kmである。

東に太平洋、西に阿武隈山系が尾根をなした豊かな自然環境に囲まれており、阿武隈山系を源として北部の請戸川、南部の木戸川の2水系のほか、前田川・熊川・富岡川・浅見川が太平洋に注いでいる。平均気温は約12度で、東北地方としては温暖な気候であり、降水量にも恵まれ、冬季には山間部に僅かな積雪が見られる程度である。山間部では1月から3月にかけて季節風が強く吹き乾燥が厳しいが、自然条件に恵まれており四季を通じて住みよい地域である。



## 2. 圏域の沿革と構成

当圏域は、藩政時代幕僚、多古藩、棚倉藩、中村藩および三春藩に所属していたが、明治4年廃藩置県後、幾多の制度改革がなされ、明治22年町村制施行当時は20村の構成であった。さらに明治29年に、当時の楯葉郡（富岡町以南広野町に至る）と標葉郡（大熊町以北浪江町に至る）の二郡が合併し双葉郡となったものであるが、昭和にいたり郡内町村間の合併等が行なわれ、特に町村合併促進法に基づき、昭和29年から昭和31年にかけての合併により7町3村となり、続いて昭和41年いわき市の誕生に伴い接続地の久之浜町、大久村がいわき市に編入され、現在では、広野町、楯葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村の6町2村となった。古くから地形、民情、風習はおおむね同じく、運命共同体的な意識をもって相互に協調してきた地域であって東西30km、南北40km、面積865.12km<sup>2</sup>、人口62,882人で、本県面積および人口のそれぞれ約6.3%、約3.4%に当たる。

### 市町村面積・世帯数・人口

(平成30年12月31日現在)

区分 町村別	面積 (km <sup>2</sup> )	世帯数	人 口		
			総人口	男	女
広 野 町	58.39	2,078	4,775	2,476	2,299
楯 葉 町	103.45	2,947	6,971	3,532	3,439
富 岡 町	68.47	5,536	13,027	6,619	6,408
川 内 村	197.38	1,263	2,655	1,359	1,296
大 熊 町	78.70	3,807	10,397	5,089	5,308
富岡消防署管内	506.39	15,631	37,825	19,075	18,750
双 葉 町	51.40	2,282	6,025	2,907	3,118
浪 江 町	223.10	6,880	17,613	8,605	9,008
葛 尾 村	84.23	477	1,419	726	693
浪江消防署管内	358.73	9,639	25,057	12,238	12,819
双葉消防本部管内	865.12	25,270	62,882	31,313	31,569

両署の数字は小計を示す。

## 双葉地方広域市町村圏組合消防のあゆみ

昭和47年	4月	<p>広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村の6町2村からなる双葉地方広域市町村圏組合を設立し、組合事業の1つとして消防事務を処理するため、火災及び救急業務の広域処理を目的に双葉地方広域消防が計画され、昭和47年度の消防庁舎の建設、施設の整備等準備期間を経て昭和48年4月1日、本部、浪江消防署、富岡消防署、大熊分遣所、葛尾分遣所、楡葉分遣所、川内分遣所を設置、消防職員定数85名、指令車1台、広報車4台、消防無線基地局8局、移動局15局で消防業務を開始する。</p> <p>(職員の教育の関係もあり段階的に発足)</p> <p>政令指定(自治省告示第106号)</p>
	10月	<p>初代消防長事務取扱者に、双葉地方広域市町村圏組合管理者 志賀秀正就任する。</p> <p>初代浪江消防署長に伴場和雄、富岡消防署長に太田芳一郎就任する。</p>
昭和48年	3月	浪江消防署併設消防本部を建設、落成する。
	4月	相馬地方広域市町村圏組合消防本部と消防相互応援協定を締結する。
		富岡消防署を建設、落成する。
	5月	大熊分遣所、楡葉分遣所を開所する。
	10月	<p>危険物等の特殊災害に備え、エアホーム化学消火剤500ℓ(県備分)1,000ℓ(組合分)、計1,500ℓ備蓄する。</p> <p>川内分遣所、葛尾分遣所開所する。</p>
	11月	浪江消防署、富岡消防署に水槽付ポンプ自動車(いすゞSBR320)を各1台配置する。
	12月	<p>郡山地方広域消防組合と消防相互応援協定締結する。</p> <p>富岡消防署に救急車(ニッサン3B型)1台を配置する。</p> <p>組合に日本損害保険協会より救急車(ニッサン3B型)1台が寄贈される。</p> <p>浪江消防署に配置する。</p>
昭和49年	3月	双葉分遣所、広野分遣所を建設、落成する。
	8月	消防職員定数条例改正、消防職員91名となる。
	12月	いわき市と消防相互応援協定を締結する。
昭和50年	1月	双葉分遣所、広野分遣所開所、普通消防ポンプ自動車(ニッサンFH60型)各1台を両分遣所に配置する。
	5月	第2代消防長事務取扱者に双葉地方広域市町村圏組合管理者 猪狩秀玄就任する。
	12月	楡葉分遣所、川内分遣所、大熊分遣所、葛尾分遣所に普通ポンプ自動車(ニッサンFH60)各1台配置する。
昭和51年	3月	消防本部を増築、落成する。
	8月	<p>組合に日本消防協会より救急車(トヨタ2B型)1台が寄贈される。</p> <p>富岡消防署に配置する。</p>

昭和51年	10月	富岡消防署長 太田芳一郎退職する。 浪江消防署長 伴場和雄、両署長兼務となる。 浪江消防署、富岡消防署の広報車(ニッサンブルーバードバン)各1台更新する。
昭和52年	4月	富岡消防署長心得に猪狩一夫就任する。 林野火災用空中消火薬剤 MAP2, 250kg、CMC300kgを県備受託管理する。
	5月	油防除資材、油処理剤(スノーラップE12, 000)1, 440ℓ、油吸着剤(タフネルオイルブロッター-BL-65)136kgを県備受託管理する。 第3代消防長事務取扱者に双葉地方広域市町村圏組合管理者田中清太郎就任する。 富岡消防署を増築、落成する。
	8月	浪江消防署、富岡消防署の広報車(ニッサンブルーバードバン)各1台を更新する。
	12月	浪江消防署、富岡消防署にアルミボート各1艘を配置する。
昭和53年	2月	川内分遣所、葛尾分遣所の車庫を増築、落成する。
	4月	第4代消防長に村岡俊夫就任する。(専任消防長) 富岡消防署長に猪狩一夫就任する。 石油コンビナート等災害防止法の規定により「広野地区特別防災区域」が指定される。
	7月	浪江消防署、富岡消防署にボート搬送専用トレーラー各1台を配置する。 小名浜海上保安部と業務協定を締結する。
昭和54年	2月	消防本部に指令車(トヨタクラウン)1台を配置する。
	3月	組合に日本消防協会より救急車(ニッサンキャラバン2B型)1台が寄贈される。 富岡消防署に配置する。 組合に農業共済組合より救急車(ニッサンキャラバン2B型)1台が寄贈される。 浪江消防署に配置する。
	6月	各分遣所を無人化とする。 消防本部の組織を一部改正し、消防係を置く。 消防職員定数条例改正、消防職員92名となる。 浪江・富岡両署に救助隊を発足する。(兼務隊員26名)
	10月	県、広域、南双4ヶ町村合同総合防災訓練を富岡町で実施する。
	11月	県、広域主催による林野火災空中消火訓練を葛尾村で実施する。
	12月	浪江消防署に救助訓練塔落成する。
昭和55年	1月	富岡消防署西側車庫落成する。
	2月	葛尾、川内分遣所に各1名を派遣する。 火災予防条例の全部を改正する。
	3月	消防三点セットを購入し、富岡消防署に配置する。 高所放水車(ヒノK-TC30m級はしご付)化学車(ヒノKB)、泡原液搬送車(ヒノKB) 消火剤備蓄タンク富岡消防署に設置、(54年10月)化学消火剤20Kℓを備蓄する。 浪江消防署、富岡消防署に可搬搭載車(三菱キャンター)を各1台配置する。

昭和55年	4月	消防職員定数条例改正、消防職員94名となる。
	8月	本部、浪江消防署、富岡消防署の広報車(ニッサンブルーバードバン)各1台を更新する。
	10月	県、広域、北双4ヶ町村合同総合防災訓練を浪江町で実施する。
	11月	消防職員定数条例改正、消防職員96名となる。
	12月	葛尾、川内分遣所に各2名派遣する。 消防本部会議室を改築する。
昭和56年	4月	双葉地方広域市町村圏組合管理者に遠藤景芳就任する。
	8月	第10回全国消防救助技術大会に出場する。ロープ登はん(浪江消防署)
	9月	浪江消防署、富岡消防署の広報車(ニッサンブルーバードバン)各1台を更新する。
	10月	県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力(株)広野火力発電所構内において、総合防災訓練を実施する。 川内村大鷹戸谷地内に無線中継局舎を設置、浪江消防署、富岡消防署の通信指令室を改修する。
	12月	浪江消防署の倉庫、待機室を増改築する。
昭和57年	4月	川内村林野火災で自衛隊を要請する。(63ha、損害額7,000万円)
	5月	富岡消防署に救助訓練塔(7m、2ヶ所)が落成する。
	8月	第11回全国消防救助技術大会に出場する。ロープ登はん(浪江消防署)
	10月	葛尾、川内分遣所各8名にて開所。救急車(ニッサンキャラバン2B型)各1台を配置する。
	11月	救急車(ニッサンキャラバン2B型)購入し、浪江消防署へ配置する。 消防職員定数条例改正、消防職員100名となる。
	12月	日本自動車工業会より救急車(ニッサンキャラバン2B型)1台が寄贈される。 川内分遣所へ配置する。
昭和58年	1月	葛尾分遣所の救急車(ニッサンキャラバン2B型)1台を更新する。
	3月	消防長 村岡俊夫退職する。
	4月	第5代消防長事務取扱者に双葉地方広域市町村圏組合管理者 松本一郎就任する。 浪江消防署長伴場和雄、消防本部次長兼務となる。
	8月	第12回全国消防救助技術大会に出場する。ロープ登はん(浪江消防署)
	9月	伊達地方消防組合消防本部と消防相互応援協定を締結する。
	10月	川内・葛尾分遣所を出張所に改称する。 福島県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力(株)広野火力発電所構内において、総合訓練を実施する。 消防本部次長兼浪江消防署長伴場和雄退職する。
	11月	消防本部次長兼浪江消防署長に猪狩一夫就任する。 富岡消防署長に中野明就任する。 災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき、大熊町において、福島県及び6町主催による原子力防災訓練に参加する。
	12月	富岡消防署の救急車(ニッサンキャラバン2B型)1台を更新する。

昭和59年	1月	浪江消防署の普通ポンプ自動車(いすゞモリタME3A)1台を更新する。
	4月	(財)福島県消防協会双葉支部の事務が、双葉地方町村会より移管される。
	8月	第13回全国消防救助技術大会に出場する。 ロープ登はん・ロープブリッジ渡過(富岡消防署)
	9月	日本消防協会より緊急給水用濾水器を譲渡される。
	11月	福島県相双地方(双葉地区)総合防災訓練を双葉町で実施する。 富岡消防署庁舎防水及び外部塗装工事が完了する。 葛尾出張所にホース乾燥塔1基を設置する。
昭和60年	1月	富岡消防署の普通ポンプ自動車、水槽付ポンプ自動車(いすゞニッキR3、いすゞモリタME5)各1台を更新する。
	5月	消防本部次長兼浪江消防署長 猪狩一夫退職する。
	6月	消防本部次長兼浪江消防署長に中野明就任する。 富岡消防署署長心得に秋本正夫就任する。
	8月	富岡消防署、ガス滅菌器(パールE0-33E)を購入し配置する。
	10月	福島県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力(株)広野火力発電所構内において、総合訓練を実施する。
	11月	福島県相双地方(川内地区)総合防災訓練を川内村で実施する。
昭和61年	1月	浪江消防署庁舎防水及び外部塗装工事が完了する。 浪江消防署の水槽付ポンプ自動車(いすゞモリタME5)1台を更新する。
	4月	第6代消防長事務取扱者に双葉地方広域市町村圏組合管理者 遠藤正就任する。 富岡消防署長に秋本正夫就任する。
	5月	無人化・大熊・双葉分遣所の無線施設を廃止する。
	11月	葛尾・川内出張所内部改装工事が完了する。 (財)日本防火協会より防火広報車(ニッサンキャラバン)を寄贈される。
昭和62年	4月	第7代消防長事務取扱者に双葉地方広域市町村圏組合管理者 結城定重就任する。 浪江消防署長心得に清野清人就任する。 県より原子力防災資器材貸与される(ポケット線量計20、ポケット線量計充電器2、アラームメーター20、アラームメーター線量設定器2、アラームメーター充電器2、サーベイメーター5、空気呼吸器5)
	5月	水難並びに救助等の災害活動に、アクアリング隊の運用を開始する。 浪江町林野火災で自衛隊を要請する。(33ha 損害額2,176万円)
	8月	高所放水車のオーバーホールを実施する。 第16回全国消防救助技術大会に出場する。ロープブリッジ救出(富岡消防署)
	10月	福島県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力(株)広野火力発電所構内において、総合訓練を実施する。
	11月	福島県相双地方(大熊地区)総合防災訓練を大熊町において実施する。

昭和63年	1月	災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき、富岡町において福島県及び6町主催による原子力防災訓練に参加する。	
	4月	浪江消防署長に清野清人就任する。	
	10月	富岡消防署の広報車(ニッサンスカイラインバン)1台を更新する。	
	11月	消防本部の指令車(三菱デボネア)1台を更新する。 川内出張所の普通ポンプ自動車(三菱キャンター4WDニッキR3)1台を更新する。	
平成元年	3月	浪江消防署の救急車(トヨタハイエース)1台を更新する。	
	4月	第8代消防長事務取扱者に双葉地方広域市町村圏組合管理者 関本英勇就任する。 消防本部に課制を導入し、総務課、消防課を設置する。 浪江、富岡消防署に副署長制を導入する。 葛尾、川内出張所を分署に改称する	
	7月	第9代消防長事務取扱者に双葉地方広域市町村圏組合管理者 岩本忠夫就任する。	
	8月	台風13号により浪江消防署庁舎が床上冠水する。(60cm)	
	10月	浪江消防署の広報車(ニッサンスカイラインバン)1台を更新する。 福島県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力(株)広野火力発電所構内において、総合訓練を実施する。	
	11月	葛尾分署普通ポンプ自動車(三菱キャンター4WDGM-212)1台を更新する。 災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき、双葉町において福島県及び6町主催による原子力防災訓練に参加する。 富岡消防署庁舎の内部塗装工事を完了する。	
	12月	富岡消防署庁舎のアスベスト粉塵飛散防止工事を完了する。 浪江消防署気象観測装置のオーバーホールを完了する。	
	平成2年	3月	福島県農業共済組合連合会より救急車(ニッサン2B型)1台が寄贈される。 富岡消防署に配置する。
		4月	県より原子力防災資器材貸与される。(空気呼吸器5、ポンベ15、発電機・投光器セット2、強力ライト30、水筒100、ポリタンク10、収納箱2)
		7月	富岡消防署の広報車(トヨタマークIIバン)1台を更新する。
8月		川内分署外壁防水塗装工事を完了する。	
9月		浪江消防署の救急車(ニッサンキャラバン2B型)1台を更新する。 新準則型救急服(エミュー)を浪江、富岡消防署の救急隊員16名に貸与する。	
10月		浪江消防署東側屋根の塗装工事を完了する。	
11月		福島総合警備保障株式会社より広報車(ニッサンADバン)1台が寄贈される。 消防本部に配置する。	
12月		葛尾分署庁舎のアスベスト粉塵飛散防止工事を完了する。	
平成3年	3月	県より原子力防災資器材が貸与される。(発電機、投光器セット)	

平成3年	4月	第10代消防長事務取扱者に双葉地方広域市町村圏組合管理者 志賀秀朗就任する。 葛尾村と消防作業協力申し合わせを締結する。 富岡消防署長に池沢昭吉就任する。 大熊町を富岡消防署の管轄に変更する。	
	5月	消防職員定数条例改正、消防職員104名となる。	
	6月	第1回危険物防災訓練を大熊町富山薬品工場で実施する。	
	8月	第20回全国消防救助技術大会に出場する。ロープ登はん(富岡消防署)	
	9月	富岡消防署の救急車(ニッサンキャラバン、2B型3,000cc)1台を更新する。 葛尾、川内分署に連絡車(スズキアルトバン4WD)各1台を配置する。	
	10月	福島県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力(株)広野火力発電所構内において、総合訓練を実施する。	
	11月	災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき、楡葉町において福島県及び6町主催による原子力防災訓練に参加する。 浪江消防署東側庁舎の改修工事を完了する。	
平成4年	1月	県より原子力防災資器材貸与される。(アノラック防護服20、防護マスク20、吸収缶40、ゴム長靴20、ゴム手袋20)	
	2月	富岡消防署に救助工作車を配備する。(三菱II型)	
	4月	浪江消防署長に池沢昭吉就任する。 富岡消防署長に清野清人就任する。 川内村と消防作業協力申し合わせを締結する。	
	5月	第13回原子力所在市町村消防情報連絡会を富岡町で開催する。	
	6月	第2回危険物防災訓練を広野町三協化学で実施する。	
	8月	富岡消防署の水道管改修工事を完了する。	
	9月	楡葉分遣所の改修工事を完了する。	
	10月	楡葉救急分遣所を開所する。	
	11月	第8回福島県防火大会を浪江町で開催する。	
	12月	浪江消防署の広報車(スバルレガシー4WD)1台を更新する。	
	平成5年	2月	県より原子力防護資器材貸与される。(超軽量空気ボンベ10本、収納箱3組)
		4月	消防職員定数条例改正、消防職員116名となる。 双葉地方広域市町村圏組合管理者に叶幸一就任する。 第11代消防長に中野明就任する。(専任消防長)
6月		第3回危険物防災訓練を東京電力(株)第一原子力発電所で実施する。	
10月		救急II課程に伴う救急資器材を整備する。(浪江・富岡救急車に積載) 葛尾分署救急車(トヨタハイエース 2B型 ディーゼル2,800cc)1台を更新する。	
11月		災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき大熊町において福島県及び6町主催による原子力防災訓練に参加する。	

平成6年	2月	福島県沿岸流失油災害対策協議会を設立する。	
	3月	浪江消防署長池沢昭吉退職する。	
	4月	消防本部次長兼浪江消防署長に秋本正夫就任する。	
	6月	第4回危険物防災訓練を東京電力㈱第二原子力発電所構内で実施する。	
	8月	消防本部・浪江消防署の下水道工事を完了する。 福島県消防署長会議を当消防本部にて開催する。 第23回全国消防救助技術大会に出場する。ロープ登はん(富岡消防署)	
	9月	社団法人日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車(三菱UFK618GW型、ポンプ性能A-1級、積載水量1,700L)1台を寄贈される。 浪江消防署に配置する。	
	10月	川内・葛尾分署を増員、各11名とする。 災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき、相双地方防災訓練を楡葉町において、実施する。 福島県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力㈱広野火力発電所構内において総合訓練を実施する。	
	11月	第20回福島県下消防職員親善剣道大会を当消防本部にて開催する。 救急Ⅱ課程に伴う救急資器材を整備する。(川内・楡葉救急車に積載)	
	12月	富岡消防署事務室の改修工事を完了する。 葛尾分署事務室の改修工事を完了する。 救助資器材を整備する。(浪江消防署)	
	平成7年	3月	富岡消防署雨漏れ改修工事を完了する。 楡葉分遣所下水道工事を完了する。
		4月	双葉地方広域市町村圏組合管理者に渡邊尊之就任する。 当消防本部に初の救急救命士が誕生する。
		6月	第5回危険物防災訓練を大熊町みどり化学㈱大熊工場内で実施する。
8月		第23回福島県下消防職員親善卓球大会を当消防本部にて開催する。	
9月		救急Ⅱ課程に伴う救急資器材を整備する。(葛尾救急車に積載) 楡葉分遣所の車庫増築工事を完了する。 楡葉町、広野町消防活動協力申し合わせの締結をする。	
10月		楡葉分遣所に水槽付ポンプ自動車(いすゞ・モリタME5)1台を配置し、運用を開始する。 2人目の救急救命士が誕生する。	
11月		災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき、富岡町において福島県及び6町主催による原子力防災訓練に参加する。 富岡消防署食堂及びホース干し場の改修工事を完了する。 浪江消防署軒樋改修工事を完了する。	
平成8年		1月	楡葉分遣所ホース干し場工事を完了する。
	3月	富岡消防署の訓練用照明装置取り付け工事を完了する。	

平成8年	3月	浪江消防署・富岡消防署消防用設備の改修工事を完了する。 富岡消防署長 清野清人退職する。	
	4月	富岡消防署長に遠藤輝男就任する。	
	6月	第6回危険物防災訓練を榎葉町いわき沖石油開発株構内で実施する。	
	8月	浪江消防署資器材搬送車を更新する。(トヨタダイナ ディーゼル2トン車) 富岡消防署西側車庫改修工事を完了する。	
	9月	葛尾分署オーバードアー設置工事を完了する。 浪江消防署訓練塔改修工事を完了する。	
	10月	福島県から原子力防災活動車両(マイクロバス)が配備される。 (トヨタコースター25人乗り) 双葉地方危険物安全協会創立20周年記念式典を浪江町で開催する。 葛尾分署庁舎防水塗装工事を完了する。	
	12月	浪江消防署庁舎補修・外壁防水塗装工事を完了する。 富岡消防署の広報車(スバルレガシィ4WD 2,000cc)1台を更新する。	
	平成9年	3月	双葉地方消防受援計画を制定する。 浪江消防署吸水管取替工事を完了する。 富岡消防署雨漏等補修工事を完了する。 葛尾分署庁舎屋根塗装工事を完了する。
		4月	双葉地方広域市町村圏組合管理者に松本允秀就任する。 3人目の救急救命士が誕生する。
		6月	第7回危険物防災訓練を東京電力(株)広野火力発電所構内で実施する。
		10月	「港湾・ヘリポート施設使用協定」を東京電力(株)第一原子力発電所、福島第二原子力発電所、広野火力発電所と締結する。 4人目の救急救命士が誕生する。 第16回福島県下消防職員親善野球大会を当消防本部にて開催する。 災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき、相双防災訓練を浪江町において実施する。 福島県消防長会総務担当者会議を当消防本部にて開催する。
		11月	災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき、双葉町において福島県及び6町主催の原子力防災訓練に参加する。
12月		福島県広域消防相互応援協定締結する。	
平成10年		2月	高規格救急自動車(ニッサンパラメディックⅡ)が山之内製薬(株)から寄贈され、富岡消防署に配置し、3月14日から運用を開始する。
	3月	携帯119受信転送に係る協定(いわき市消防本部)を締結する。	
	4月	消防職員定数条例改正、消防職員118名となる。 消防本部の組織を一部改正し、総務課に財政係を置く。 消防本部次長兼総務課長に秋本正夫就任する。 浪江消防署長に遠藤恒男就任する。 榎葉分遣所を分署に格上げし、署員13名を配置する。	

平成10年	4月	<p>楯葉分署に広報車(スバルレガシー4WD 2,000cc)1台を配置する。 広野町と消防活動協力申し合わせを締結する。</p>
	6月	<p>第8回危険物防災訓練を広野町三協化学で実施する。</p>
	8月	<p>双葉地方広域市町村圏組合消防計画を制定する。</p>
	10月	<p>第23回予防・警防・救急実務研究会(救急部門)を当消防本部で開催する。 災害対策基本法及び福島県地域防災計画に基づき、相双地方総合防災訓練を葛尾村で実施する。 福島県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力株広野火力発電所構内において総合訓練を実施する。 5人目の救急救命士が誕生する。</p>
平成11年	1月	<p>富岡消防署はしご付き高所放水車(30m級森田)を更新する。</p>
	2月	<p>浪江町林野火災で、福島県防災ヘリ、自衛隊を要請する。(24.8ha)福島県相互応援協定に基づき4消防本部の応援を受ける。消防組織法24条の3に基づき東京消防庁、群馬、栃木、宮城各県防災ヘリの応援を受ける。 富岡町トミパーク火災で、(暴風警報発令中)大熊、楯葉町各消防団の応援を受ける。</p>
	3月	<p>消防本部消防長 中野明退職する。 浪江消防署長 遠藤恒男退職する。</p>
	4月	<p>双葉地方広域市町村圏組合管理者に草野孝就任する。 第12代消防長に秋本正夫就任する。 浪江消防署長心得に秋元正就任する。</p>
	6月	<p>第9回危険物防災訓練を東京電力株福島第二原子力発電所で実施する。 富岡消防署の食堂防水工事を完了する。</p>
	7月	<p>川内分署下水道改修工事を完了する。 富岡町建物(養鶏所)火災(損害額2億6千万円)</p>
	8月	<p>福島県相互応援協定に基づき、初の県隊総合訓練に参加する。</p>
	9月	<p>天皇皇后行幸啓に伴う特別警戒を実施する。 MOX燃料搬入に伴う特別警戒(第一原子力発電所)を実施する。</p>
	10月	<p>6人目の救急救命士が誕生する。</p>
	12月	<p>浪江消防署・富岡消防署の普通ポンプ自動車各1台を更新する。(日野4WD-CD1)「Y2K」に伴う特別警戒を実施する。 火災原因調査に係る相互応援協定を県内各消防本部と締結する。</p>
平成12年	2月	<p>平成11年度福島県原子力防災訓練を楯葉町で実施する。</p>
	3月	<p>福島県共済農業協同組合連合会より救急車(トヨタ2B型)1台が寄贈される。 楯葉分署に配置する。 消防本部消防長 秋本正夫退職する。</p>
	4月	<p>消防職員定数条例改正、消防職員127名となる。 第13代消防長に遠藤輝男就任する。 富岡消防署長に秋元正就任する。</p>

平成12年	4月	浪江消防署長に志賀節夫就任する。 原浪トンネル開通に伴う防災訓練を相馬地方広域消防本部と合同で実施する。 7人目の救急救命士が誕生する。
	5月	双葉地方防火管理者協議会創立20周年記念式典を開催する。
	6月	第10回危険物施設防災訓練を第一原子力発電所で実施する。
	10月	8人目の救急救命士が誕生する。
	11月	平成12年度福島県原子力防災訓練を大熊町、双葉町で実施する。
平成13年	2月	高規格救急自動車(トヨタハイメディック)を浪江消防署に配備し運用開始する。
	4月	富岡消防署長に山田恭二就任する。 消防本部行政改革推進本部及び行政改革検討部会を設置する。 9人目の救急救命士が誕生する。 県消防防災航空隊に職員を派遣する。
	6月	第11回危険物施設防災訓練を大熊町みどり化学で実施する。
	10月	平成13年度福島県相双地方総合防災訓練を富岡町で実施する。 10人目の救急救命士が誕生する。
	11月	第1回消防職員意見発表会を楡葉町で開催する。 平成13年度福島県原子力防災訓練を富岡町・楡葉町で実施する。
	12月	楡葉分署新庁舎が完成する。
平成14年	1月	消防本部出初め式を浪江消防署で実施する。 常磐自動車道消防相互応援協定をいわき市との間に締結する。 楡葉分署を開署する。
	3月	常磐自動車道広野IC供用開始に伴う事前防災訓練をいわき市消防本部と合同実施する。 浪江消防署長 志賀節夫退職する。
	4月	双葉地方広域市町村圏組合管理者に岩本忠夫就任する。 消防本部次長兼総務課長に秋元正就任する。 浪江消防署長に吉川定就任する。 組織機構改革を行い、葛尾・川内分署を出張所に改称する。 楡葉分署に高速救急隊を増設、大型化学車を富岡消防署から配置替えし、警防係、予防係、救急係を設置する。 浪江・富岡消防署の副署長を、交代制勤務で2人制とする。 貸与品を見直して、消防吏員服制基準に基づく制服を採用する。
	5月	原子力発電所における消防活動に関する消防機関と事業者との協定を改定する。
	6月	第12回危険物施設防災訓練を広野町三協化学で実施する。
	9月	双葉地方救急フェアを初めて開催する。
	10月	福島県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力広野火力発電所内において総合訓練を実施する。 平成14年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練に参加する。

平成14年	11月	平成14年度福島県原子力防災訓練を大熊町・双葉町で実施する。 第2回消防職員意見発表会を双葉町で開催する。 福島県から原子力防災活動車両（トヨタエスティマ）が配備される。
平成15年	1月	消防本部出初め式を富岡消防署で実施する。 不審火の増加に伴い「対策会議」を設置し、警戒態勢を強化する。
	4月	双葉地方広域市町村圏組合管理者に遠藤勝也就任する。 包括的除細動を開始する。 11人目の救急救命士が誕生する。
	7月	救急救命士養成専門学校生の同乗実習指導を行う。 緊急消防援助隊福島県隊合同訓練に参加する。
	9月	2003双葉地方救急フェアを実施する。
	11月	平成15年福島県原子力防災訓練を楡葉町、富岡町で実施する。 第3回消防職員意見発表会を富岡町で開催する。 消防本部の指令車を更新する。（トヨタクラウン） 浪江消防署・富岡消防署合同による山岳救助訓練を実施する。 12人目の救急救命士が誕生する。
平成16年	1月	消防本部出初め式を浪江消防署で実施する。
	2月	東京電力(株)広野火力発電所より化学車が寄贈される。楡葉分署に配備する。
	3月	消防本部消防長 遠藤輝男退職する。 浪江消防署長 吉川定退職する。 福島県から原子力防災活動車両(ニッサンキャラバン)が配備される。 富岡消防署の原液搬送車を更新する。 常磐自動車道 常磐・富岡IC共用に伴う事前防災訓練を実施する。
	4月	第14代消防長に秋元正就任する。 浪江消防署長に大和田幹夫就任する。
	6月	大熊町で多数傷病者事故が発生する。（マイクロバスの転落により重軽傷者25名）
	9月	消防本部ネットワークを構築し、運用を開始する。 平成16年度相双地方(広野地区)総合防災訓練を広野町で実施する。 川内・葛尾出張所の連絡車を更新する。（スズキワゴンR） 2004双葉地方救急フェアを開催する。 富岡消防署下水道工事が完了し、供用を開始する。
	10月	新潟県中越地震被災地に緊急消防援助隊福島県隊として隊員7名を派遣する。 楡葉分署に高規格救急車を配備し、運用を開始する。 消防本部ホームページを開設する。
	11月	第4回消防職員意見発表会を浪江町で開催する。 平成16年度福島県原子力防災訓練を大熊町・双葉町で実施する。 浪江消防署訓練塔・ホース乾燥塔改修工事を完了する。 葛尾出張所庁舎内装改修工事を完了する。

平成16年	12月	浪江消防署の広報車を更新する。(トヨタカルディナ) 新潟中越地震被災地で緊急援助隊福島県隊として活動、地域の安全確保に貢献し、消防庁長官より褒状を授与される。
平成17年	1月	消防本部出初め式を富岡消防署で実施する。
	2月	富岡消防署に原子力防災資機材搬送車両が配置される。 (ニッサン・キャラバン)
	4月	双葉地方広域市町村圏組合管理者に小松真就任する。 13人目の救急救命士が誕生する。
	7月	富岡消防署に高規格救急車(災害対応救急車)を配備する。 (トヨタ・グランビア)
	8月	緊急消防援助隊福島県隊合同訓練に参加する。(福島市)
	9月	平成17年度福島県総合防災訓練に参加する。(福島市) 2005双葉地方救急フェアを富岡町で開催する。
	11月	第5回消防職員意見発表会を大熊町で開催する。 14人目の救急救命士が誕生する。 平成17年度福島県原子力防災訓練を2日間に渡り実施する。
	12月	富岡消防署耐震工事を完了する。 富岡消防署事務室アスベスト除去工事を完了する。
平成18年	1月	消防本部出初め式を浪江消防署で実施する。 双葉地方広域市町村圏組合管理者に横山藏人就任する。
	2月	浪江消防署通信指令室にて携帯119番直接受信を開始する。
	3月	浪江消防署西側車庫のアスベスト除去工事を完了する。 葛尾出張所アスベスト除去工事を完了する。
	4月	消防本部次長兼浪江消防署長に山田恭二就任する。 富岡消防署長に増田正成就任する。 消防本部に原子力防災資機材搬送車両配備される。(ニッサンキャラバン) 富岡消防署檜葉分署に原子力防災資機材搬送車両が配備される。 (ニッサンキャラバン) 15人目の救急救命士が誕生する。
	5月	双葉地方危険物安全協会創立30周年記念式典を開催する。
	6月	富岡消防署川内出張所新築工事安全祈願祭を執り行う。
	8月	平成18年度福島県消防署長会議を当消防本部にて開催する。 緊急消防援助隊福島県隊合同訓練に参加する。(いわき市)
	9月	平成18年度福島県総合防災訓練に参加する。(いわき市) 平成18年度福島県相双地方(川内地区)総合防災訓練を川内村で実施する。 ふたば救急フェア2006を大熊町で開催する。
	10月	福島県石油コンビナート等防災計画に基づき、東京電力株式会社広野火力発電所内において総合訓練を実施する。
	11月	第6回双葉地方広域消防職員意見発表会を広野町で開催する。

平成19年	1月	消防本部出初め式を富岡消防署で実施する。 富岡消防署のタンク車を更新し、災害対応特殊水槽付ポンプ車として配備する。	
	2月	平成18年度福島県原子力防災訓練を2日間に渡り実施する。(大熊町) 浪江消防署庁舎東側屋根の補修工事を完了する。 川内出張所新庁舎にて消防業務を開始する。	
	4月	16人目の救急救命士が誕生する。	
	8月	第36回全国消防救助技術大会に出場する。ロープブリッジ救出(富岡消防署) 緊急消防援助隊福島県隊合同訓練に参加する。(白河市)	
	9月	平成19年度福島県総合防災訓練に参加する。(白河市) ふたば救急フェア2007を富岡町で開催する。	
	10月	平成19年度福島県原子力防災訓練を2日間に渡り実施する。(楡葉町)	
	11月	第7回双葉地方広域消防職員意見発表会を葛尾村で実施する。 構成各町村と関係医療団体及び当組合間で、「災害・武力攻撃事態等における医療救護活動協定」を締結する。	
	平成20年	1月	双葉地方広域市町村圏組合管理者に遠藤雄幸就任する。 消防本部出初め式を浪江消防署で実施する。 川内出張所に高規格救急車を配備する。(トヨタハイエース)
		2月	楡葉分署のタンク車を災害対応特殊水槽付き消防ポンプ自動車(I-B型)に更新する。(日野4WD)
		3月	消防本部次長兼浪江消防署長山田恭二退職する。
		4月	消防本部次長兼総務課長に大和田幹夫就任する。 浪江消防署長に柴繁就任する。 17・18人目の救急救命士が誕生する。
5月		富岡消防署の救急滅菌室を改修する。	
6月		岩手・宮城内陸地震被災地に緊急消防援助隊福島県隊として7名を派遣する。 浪江消防署西側階段を改修する。	
7月		岩手沿岸北部地震被災地に緊急消防援助隊福島県隊として7名を派遣する。 JRとの鉄道事故対応合同訓練を浪江駅で実施する。	
8月		福島県相双地方総合防災訓練及び災害時要援護者避難訓練を実施する。(楡葉町) 緊急消防援助隊福島県隊合同訓練に参加する。(喜多方市)	
9月		平成20年度福島県総合防災訓練に参加する。(喜多方市) 双葉BLSフェスタ2008を富岡町で開催する。	
10月		平成20年度原子力総合防災訓練を実施する。(国主催・大熊町)	
11月		第8回双葉地方広域消防職員意見発表会を川内村で実施する。	
平成21年	1月	消防本部出初め式を富岡消防署で実施する。	
	2月	葛尾出張所に高規格救急車を配備する。(ニッサンパラメディック) 川内出張所の消防ポンプ車を更新する。(CD-1型)	

平成21年	3月	次長兼総務課長 大和田幹夫退職する。 富岡消防署長 増田正成退職する。
	4月	消防本部次長兼浪江消防署長に柴繁就任する。 富岡消防署長に吉田繁雄就任する。 救急業務高度化推進検討部会を設置する。 19・20人目の救急救命士が誕生する。 檜葉・広野連続不審火に伴い、対策本部を設置し警戒態勢を強化する。
	6月	新型インフルエンザ拡大により、業務継続計画を策定する。
	7月	第30回原子力所在市町村消防情報連絡会を檜葉町で開催する。
	8月	第38回全国救助技術大会に出場する。引揚救助・ロープブリッジ渡過(浪江消防署) 緊急消防援助隊福島県隊合同訓練に参加する。(郡山市) 平成21年度福島県総合防災訓練に参加する。(郡山市)
	9月	双葉BLSフェスタ2009を大熊町で開催する。 福島県消防長会総務担当者研修会を当消防本部にて開催する。 第12回福島県消防職員親善サッカー大会を当消防本部にて開催する。
	10月	平成25年度消防救急無線デジタル化に向けた高機能指令装置整備検討会を設置する。 第6回福島県消防職員親善野球大会を当消防本部にて開催する。 平成21年度福島県相双地方(双葉地区)総合防災訓練を双葉町で実施する。
	11月	第9回双葉地方広域消防職員意見発表会を檜葉町で実施する。
	12月	福島県国民保護共同(原子力防災)訓練を実施する。(檜葉町・富岡町) 浪江消防署訓練塔(副塔)改修工事を完了する。
平成22年	1月	消防本部出初め式を浪江消防署で実施する。 浪江消防署の高規格救急車(災害対応救急自動車)を更新する。 (トヨタハイメディック) 檜葉分署の広報車を更新する。(トヨタサクシード)
	2月	葛尾出張所の消防ポンプ自動車(CD-1型)を更新する。
	4月	21・22人目の救急救命士が誕生する。
	5月	双葉地方防火管理者協議会設立30周年記念式典を浪江町で開催する。
	8月	緊急消防援助隊福島県隊合同訓練に参加する。(相馬市)
	9月	平成22年度福島県総合防災訓練に参加する。(相馬市) 双葉BLSフェスタ2010を大熊町で開催する。
	10月	富岡消防署の広報車を更新する。(スバル・アウトバック) 経済産業省原子力安全保安院「原子力安全規制情報会議」へ、原子力発電所等所在消防本部代表として消防長が出席する。 平成22年度福島県石油コンビナート総合防災訓練に参加する。(広野町) 化学消火薬剤原液タンク(4,000ℓ)の界面活性消火薬剤を、水性膜消火薬剤に入れ替える。
	11月	第10回双葉地方広域消防職員意見発表会を双葉町で開催する。

平成22年	11月	平成22年度福島県原子力防災訓練に参加する。(国主催・双葉町) 平成22年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練に参加する。(郡山市) 双葉地方広域消防本部消防計画を一部改正する。
	12月	浪江消防署西棟・中央棟耐震診断を実施する。 デジタル消防・救急無線電波伝搬調査を実施する。 平成22年中、当消防本部管内の火災件数、損害額とも発足以来最小記録を更新する。
平成23年	1月	消防出初め式を富岡消防署で実施する。
	3月	11日(14時46分)東北地方太平洋沖地震が発生する。 (震度6強：浪江町・双葉町・大熊町・富岡町・楡葉町/震度6弱：広野町・川内村/震度5強：葛尾村) 11日(14時49分)気象庁は太平洋沿岸に大津波警報を発令する。 浪江消防署に「消防指揮本部」、富岡消防署に「現地指揮本部」を設置する。 二次非常配備命令を発令する。 内閣総理大臣は「東京電力(株)福島第二原子力発電所10km圏内避難指示」を発令する。 内閣総理大臣は「東京電力(株)福島第一原子力発電所20km圏内避難指示」を発令する。 消防本部・富岡消防署及び楡葉分署機能を川内出張所へ、浪江消防署機能を葛尾出張所へ車両人員と併せそれぞれ移転する。 消防本部消防長秋元正退職する。 消防本部総務課長佐藤光一退職する。
	4月	第15代消防本部消防長に柴繁就任する。 消防本部次長兼浪江消防署長に吉田繁雄就任する。 富岡消防署長に西村栄一就任する。 消防本部総務課長に岡田雄一就任する 消防本部消防課長に安倍一夫就任する。 総理は原子力災害特別措置法第20条第3項に基づき、東京電力(株)福島第一原子力発電所から20km圏内を「警戒区域」に指定する。 東京電力(株)福島第二原子力発電所10km圏内避難指示が8kmに縮小される。 23・24人目の救急救命士が誕生する。
	5月	消防本部総務課付職員を福島県(消防学校教官)に派遣する。
	6月	双葉地方広域市町村圏組合管理者に井戸川克隆就任する。 消防本部消防長柴繁退職する。 警戒区域外となった楡葉分署を再開し、川内出張所に移転した富岡消防署及び楡葉分署の人員車両を、楡葉分署へ再配備する。 葛尾出張所に移転していた浪江消防署及び葛尾出張所の人員車両を、川内出張所へ再移転する。 葛尾出張所消防体制を川内出張所からの派遣体制とする。

平成23年	6月	総務省消防庁の「緊急時メンタルサポートチーム」派遣支援により、職員のメンタルケアを実施する。
	7月	第16代消防本部消防長に吉田繁雄就任する。 浪江消防署長に岡田雄一就任する。 消防本部総務課長に大和田仁就任する。
	8月	福島県立医科大学附属病院において、WBCによる全職員の第1回目内部被ばく検査が完了する。
	9月	東日本大震災並びに福島第一原子力発電所災害に係る「消防本部復旧計画書」を策定する。 放射線医学総合研究所から講師を招き、互助会事業の一環として「放射線防護に関する研修会」を実施する。
	10月	「双葉地方広域市町村圏組合消防本部における放射線活動要綱」を制定し施行する。
	11月	福島県消防長会議において福島県広域応援隊の活動方針が協議され、「福島県広域消防相互応援協定に基づく警戒区域及び計画的避難区域内の広域応援隊の活動方針」を策定、施行する。 東日本大震災に対して特に顕著な功績があった団体として「総務大臣表彰」を受章する。
	12月	福島県立医科大学附属病院において、WBCによる全職員の第2回目内部被ばく検査が完了する。
平成24年	1月	「消防業務に従事する職員の被ばく線量管理計画」を策定し施行する。 消防本部復興対策検討委員会並びに復興対策準備委員会を設置する。
	2月	大容量送水システム(ドラゴンブーストユニット)一式・水槽付消防ポンプ車1台・資機材搬送車2台を大阪市消防局から無償譲渡を受け、楡葉分署に配備する。
	3月	福島県立医科大学附属病院において、WBCによる全職員の第3回目内部被ばく検査が完了する。 総務省消防庁の「緊急時メンタルサポートチーム」派遣支援により、職員のメンタルケアを実施する。 愛知県 新城市から10トンの水槽付消防ポンプ車1台の無償譲渡を受け楡葉分署に配備する。 静岡県富士市から10トンの水槽付消防ポンプ車1台の無償譲渡を受け川内出張所に配備する。 原子力災害緊急消防援助隊等活動交付金により、警戒区域の5町(楡葉町・富岡町・大熊町・双葉町・浪江町)に監視カメラを設置する。 原子力災害緊急消防援助隊等活動交付金により、楡葉分署及び川内出張所に仮設車庫を設置する。 JA福島共済連から高規格救急車(トヨタハイメディック)1台の寄贈を受け、楡葉分署に配備する。 消防本部消防長吉田繁雄退職する。

平成24年	4月	<p>第17代消防本部消防長に西村栄一就任する。</p> <p>消防本部消防課長に佐藤敏彦就任する。</p> <p>富岡消防署長に安倍一夫就任する。</p> <p>消防本部事務機能を広野町サッカー支援センター柵荘内に移転する。</p> <p>消防原子力災害対策本部を榎葉分署に移設する。</p> <p>県消防防災航空隊に当職員を派遣する。</p>
	5月	<p>総務省消防庁 久保信保長官が来訪し、職員激励並びに管内巡視を実施する。</p>
	6月	<p>榎葉分署敷地内に建設されている消防本部臨時的活動拠点（仮庁舎）の安全祈願祭を実施する。</p> <p>日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院長 山本保博先生を講師に招き災害救急医療について「双葉救急講演会」を実施する。</p> <p>消防本部・浪江消防署庁舎並びに敷地内の先行除染が実施される。</p>
	7月	<p>原子力災害緊急消防援助隊等活動交付金により、浪江町8基、双葉町8基、大熊町12基、富岡町4基 合計32基の仮設防火水槽設置が完了する。</p> <p>富岡消防署庁舎並びに敷地内の先行除染が実施される。</p> <p>福島県立医科大学から講師を招き、互助会事業として「放射線被ばくに関する勉強会」を開催し、過去3回のWBC結果に対する評価等について講義を受ける。</p>
	8月	<p>川内出張所第二事務所を、職員の待機宿舎として借用していた川内村中学校寄宿舎に開設し、本格運用を開始する。</p>
	9月	<p>救急振興財団 救急救命東京研修所 田邊晴山教授を講師に招き救命士の処置拡大等の最新情報について「双葉救急研修会」を実施する。</p> <p>東日本大震災に対して顕著な功績があった団体として「平成24年度防災功労者内閣総理大臣表彰」を受章する。</p> <p>原子力災害緊急消防援助隊等活動交付金により、水中ポンプ（発電機、操作盤）を購入し浪江消防署（川内出張所）へ配備する。</p> <p>原子力災害緊急消防援助隊等活動交付金により、消防本部臨時的活動拠点（仮庁舎）が榎葉分署敷地内に完成する。施行業者：（株）泉田組</p>
	10月	<p>消防本部臨時的活動拠点（仮庁舎）開所する。</p> <p>福島県立医科大学附属病院において、WBCによる全職員の第4回目内部被ばく検査が完了する。</p>
	11月	<p>原子力災害緊急消防援助隊等活動交付金により、救助工作車を購入し富岡消防署（榎葉分署）に配備する。</p> <p>総務省消防庁 岡崎浩巳長官が来訪し、職員激励並びに管内巡視を実施する。</p> <p>白河・須賀川・郡山の三消防本部合同訓練が川内村で実施される。</p> <p>第11回双葉地方広域消防職員意見発表会を広野町で開催する。</p>
	12月	<p>双葉地方広域市町村圏組合管理者に山田基星就任する。</p>
平成25年	2月	<p>総務省消防庁から支援車 I 型1台の無償使用を受け、消防本部に配備する。</p>
	3月	<p>広野町といわき市の境界で発生した林野火災により、いわき市消防本部と共同で消火活動にあたる。（広野町7.2ha、いわき市0.6ha）</p>

平成25年	3月	<p>また、福島県広域消防相互応援協定に基づき県内2消防本部の応援を受ける。厚生労働省DMAT事務局近藤久禎先生をはじめ5名の先生を招聘し、局地災害時の対応や多数傷病者の対応について「第3回双葉救急研修会」を実施する。福島県から配備されている原子力防災活動車両（ワンボックスカー）を更新する。（トヨタエスティマ）</p> <p>福島県立医科大学附属病院において、WBCによる全職員の第5回目内部被ばく検査が完了する。</p> <p>楡葉分署に救助訓練塔が落成する。</p> <p>福島支援全国消防派遣隊発隊式を実施する。</p> <p>富岡消防署長安倍一夫退職する。</p> <p>消防本部消防課長佐藤敏彦退職する。</p>
	4月	<p>消防本部消防課長に渡邊敏行就任する。</p> <p>富岡消防署長に遠藤充就任する。</p> <p>福島支援全国消防派遣隊との合同業務を開始する。</p> <p>浪江消防署臨時庁舎として浪江町役場労働組合事務所を借用し、派遣体制での業務を開始する。</p> <p>大阪市消防局から資機材搬送車2台の無償譲渡を受け、楡葉分署に1台、川内出張所に1台配備する。</p> <p>25・26人目の救急救命士が誕生する。</p>
	5月	<p>多数傷病者対応訓練に参加する。（飯館村）</p>
	6月	<p>医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第6回目内部被ばく検査が完了する。</p>
	8月	<p>原子力災害避難指示区域消防活動費交付金交付事業により、クーリングベスト121着、救命胴衣22着を購入する。</p> <p>平成25年度緊急消防援助隊福島県隊合同訓練に参加する。（二本松市）</p>
	9月	<p>平成25年度福島県総合防災訓練に参加する。（二本松市）</p> <p>厚生労働省DMAT事務局 小早川義貴先生、救急振興団 救急救命東京研修所 田邊晴山教授を招聘し「第4回双葉救急研修会」を実施する。</p> <p>双葉消防本部支援調整会議が設置され、総務省消防庁 大石利雄長官が出席し、第1回会議が福島市で開催する。</p> <p>総務省消防庁 大石利雄長官が来訪し、職員激励を実施する。</p> <p>福島支援全国消防派遣隊の業務が終了し、帰隊式を実施する。</p>
	10月	<p>福島県消防長会議において福島県広域応援の救急活動方針が協議され「福島県広域消防相互応援協定に基づく東京電力福島第一原子力発電所での多数傷病者発生時における広域応援隊の活動方針」を策定、施行する。</p> <p>医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第7回目内部被ばく検査が完了する。</p>
	11月	<p>第12回双葉地方広域消防職員意見発表会を川内村で開催する。</p> <p>原子力災害避難指示区域消防活動費交付金交付事業により、土壌・水中放射線量測定器5基を購入する。</p>

平成25年	11月	郡山消防本部と火災対応合同訓練を実施する。（田村市都路町）
		相馬消防本部と火災対応合同訓練を実施する。（南相馬市）
	12月	双葉地方広域市町村圏組合管理者に渡辺利綱就任する。
平成26年	2月	浪江町(避難指示解除準備区域)で発生した建物火災により、福島県広域消防相互応援協定に基づき県内8消防本部の応援を受ける。 常磐自動車道広野ICから常磐富岡ICの再開通に伴う交通事故救護訓練を福島県警察高速道路交通警察隊と合同で実施する。
	3月	福島県から配備されている原子力防災活動車両（資機材搬送車）を更新する。（三菱デリカD：5） 消防防災設備災害復旧補助金事業にて、浪江消防署の高規格救急車（ニッサンパラメディック）及び、楡葉分署の高規格救急車（ニッサンパラメディック）、富岡消防署の高規格救急車（ニッサンパラメディック）を更新する。 医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第8回目内部被ばく検査が完了する。 JRとの津波避難訓練会を広野町で実施する。 消防本部消防長西村栄一退職する。 浪江消防署長岡田雄一退職する。 富岡消防署長遠藤充退職する。
	4月	第18代消防長事務取扱に浪江町長馬場有就任する。 消防本部次長に大和田仁就任する。 消防本部総務課長に渡邊敏行就任する。 消防本部消防課長に金澤文男就任する。 浪江消防署長に末永孝二就任する。 富岡消防署長に中嶋忠就任する。 消防本部消防課に通信指令係を設置する。 26・27人目の救急救命士が誕生する。 浪江消防署の臨時的活動拠点として、浪江町サンシャインなみえを借用し本格運用を開始する。
	5月	福島県広域消防相互応援協定に基づく避難指示区域内における大規模火災対応訓練を、福島県防災航空センター及び県内12消防本部の協力のもと、浪江町で実施する。
	6月	医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第9回目内部被ばく検査が完了する。
	7月	消防・救急デジタル無線及び高機能指令装置の運用開始に伴い、消防・救急デジタル無線等運用開始式を実施する。 原子力災害避難指示区域消防活動費交付金交付事業により、可搬式消防ポンプ2台を購入し浪江消防署と富岡消防署に配備する。 避難指示区域内での多数傷病者発生事故に備え、多数傷病者対応訓練（机上訓練）を、県内医療機関、DMAT、防災航空センター、県内12消防本部の協力のもと、楡葉町立楡葉小学校で実施する。

平成26年	8月	<p>常磐自動車道消防相互応援協定を相馬地方広域消防本部と締結する。</p> <p>総務省消防庁を訪問する。消防庁消防・救急課山越伸子消防救急課長へ、「双葉消防本部支援調整会議」での双葉消防が抱える課題解決の支援要請と、新たな施設・設備整備の要望をする。</p> <p>原子力災害避難指示区域消防活動費交付金交付事業により、フローティングストレーナー14基を購入し各署所に配備する。</p> <p>緊急消防援助隊福島大隊合同訓練に参加する。（須賀川市）</p> <p>平成26年度福島県総合防災訓練に参加する。（須賀川市）</p>	
	9月	<p>原子力災害現地対策本部高木陽介本部長、内閣府原子力被災者生活支援チーム後藤収審議官が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。</p>	
	10月	<p>情報発信性を高めるため、消防本部ホームページを一新する。</p> <p>職員の心身の健康保持、増進を目的に、福島県立医科大学附属病院災害医療総合学習センター医学博士の熊谷敦史先生に産業医を委嘱する。</p> <p>原子力災害避難指示区域消防活動費交付金交付事業により、燃料保管庫3台を購入し浪江消防署、楡葉分署、川内出張所に設置する。</p> <p>医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第10回目内部被ばく検査が完了する。</p> <p>常磐自動車道浪江IC-南相馬IC間の開通に伴う調査を、相馬地方広域消防本部と合同で実施する。</p>	
	11月	<p>原子力災害避難指示区域消防活動費交付金交付事業により、救助訓練塔（副塔）を楡葉分署敷地内に整備する。</p> <p>第13回双葉消防本部職員意見発表会を広野町で開催する。</p>	
	12月	<p>福島県消防長会警防実務研修会・消防職員惨事ストレス研修会を、当消防本部管内の施設であるJヴィレッジで開催する。</p>	
	平成27年	1月	<p>平成27年出初め式を、4年ぶりに楡葉分署で開催する。</p>
		2月	<p>全国消防長会 大野博見事務総長が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。総務省消防庁 坂本森男長官が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。</p> <p>消防防災設備災害復旧費補助金により、浪江消防署の高規格救急車（双葉救急21）、葛尾出張所の高規格救急車（双葉救急23）を更新する。</p>
		3月	<p>常磐自動車道富岡IC・浪江IC間が再開通し、常磐自動車道が全線開通する。</p> <p>医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第11回目内部被ばく検査が完了する。</p> <p>浪江消防署長末永孝二退職する。</p> <p>消防本部消防長事務取扱馬場有退任する。</p>
		4月	<p>第19代消防長事務取扱に楡葉町長松本幸英就任する。</p> <p>浪江消防署長に加勢信二就任する。</p> <p>浪江消防署臨時庁舎、葛尾出張所の人員派遣体制を固定化する。</p> <p>28・29人目の救急救命士が誕生する。</p> <p>平成27年度多数傷病者対応訓練（机上訓練）に参加する。（いわき市）</p>

平成27年	5月	<p>福島県広域消防相互応援協定に基づく避難指示区域内における大規模火災対応訓練を、福島県防災航空センター及び県内12消防本部の協力のもと、楡葉町で実施する。総務省消防庁及び福島県危機管理部、オフサイトセンター、東京電力株式会社、緊急消防援助隊（宮城県、山形県、栃木県、新潟県）が参観する。</p> <p>「平成26年度消防防災施設災害復旧費補助金」（繰越明許）の交付を受け、東日本大震災で被災した、富岡消防署楡葉分署及び川内出張所庁舎の補修工事を実施する。</p>	
	6月	医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第12回目内部被ばく検査が完了する。	
	7月	福島県広域応援協定に基づく応援隊及び緊急消防援助隊の消防活動上に必要な装備として、クーリングベスト及び、防護服等一式155名分を購入する。	
	8月	平成27年度緊急消防援助隊福島県大隊合同訓練に参加する。（南相馬市） 平成27年度福島県総合防災訓練に参加する。（南相馬市）	
	9月	楡葉町の避難指示が、解除される。	
	10月	<p>総務省消防庁 佐々木敦朗長官が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。</p> <p>医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第13回目内部被ばく検査が完了する。</p> <p>平成27年度福島県石油コンビナート総合防災訓練に参加する。（広野町）</p> <p>平成27年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練に当消防本部として初参加する。（岩手県北上市）</p> <p>原子力災害避難指示区域消防活動費交付金により、浪江消防署のCAFS搭載水槽付消防ポンプ自動車（I-B型）・消防ポンプ自動車（CD-1型）及び富岡消防署の消防ポンプ自動車（CD-1型）を更新する。</p> <p>消防本部の指揮車を更新する。（トヨタエスクァイア）</p>	
	11月	<p>富岡消防署の臨時拠点として、富岡町第一分団屯所を借用し、派遣体制での運用を開始する。</p> <p>平成27年度福島県相双地方（広野地区）総合防災訓練に参加する。</p>	
	12月	<p>第14回双葉消防本部職員意見発表会を楡葉町で開催する。</p> <p>全国消防長会 須貝俊司事務総長が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。</p>	
	平成28年	1月	<p>平成28年出初め式を楡葉分署で開催する。</p> <p>避難指示区域内での多数傷病者発生事故に備え、平成27年度多数傷病者対応訓練を、富岡町文化交流センター学びの森で実施する。</p>
		3月	<p>双葉消防本部東日本大震災5周年追想式を実施し、震災から5年の活動を収録した「消防活動記録誌=双葉消防の戦い=」を発刊する。</p> <p>医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第14回目内部被ばく検査が完了する。</p> <p>消防本部消防長事務取扱松本幸英退任する。</p>
		4月	<p>第20代消防長に大和田仁就任する。</p> <p>30・31人目の救急救命士が誕生する。</p>

平成28年	4月	<p>福島県消防学校 丹野裕一学校長を講師に招き、消防職員スキルアップ研修会を広野町サッカー支援センターで開催する。</p> <p>福島県から配備されている原子力防災活動車両(資機材搬送車)の更新に伴い配備式を実施する。(三菱 デリカD:5)</p>
	5月	<p>常磐自動車道で大規模な多数傷病者事故が発生し、44名が死傷する。</p>
	6月	<p>ふたば救急総合医療支援センター医師等同乗の運用に関する協定書締結式が福島県立医科大学附属病院において行われ、双葉消防本部に医師等が待機し、管内での救急事案発生時に救急車に同乗する協定が締結する。</p> <p>福島県広域消防相互応援協定に基づく避難指示区域内における大規模火災対応訓練を、福島県防災航空センター及び県内12消防本部、緊急消防援助隊(宮城県、山形県、栃木県、新潟県)の協力のもと、浪江町で実施する。総務省消防庁及び福島県危機管理部、相双地方振興局、オフサイトセンターが参観する。</p> <p>医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第15回目内部被ばく検査が完了する。</p>
	8月	<p>総務省消防庁 青木信之長官が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。</p>
	9月	<p>富岡消防署臨時拠点を常駐体制に移行する。</p> <p>平成28年度緊急消防援助隊福島県大隊合同訓練に参加する。(会津若松市)</p> <p>平成28年度福島県総合防災訓練に参加する。(会津若松市)</p>
	10月	<p>平成28年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練に、福島県大隊の消火小隊及び後方支援隊として参加する。(秋田県能代市)</p> <p>双葉消防本部支援調整会議が双葉消防本部会議室にて開催される。</p> <p>医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第16回目内部被ばく検査が完了する。</p>
	11月	<p>避難指示区域内での多数傷病者発生事故に備え、平成28年度多数傷病者対応訓練を、浪江町地域スポーツセンター等で実施する。</p> <p>第15回双葉地方広域消防職員意見発表会を葛尾村で開催する。</p> <p>川内出張所連絡車及び葛尾出張所連絡車更新に伴い、配備式を実施する。(スズキ ハスラー)</p>
平成29年	1月	<p>浪江消防署広報車更新に伴い、配備式を実施する。(日産 エクストレイル)</p> <p>平成29年出初め式を楡葉分署で開催する。</p>
	2月	<p>医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第17回目内部被ばく検査が完了する。</p>
	3月	<p>福島県から配備されている原子力防災活動車両(要員搬送車)の更新に伴い配備式を実施する。(日産 シビリアン)</p> <p>富岡消防署長中嶋忠退職する。</p>
	4月	<p>双葉地方広域市町村圏組合管理者に松本幸英就任する。</p> <p>消防本部次長兼総務課長に渡邊敏行就任する。</p> <p>富岡消防署長に猪狩義行就任する。</p> <p>32・33人目の救急救命士が誕生する。</p>

平成29年	4月	浪江町（帰還困難区域）において発生した林野火災により、消防防災ヘリ及び福島県広域消防相互応援協定に基づき県内11消防本部の応援を受けるとともに自衛隊災害派遣を要請する。（焼失面積約75ha）	
	5月	浪江消防署及び富岡消防署庁舎建設工事安全祈願祭を実施する。	
	6月	第7回双葉消防本部支援調整会議が双葉地方会館会議室にて開催される。 全国消防長会 高橋淳会長が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。 医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第18回目内部被ばく検査が完了する。	
	7月	「平成29年度予防業務に関する講習会」を広野町公民館で実施する。	
	8月	浪江消防署葛尾出張所庁舎建設工事安全祈願祭を実施する。 平成29年度緊急消防援助隊福島県大隊合同訓練に参加する。（福島市） 平成29年度福島県総合防災訓練に参加する。（福島市）	
	9月	野田聖子 総務大臣が浪江消防署臨時庁舎を来訪し、職員激励を実施する。 災害対応資器材として無人航空機（ドローン）を配備する。 「双葉消防本部林野火災活動要綱」が策定され、各町村消防団長及び関係者説会を実施する。	
	10月	平成29年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練に、福島県大隊の消火小隊及び後方支援隊として参加する。（山形県米沢市） 大庭誠司 元総務省消防庁次長を招聘し「双葉消防本部警防実務研修会」を実施する。 平成29年度福島県相双地方（新地町）総合防災訓練に参加する。 避難指示区域内での多数傷病者発生事故に備え、平成29年度多数傷病者対応訓練を、富岡町総合スポーツセンターで実施する。	
	11月	医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第19回目内部被ばく検査が完了する。 福島県広域消防相互応援協定に基づく避難指示区域内における大規模火災対応訓練を、福島県防災航空センター及び県内11消防本部、緊急消防援助隊（宮城県、山形県、栃木県、新潟県）の協力のもと、楢葉町で実施する。総務省消防庁及び相双地方振興局が参観する。 総務省消防庁 稲山博司長官が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。 第16回双葉地方広域消防職員意見発表会を浪江町で開催する。	
	12月	大熊町帰還困難区域において遠距離大容量送水システムを使用した「密集地大規模火災対応訓練」を実施する。	
	平成30年	1月	平成30年出初式を楢葉分署で開催する。 総務省消防庁 緒方俊則次長が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。 楢葉分署の広報車を更新する。（トヨタサクシード）
		2月	医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第20回目内部被ばく検査を実施する。

平成30年	3月	富岡消防署長猪狩義行退職する。
	4月	富岡消防署長に金澤文男就任する。 消防本部消防課長に林浩就任する。 浪江消防署葛尾出張所新庁舎にて消防業務を開始する。 34・35人目の救急救命士が誕生する。
	5月	福島県広域消防相互応援協定に基づく避難指示区域内における大規模火災対応訓練を、福島県防災航空センター及び県内11消防本部、緊急消防援助隊（宮城県、山形県、栃木県、新潟県）の参加のもと、川内村で実施する。総務省消防庁が参観する。 「応急仮設住宅ふれあい巡回訪問並びに帰還者世帯訪問事業」の取組が評価され、「第2回予防業務優良事例表彰 消防庁長官賞」を受賞する。
	6月	医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第21回目内部被ばく検査を実施する。
	7月	富岡消防署新庁舎にて消防業務を開始する。
	8月	第8回双葉消防本部支援調整会議が富岡消防署会議室にて開催される。 浪江消防署新庁舎にて消防業務を開始する。 富岡消防署において、福島県ふたば医療センター附属病院医師等の救急現場出動に関する協定書締結式がおこなわれ、管内において医療行為の必要な災害現場や多数傷病者が発生した場合、福島県ふたば医療センター附属病院より医師等が当消防本部車両に同乗し、救急現場にて活動を行う協定が締結する。
	9月	平成30年度緊急消防援助隊福島県大隊合同訓練に参加する。（田村市） 平成30年度福島県総合防災訓練に参加する。（田村市） 双葉消防本部仮庁舎において、災害時における大型重機等の支援要請に関する協定書締結式がおこなわれ、管内において自然災害や大規模事故等が発生した場合に、大型重機等による消防活動を実施する協定が締結する。 第20回福島県消防職員サッカー親善大会を当消防本部にて開催する。 総務省消防庁 黒田武一郎長官が来訪し、職員激励並びに管内視察を実施する。 原子力災害避難指示区域消防活動費交付金により避難指示区域林野火災等資器材を整備する。
	10月	双葉消防本部仮庁舎において、地域防災パトロール隊出動式を実施する。 「平成30年度予防業務に関する講習会」を富岡消防署で実施する。 避難指示区域内での多数傷病者発生事故を想定し、平成30年度多数傷病者対応訓練を、富岡町総合スポーツセンター及び福島県ふたば医療センター附属病院で実施する。
	11月	医療法人誠励会 ひらた中央病院において、WBCによる全職員の第22回目内部被ばく検査を実施する。



# 歴代消防長・消防署長

## 1. 消防長

歴代	氏名	在職期間
初代	志賀秀正 (事務取扱)	S47. 10. 1 ~ S50. 4. 30
2代	猪狩秀玄 (事務取扱)	S50. 5. 1 ~ S52. 4. 30
3代	田中清太郎 (事務取扱)	S52. 5. 1 ~ S53. 3. 31
4代	村岡俊夫	S53. 4. 1 ~ S58. 3. 31
5代	松本一郎 (事務取扱)	S58. 4. 1 ~ S61. 3. 31
6代	遠藤藤正 (事務取扱)	S61. 4. 1 ~ S62. 3. 31
7代	結城定重 (事務取扱)	S62. 4. 1 ~ H 1. 3. 31
8代	関本英勇 (事務取扱)	H 1. 4. 1 ~ H 1. 6. 30
9代	岩本忠夫 (事務取扱)	H 1. 7. 1 ~ H 3. 3. 31
10代	志賀秀朗 (事務取扱)	H 3. 4. 1 ~ H 5. 3. 31
11代	中野明	H 5. 4. 1 ~ H11. 3. 31
12代	秋本正夫	H11. 4. 1 ~ H12. 3. 31
13代	遠藤輝男	H12. 4. 1 ~ H16. 3. 31
14代	秋元正	H16. 4. 1 ~ H23. 3. 31
15代	柴繁	H23. 4. 1 ~ H23. 6. 30
16代	吉田繁雄	H23. 7. 1 ~ H24. 3. 31
17代	西村栄一	H24. 4. 1 ~ H26. 3. 31
18代	馬場有 (事務取扱)	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31
19代	松本幸英 (事務取扱)	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31
20代	大和田仁	H28. 4. 1 ~

## 2. 消防署長

### 浪江消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	伴場和雄	S47. 10. 1 ~ S58. 10. 31	富岡消防署長兼務 S51. 10. 1~S533. 31 消防本部次長兼務 S58. 4. 1~S58. 10. 31
2代	猪狩一夫	S58. 11. 1 ~ S60. 3. 31	消防本部次長兼務
3代	中野明	S60. 6. 1 ~ S62. 3. 31	消防本部次長兼務
4代	清野清人	S62. 4. 1 ~ H 4. 3. 31	
5代	池沢昭吉	H 4. 4. 1 ~ H 6. 3. 31	
6代	秋本正夫	H 6. 4. 1 ~ H10. 3. 31	消防本部次長兼務
7代	遠藤恒男	H10. 4. 1 ~ H11. 3. 31	
8代	秋元正	H11. 4. 1 ~ H12. 3. 31	
9代	志賀節夫	H12. 4. 1 ~ H14. 3. 31	
10代	吉川定	H14. 4. 1 ~ H16. 3. 31	
11代	大和田幹夫	H16. 4. 1 ~ H18. 3. 31	
12代	山田恭二	H18. 4. 1 ~ H20. 3. 31	消防本部次長兼務
13代	柴繁	H20. 4. 1 ~ H23. 3. 31	消防本部次長兼務
14代	吉田繁雄	H23. 4. 1 ~ H23. 6. 30	消防本部次長兼務
15代	岡田雄一	H23. 7. 1 ~ H26. 3. 31	
16代	末永孝二	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	
17代	加勢信二	H27. 4. 1 ~	

### 富岡消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	太田芳一郎	S47. 10. 1 ~ S51. 9. 30	
2代	伴場和雄	S51. 10. 1 ~ S52. 3. 31	浪江消防署長兼務
3代	猪狩一夫	S52. 4. 1 ~ S58. 10. 31	
4代	中野明	S58. 11. 1 ~ S60. 5. 31	
5代	秋本正夫	S60. 4. 1 ~ H 3. 3. 31	
6代	池沢昭吉	H 3. 4. 1 ~ H 4. 3. 31	
7代	清野清人	H 4. 4. 1 ~ H 8. 3. 31	
8代	遠藤輝男	H 8. 4. 1 ~ H12. 3. 31	
9代	秋元正	H12. 4. 1 ~ H13. 3. 31	
10代	山田恭二	H13. 4. 1 ~ H18. 3. 31	
11代	増田正成	H18. 4. 1 ~ H21. 3. 31	
12代	吉田繁雄	H21. 4. 1 ~ H23. 3. 31	
13代	西村栄一	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	
14代	安倍一夫	H24. 4. 1 ~ H25. 3. 31	
15代	遠藤充	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	
16代	中嶋忠	H26. 4. 1 ~ H29. 3. 31	
17代	猪狩義行	H29. 4. 1 ~ H30. 3. 31	
18代	金澤文男	H30. 4. 1 ~	

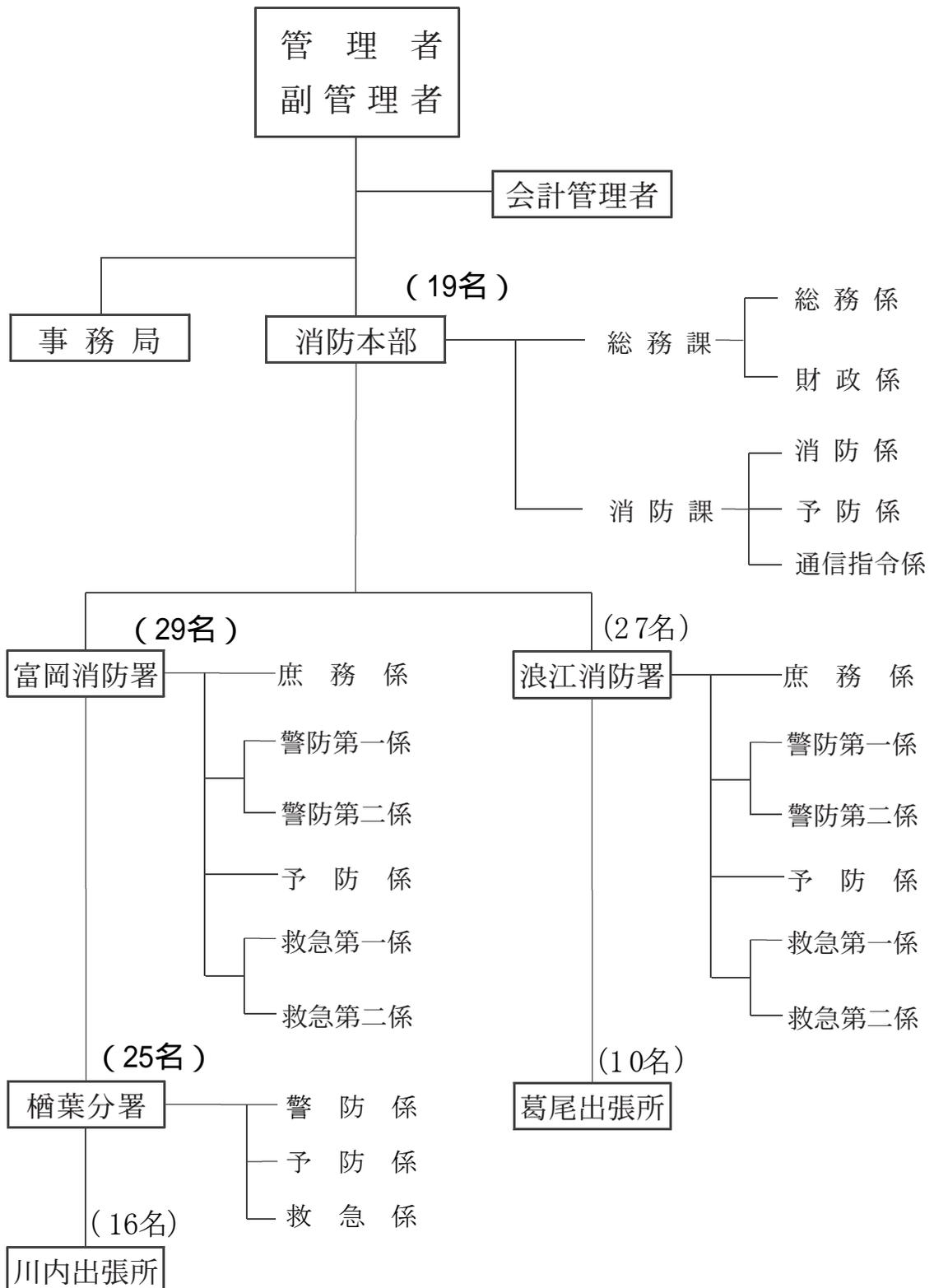
# 総務



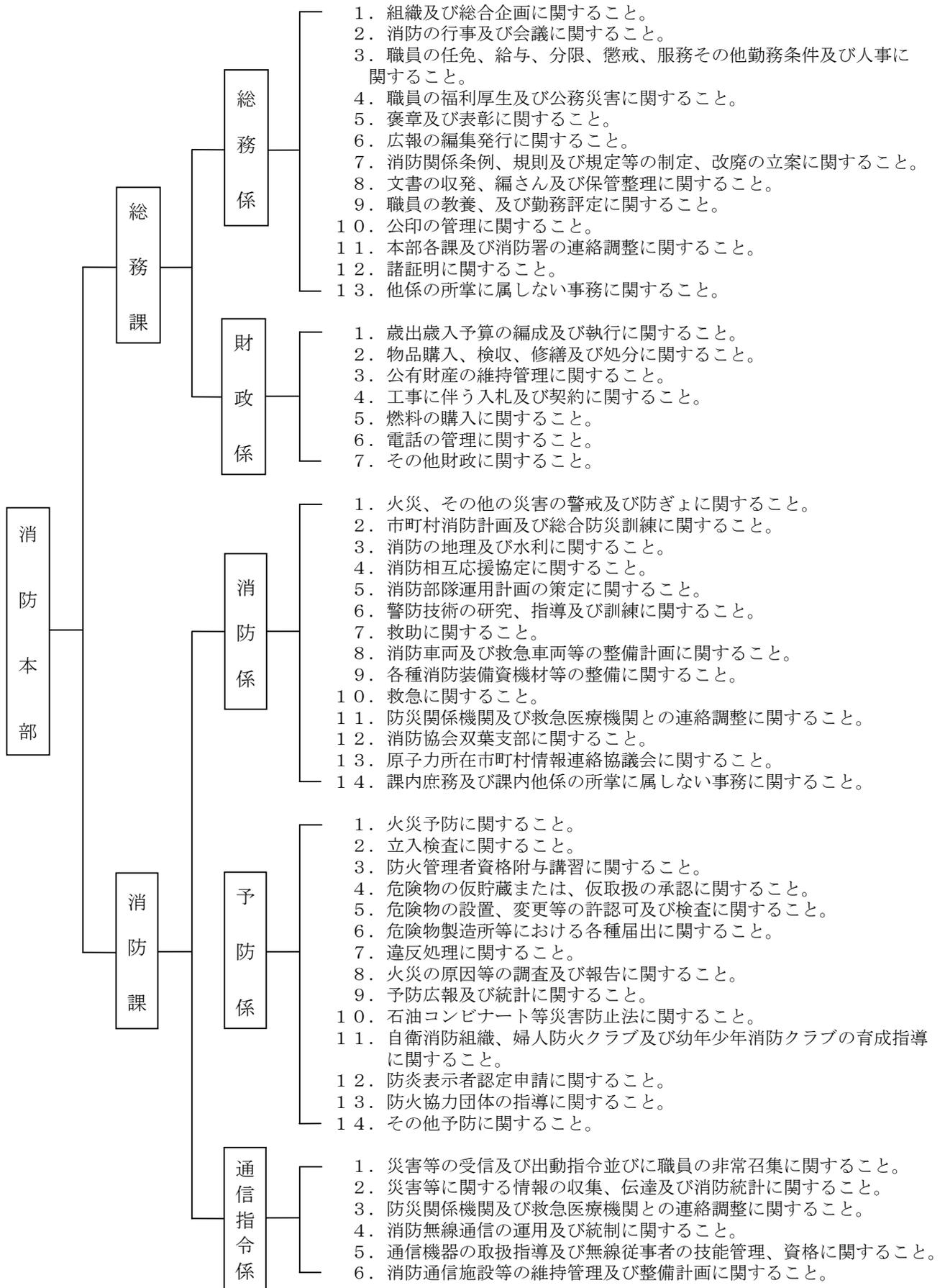
第41回福島県消防職員意見発表 平成30年2月2日 実施

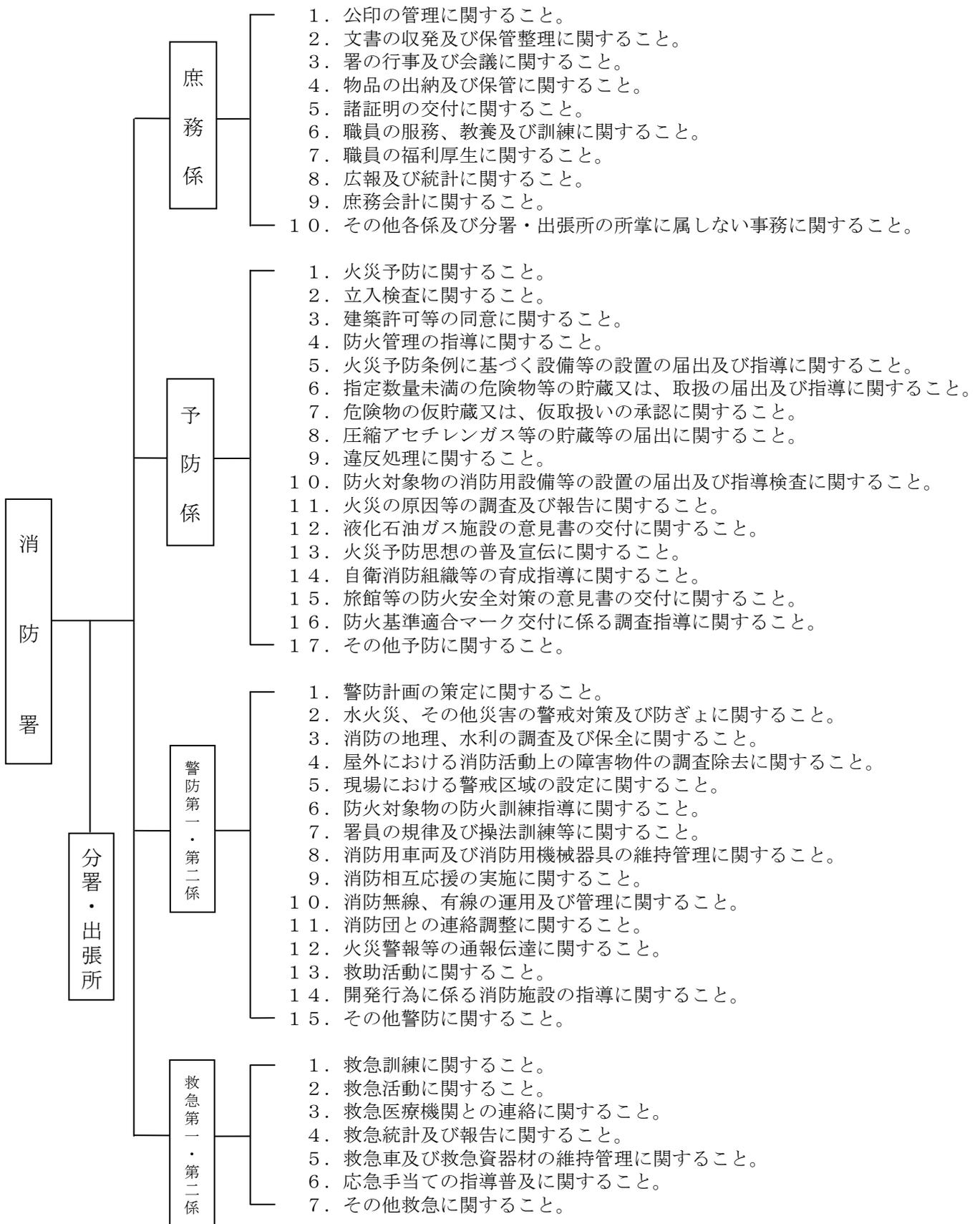


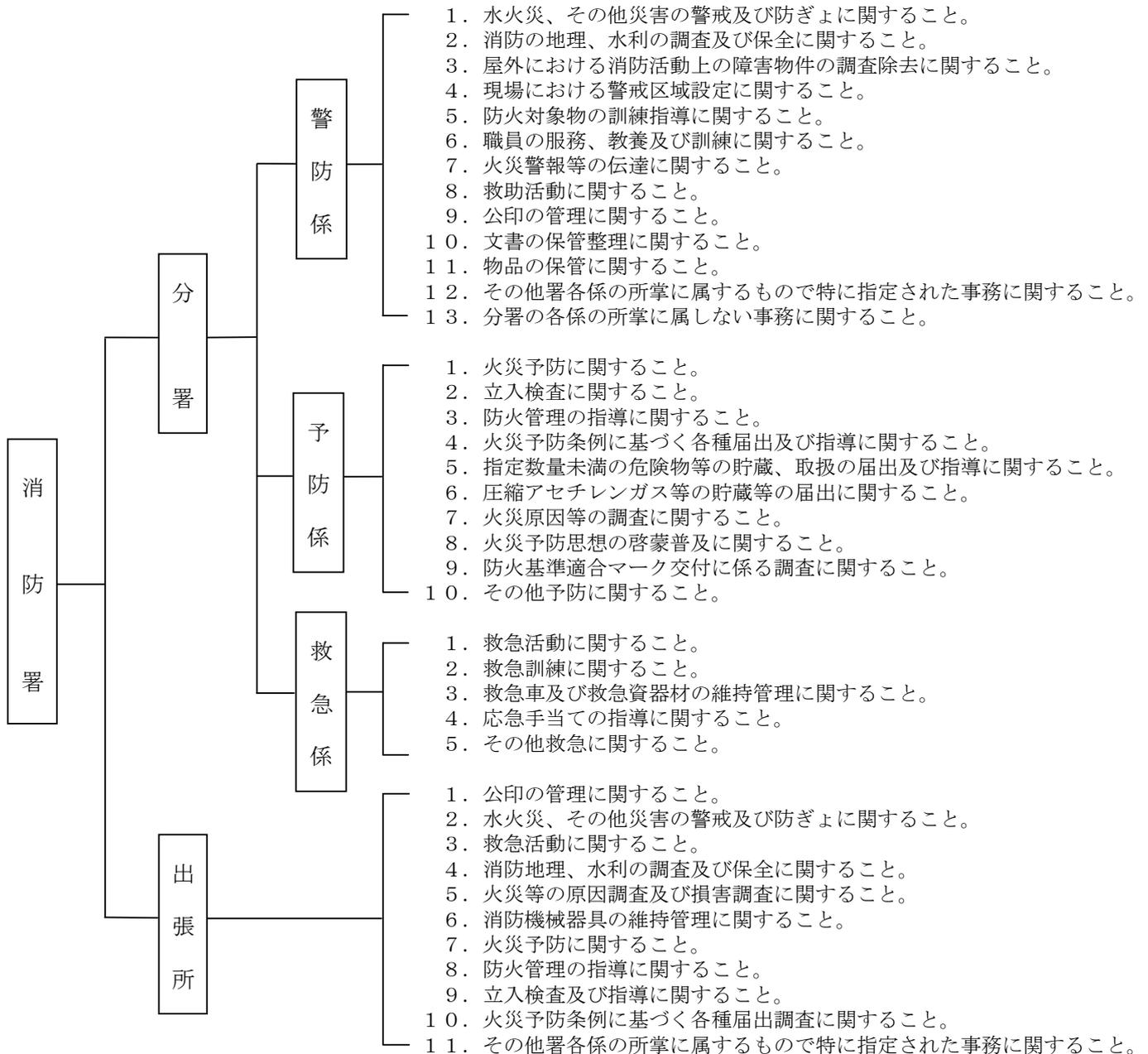
# 双葉地方広域市町村圏組合消防本部組織図



# 消防本部・消防署・分署及び出張所の事務分掌







## 双葉地方広域市町村圏組合一般会計予算

### 歳 入

(単位:千円)

款	平成30年度予算額	構成比%	平成29年度予算額	構成比%	比 較
1, 分担金及び負担金	2,036,713	71.48%	1,930,050	72.46%	106,663
2, 使用料及び手数料	80,436	2.82%	61,925	2.32%	18,511
3, 国庫支出金	333,473	11.70%	137,136	5.15%	196,337
4, 県支出金	217,554	7.64%	333,339	12.51%	△ 115,785
5, 財産収入	855	0.03%	245	0.01%	610
6, 寄付金	0	0.00%	0	0.00%	0
7, 繰入金	40,433	1.42%	24,416	0.92%	16,017
8, 繰越金	75,442	2.65%	124,322	4.67%	△ 48,880
9, 諸収入	64,474	2.26%	52,185	1.96%	12,289
10, 組合債	0	0.00%	0	0.00%	0
歳入合計	2,849,380	100.00%	2,663,618	100.00%	185,762

### 歳 出

(単位:千円)

款	平成30年度予算額	構成比%	平成29年度予算額	構成比%	比 較
1, 議会費	2,531	0.09%	3,058	0.11%	△ 527
2, 総務費	299,006	10.49%	270,726	10.16%	28,280
3, 民生費	52,014	1.83%	49,283	1.85%	2,731
4, 衛生費	1,030,360	36.16%	1,018,919	38.25%	11,441
5, 消防費	1,344,479	47.18%	1,192,163	44.76%	152,316
6, 公債費	110,136	3.87%	119,225	4.48%	△ 9,089
7, 諸支出金	854	0.03%	244	0.01%	610
8, 予備費	10,000	0.35%	10,000	0.38%	0
歳出合計	2,849,380	100.0%	2,663,618	100.00%	185,762

## 消防予算の推移

年 度	双葉地方広域 市町村圏組合 一般会計予算額 (千円)	消防予算額 (千円)	一般会計予算額 に対する 消防予算額割合 (%)	消防予算額に対する額			
				人 口		世 帯	
				人口 (人)	1人あたり (円)	世帯数	1世帯あたり (円)
26	2,824,000	1,097,294	38.86%	65,531	16,745	23,481	46,731
27	2,519,223	1,176,622	46.68%	66,376	17,718	25,338	46,413
28	4,556,300	2,552,674	56.03%	65,452	39,001	25,254	101,080
29	2,663,618	1,192,163	44.76%	64,094	18,600	25,267	47,183
30	2,849,380	1,344,479	47.18%	62,882	21,381	25,270	53,205

# 消防本部・消防署・分署及び出張所配置図

【東日本大震災前】

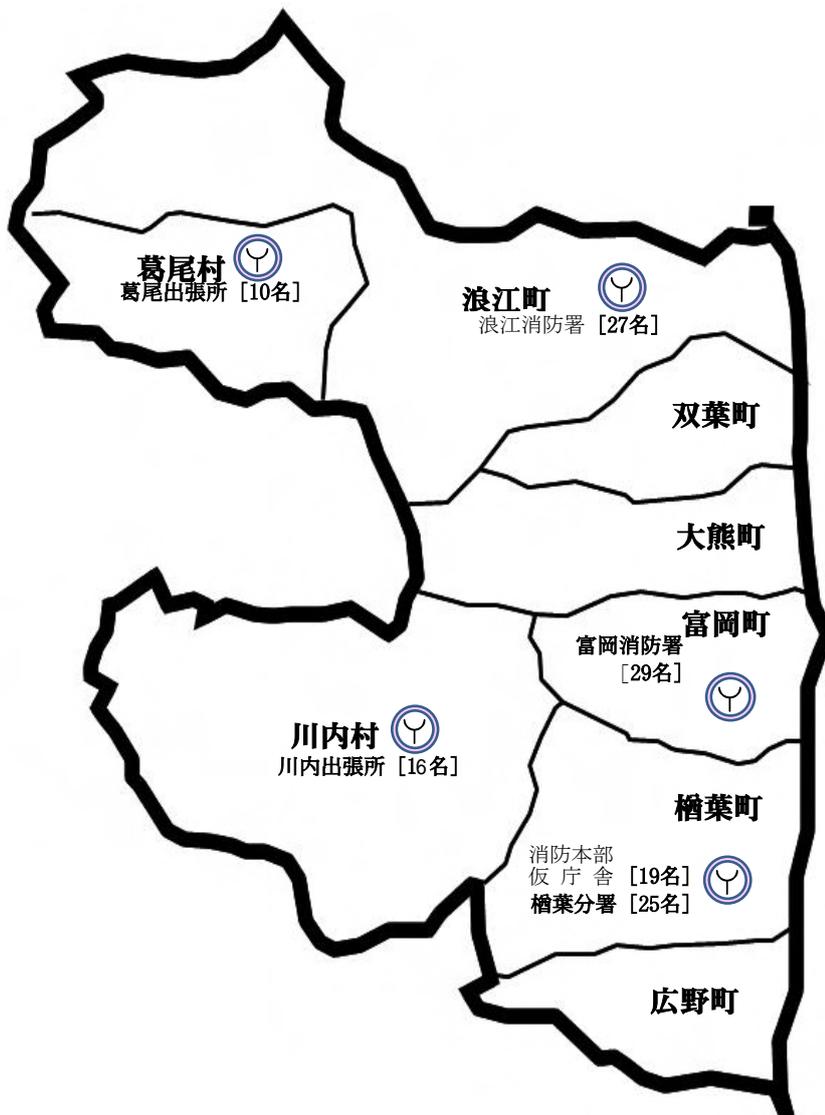
凡 例

	消 防 本 部
	消 防 署
	分 署
	出 張 所
	指 令 車
	広 報 車
	救 急 車
	連 絡 車
	ポンプ自動車
	水槽付ポンプ自動車
	はしご車(高所放水車)
	化 学 車
	泡原液搬送車
	資 器 材 搬 送 車
	救 助 工 作 車
	マイクロバス (原子力防災車)
	ワンボックスカー (原子力防災車)



【東日本大震災後】

消防本部	
指 揮 車	1台
支援車 [ I 型 ]	1台
原子力防災車	3台
浪江消防署	
広 報 車	1台
ポンプ自動車	1台
水槽付きポンプ自動車	1台
大型水槽車	1台
資器材搬送車	2台
救 急 車	2台
原子力防災車	1台
葛尾出張所	
ポンプ自動車	1台
救 急 車	1台
連 絡 車	1台
富岡消防署	
指 揮 車	1台
原子力防災車	1台
水槽付きポンプ自動車	1台
大型水槽車	1台
救助工作車	1台
大型高所放水車	1台
泡原液搬送車	1台
救 急 車	1台
橋葉分署	
広 報 車	1台
ポンプ自動車	1台
水槽付きポンプ自動車	1台
大型化学車	1台
資器材搬送車	1台
救 急 車	2台
マイクロバース	1台
川内出張所	
ポンプ自動車	1台
救 急 車	1台
連 絡 車	1台



## 消防庁舎の現況

名称	区分	所在地	敷地面積	建物延べ面積	構造	電話	FAX
双葉地方広域市町村圏組合消防本部(仮庁舎)		福島県双葉郡檜葉町大字 山田岡字仲丸1-110	11,397	671	軽量鉄骨軸組構造2階建	0240 25-8523	0240 25-8524
浪江消防署		福島県双葉郡浪江町大字 幾世橋字大添45	4,267	1,551	鉄筋コンクリート造3階建	0240 34-4111	0240 34-4120
富岡消防署		福島県双葉郡富岡町大字 本岡字王塚673-3	7,327	1,568	鉄骨造3階建	0240 22-2119	0240 22-2244
檜葉分署		福島県双葉郡檜葉町大字 山田岡字仲丸1-110	11,397	735	鉄筋2階建	0240 25-2119	0240 25-2148
川内出張所		福島県双葉郡川内村大字 上川内字早渡11-4	1,776	321	鉄筋2階建	0240 38-2119	0240 38-2440
葛尾出張所		福島県双葉郡葛尾村大字 落合字落合254-2	2,075	246	鉄筋コンクリート造	0240 29-2119	0240 29-2442

# 消防職員配置状況

(平成30年12月31日現在)

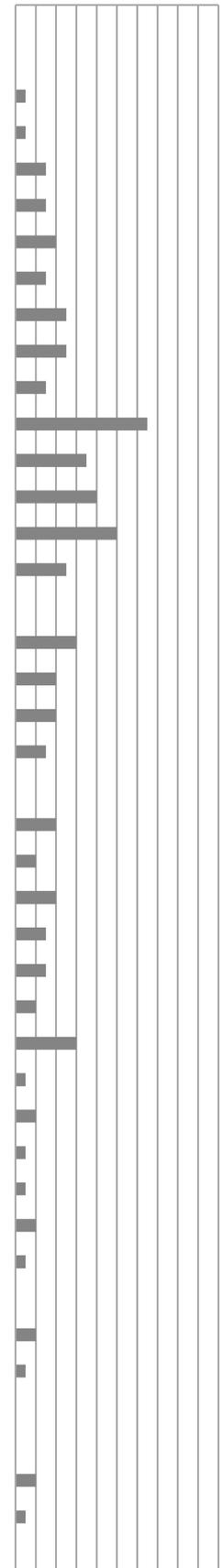
区分	階級別 人員計	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防長	消防副長	消防士		
消防本部	消防長	1	1							
	総務課	6		1	1	1	3			
	消防課	12			4	5	2	1		
	計	19	1	1	5	6	5	1		
浪江消防署	署長	1		1						
	副署長	2			2					
	庶務係	4			1	1	2			
	予防係	4				1	2	1		
	警防係	8				2	2	2	2	
	救急係	8				4	1	2	1	
	計	27		1	3	8	7	5	3	
葛尾出張所	出張所長	1			1					
	副出張所長	2			1	1				
	庶務担当	2					2			
	予防担当	2					1			
	警防担当	1					1			
	救急担当	2					2	1		
	計	10			2	1	6	1		
富岡消防署	署長	1		1						
	副署長	2			2					
	庶務係	3				1	1	1		
	予防係	5			1	1	2	1		
	警防係	9			1	2	3	1	2	
	救急係	9			1	3	4	1		
	計	29		1	5	7	10	3	3	
榎葉分署	分署長	1			1					
	副分署長	2			2					
	庶務担当									
	予防係	4				2		1	1	
	警防係	12				1		4	5	2
	救急係	6					2	4		
	計	25			4	4	8	6	3	
川内出張所	出張所長	1			1					
	副出張所長	2				2				
	庶務担当	3				1	2			
	予防担当	4					2	2		
	警防担当	3				1	1		1	
	救急担当	3				1	2			
	計	16			1	5	7	2	1	
合計	126	1	3	20	31	43	18	10		

# 職員の階級別年齢状況

(平成30年12月31日現在)

年齢	消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	士	その他	総数
18歳									
19歳									
20歳							1		1
21歳							1		1
22歳							3		3
23歳							3		3
24歳						2	2		4
25歳						3			3
26歳						5			5
27歳					1	4			5
28歳					2	1			3
29歳					12	1			13
30歳					7				7
31歳					6	2			8
32歳				1	9				10
33歳					5				5
34歳									
35歳				5	1				6
36歳				4					4
37歳				4					4
38歳				3					3
39歳									
40歳				4					4
41歳				2					2
42歳				4					4
43歳				3					3
44歳			2	1					3
45歳			2						2
46歳			6						6
47歳			1						1
48歳			2						2
49歳			1						1
50歳			1						1
51歳			2						2
52歳			1						1
53歳									
54歳		1	1						2
55歳		1							1
56歳									
57歳									
58歳	1		1						2
59歳		1							1
60歳									
合計人数	1	3	20	31	43	18	10		126
平均年齢	58.0	56.0	48.1	38.6	30.6	26.7	22.4		34.9

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20

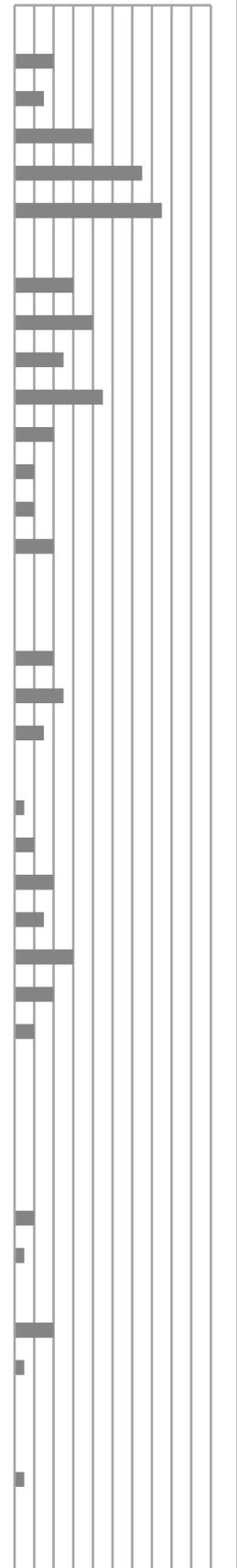


# 職員の階級別勤続年数

(平成30年12月31日現在)

年数 (以上～未満)	消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	士	その他	総数
1年未満									
1～2							4		4
2～3						3			3
3～4						4	4		8
4～5					7	4	2		13
5～6					10	5			15
6～7									
7～8					4	2			6
8～9				2	6				8
9～10					5				5
10～11				3	6				9
11～12				2	2				4
12～13					2				2
13～14				2					2
14～15				3	1				4
15～16									
16～17									
17～18				4					4
18～19				5					5
19～20				3					3
20～21									
21～22			1						1
22～23			1	1					2
23～24			1	3					4
24～25			2	1					3
25～26			4	2					6
26～27			4						4
27～28			2						2
28～29									
29～30									
30～31									
31～32									
32～33			2						2
33～34			1						1
34～35									
35～36	1	2	1						4
36～37		1							1
37～38									
38～39									
39～40			1						1
40～41									
41～42									
合計人数	1	3	20	31	43	18	10		126
平均年数	35.0	35.3	27.2	16.6	7.4	4.1	2.4		12.8

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20



# 消防大学校・県消防学校入校及び講習等受講状況

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

機 関 名		研 修 科 目	研 修 期 間	人 員 (人)
消 防 大 学 校		第78期 救助科	H30.8.22 ～ H30.10.12	1
		第55期 幹部科	H30.10.15 ～ H30.11.30	1
福 島 県 消 防 学 校		第2期 機関科	H30.4.23 ～ H30.4.27	2
		第6期 ポンプ操作指導員科	H30.5.9 ～ H30.5.17	2
		第34期 初級幹部科	H30.6.4 ～ H30.6.15	2
		第29期 中級幹部科	H30.8.7 ～ H30.8.15	2
		第20期 救助科	H30.10.9 ～ H30.11.9	2
		第17期 はしご車運用科	H30.11.20 ～ H30.11.22	2
		第17期 救急救命士養成補助教育科	H30.11.26 ～ H30.11.30	2
		第7期 指揮隊長科	H30.12.3 ～ H30.12.7	2
		第6期 予防査察科	H30.12.10 ～ H30.12.21	2
		第27期 救急科	H31.1.9 ～ H31.3.8	5
		第26期 警防科	H31.1.21 ～ H31.2.1	2
		第27期 火災調査科	H31.2.5 ～ H31.2.21	2
		第7期 特殊災害科	H30.2.19 ～ H30.3.2	2
		第5期 救急救命士処置拡大講習 (静脈路確保・ビデオ喉頭鏡)	H30.7.2 ～ H30.7.9	1
		第6期 救急救命士処置拡大講習 (ビデオ喉頭鏡)	H30.7.30	1
		第7期 救急救命士処置拡大講習 (ビデオ喉頭鏡)	H30.10.22	1
		第8期 救急救命士処置拡大講習 (ビデオ喉頭鏡)	H30.11.5	1
				無線従事者養成講習
日 本 ACLS 協 会	公益財団法人星総合病院 ポラリス保健看護学院	BLSヘルスケアプロバイダーコース (G2015)	H30.7.1	2
	独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター	ACLSプロバイダーコース (G2015)	H30.9.23 ～ H30.9.24	2
日 本 災 害 医 学 会	白河厚生総合病院	MCLS標準コース	H30.5.13	2
各 自 動 車 教 習 所		大型自動車運転免許 (助成対象者)	H30.4.1 ～ H31.3.31	3
公 益 財 団 法 人 ボ イ ラ ・ ク レ ー ン 会 安 全 協 会	い わ き 事 務 所	玉掛け技能講習(助成対象者)	H30.4.1 ～ H31.3.31	4
		小型移動式クレーン運転技能講習 (助成対象者)	H30.4.1 ～ H31.3.31	4
		ガス溶接技能講習 (助成対象者)	H30.4.1 ～ H31.3.31	4
		巻上げ機の運転業務特別教育 (助成対象者)	H30.4.1 ～ H31.3.31	4
み と み 学 園 ラ イ セ ン ス ア カ デ ミ ー		二級小型船舶操縦免許 (助成対象者)	H30.4.1 ～ H31.3.31	2

# 消防職員特殊技能その他資格取得者

(平成30年12月31日現在)

種別	階級	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
自動車 運転免許	けん引自動車			1	2	3	1		7
	大型特殊自動車	1		3	3	4	1		12
	大型自動車	1	2	16	30	36	12	1	98
	特定中型自動車 (車輛総重量11t未満、定員29名以下)	1	2	8	10	14	6		41
	中型自動車 (車輛総重量8t未満、定員10名以下)	1	3	19	28	32	7		90
	普通自動車	1	3	20	31	43	18	10	126
	自動二輪	1		10	12	18	4	1	46
救命士 関係	気管挿管実施救急救命士	1	2	5					8
	薬剤投与実施救急救命士		1	5	19	8			33
	心停止前輸液・低血糖ブドウ糖投与			5	19	7	1		32
	指導救命士			2	2				4
	救急救命士	1	2	8	19	9	1		40
救急関係	救急標準課程			17	27	38	15	2	99
	救急Ⅱ課程	1	2	4			1		8
	救急Ⅰ課程	1	2	2			1		6
	応急手当指導員	1	3	11	18	29	5	4	71
	正・准看護師			1		2			3
危険物 取扱者	甲種			3					3
	乙種1類			2	4	4	4		14
	乙種2類		1	2	3	3	3		12
	乙種3類			3	5	5	3		16
	乙種4類		2	10	23	26	8	1	70
	乙種5類			4	3	2	2		11
	乙種6類		1	4	5	5	3		18
丙種			4			2		6	
消防 設備士	甲種特類			1					1
	甲種1類			3	2				5
	甲種2類			1	1				2
	甲種3類			1					1
	甲種4類			3	2	1			6
	甲種5類			1	1				2
	乙種1類								
	乙種2類								
	乙種3類								
	乙種4類			1	1				2
	乙種5類								
	乙種6類			4	4	5	3		16
乙種7類			1					1	
予防技術 資格者	防火査察専門員			4	4	8			16
	消防設備等専門員			4	2	1			7
	危険物専門員		1	3	2	2			8
無線関係	特殊無線技士(無線電話乙)			3	1				4
	第二級陸上特殊無線技師			2	10	3			15
	第三級陸上特殊無線技師	1		13	16	26	17	9	82
	アマチュア無線技師		1	5	2	1			9
小型移動式クレーン技能講習			6	19	19	3		47	
玉掛け技能講習			5	18	23	3		49	
ガス溶接技能講習			4	17	20	6	1	48	
アーク溶接特別教育			1	2	5	1		9	
巻上げ機の運転業務特別教育				9	7	2		18	
2級小型船舶免許			1	6	7	2		16	
潜水士									
自動車整備士									
電気工事士				1	3	2		6	
衛生管理者									

# 予 防



予防業務優良事例表彰消防庁長官受賞報告会 平成30年9月15日 実施



## 町村別工事種別建築同意等事務処理状況

建築物の新築、増築、改築、模様替え等（昭和58年5月法改正により、昭和59年4月1日から都市計画法で定められた防火地域及び準防火地域以外の区域内における住宅を除く。）について、許可、認可または確認を与える行政庁またはその委託を受けた者は、消防法により消防長または消防署長の同意が必要とされている。

これは、消防が建築物の建設計画の段階から専門立場で関与、当該計画が建築関係法令の防火規定ならびに、消防関係法令に適合しているかどうかを審査検討して適切な防火措置をすることにより、実効のある火災予防の推進を図ろうとするものである。

したがって、これらの審査にあたっては、特に慎重を期し、係員を現地に派遣して実地調査を行い、必要に応じて同意内容の履歴状況を施行途上で検査し、必要な指導を行い、的確な防火措置について指導に努めている。

### 町村別工事種別建築同意等事務処理状況

（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

町村別	種別	新築	増築	改築	用途変更	移転	模様替	修繕	その他	計
		富岡消防署	41	5		2	1			
	檀葉町	76	16							92
	富岡町	103	19						1	123
	川内村	9								9
	大熊町	30	4	1	1					36
浪江消防署	双葉町	10								10
	浪江町	66	11	2	1				1	81
	葛尾村	10	1							11
合計		345	56	3	4	1			2	411

# 防火対象物別建築同意等事務処理件数

(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

防火対象物の別	町村別										計
	広野町	楢葉町	富岡町	川内村	大熊町	富岡消防署	双葉町	浪江町	葛尾村	浪江消防署	
1項イ 劇場等											
1項ロ 公会堂等		2			1	3					3
2項イ キャバレー等											
2項ロ 遊技場等											
2項ハ 性風俗店等											
2項ニ カラオケボックス等											
3項イ 料理店等			1			1					1
3項ロ 飲食店等	1	4	1			6					6
4項 百貨店、マーケット等	1	2				3		1		1	4
5項イ ホテル等	1		5	1		7		2		2	9
5項ロ 共同住宅等	12	12	34	1		59		1		1	60
6項イ(1) 病院	1					1					1
6項イ(2) 診療所											
6項イ(3) (1)を除く病院、(2)を除く有床診療所、有床助産所											
6項イ(4) 無床診療所、無床助産所											
6項ロ(1) 老人短期入所施設、有料老人ホーム等											
6項ロ(2) 救護施設											
6項ロ(3) 乳児院											
6項ロ(4) 障害児入所施設											
6項ロ(5) 障害者支援施設、短期入所施設、共同生活援助施設											
6項ハ(1) 老人デイサービスセンター、老人福祉センター等											
6項ハ(2) 更生施設											
6項ハ(3) 助産施設、保育所、児童養護施設等											
6項ハ(4) 児童発達支援センター等											
6項ハ(5) 身体障害者福祉センター、障害者支援施設等											
6項ニ 幼稚園等	1					1					1
7項 学校等											
8項 図書館等							1			1	1
9項イ 熱気浴場等											
9項ロ 公衆浴場等											
10項 停車場等		1				1	1			1	2
11項 神社等	1	2	3			6					6
12項イ 工場等	6	6		2		14	1	10	1	12	26
12項ロ 映画スタジオ等	1	1				2					2
13項イ 駐車場等	1	2	1			4					4
13項ロ 格納庫等								1		1	1
14項 倉庫等	4	15	14	2	4	39	4	6	1	11	50
15項 事業所等	8	18	32		20	78	1	8	3	12	90
16項イ 特定複合建物			3			3					3
16項ロ その他の複合建物	2	3	1		1	7					7
16の2項 地下街											
16の3項 準地下街											
17項 文化財等											
18項 アーケード											
19項 山林											
20項 舟車											
小計	40	68	95	6	26	235	8	29	5	42	277
防火対象物外	9	24	28	3	10	74	2	52	6	60	134
合計	49	92	123	9	36	309	10	81	11	102	411

# 町村別防火対象物

(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

防火対象物の別	広 野 町	榑 葉 町	富 岡 町	川 内 村	大 熊 町	富 岡 消 防 署	双 葉 町	浪 江 町	葛 尾 村	浪 江 消 防 署	計
1項イ 劇場等	3	1	2		3	9					9
1項ロ 公会堂等	11	9	25	7	25	77	20	9	2	31	108
2項イ キャバレー等											
2項ロ 遊技場等	1		3		3	7	6			6	13
2項ハ 性風俗店等											
2項ニ カラオケボックス等					1	1					1
3項イ 料理店等											
3項ロ 飲食店等		4	9	3	11	27	13	3	1	17	44
4項 百貨店、マーケット等	7	6	17	1	10	41	20	14	1	35	76
5項イ ホテル等	36	19	23	6	9	93	17	4	1	22	115
5項ロ 共同住宅等	160	136	122	15	73	506	60	20	1	81	587
6項イ(1) 病院	2		1		5	8	2	4		6	14
6項イ(2) 診療所							2			2	2
6項イ(3) (1)を除く病院、(2)を除く有床診療所、有床助産所			1			1					1
6項イ(4) 無床診療所、無床助産所	1	2	7		3	13	13	5	1	19	32
6項ロ(1) 老人短期入所施設、有料老人ホーム等	1	1	3	3	4	12	3	1		4	16
6項ロ(2) 救護施設							1			1	1
6項ロ(3) 乳児院											
6項ロ(4) 障害児入所施設											
6項ロ(5) 障害者支援施設、短期入所施設、共同生活援助施設	1		5		1	7	1			1	8
6項ハ(1) 老人デイサービスセンター、老人福祉センター等	2	2	4	1	1	10	2	3	1	6	16
6項ハ(2) 更生施設											
6項ハ(3) 助産施設、保育所、児童養護施設等	1	1	2	1	2	7	3	4		7	14
6項ハ(4) 児童発達支援センター等											
6項ハ(5) 身体障害者福祉センター、障害者支援施設等	7	1	12		2	22	1			1	23
6項ニ 幼稚園等	1		5		2	8	7	3	1	11	19
7項 学校等	7	3	17	5	10	42	25	17	5	47	89
8項 図書館等		1		1	1	3		2		2	5
9項イ 熱気浴場等											
9項ロ 公衆浴場等				1	1	2					2
10項 停車場等							1			1	1
11項 神社等		1	4		1	6	1	1		2	8
12項イ 工場等	37	54	41	22	66	220	75	45	5	125	345
12項ロ 映画スタジオ等											
13項イ 駐車場等	4	8	13	3	10	38	11	8		19	57
13項ロ 格納庫等											
14項 倉庫等	54	77	73	11	138	353	48	42	14	104	457
15項 事業所等	85	110	119	38	170	522	99	39	23	161	683
16項イ 特定複合建物	1	6	25	3	13	48	36	4	4	44	92
16項ロ その他の複合建物	9	2	16		10	37	16	5	1	22	59
16の2項 地下街											
16の3項 準地下街											
17項 文化財等							1			1	1
18項 アーケード											
19項 山林											
20項 舟車											
<b>合 計</b>	<b>431</b>	<b>444</b>	<b>549</b>	<b>121</b>	<b>575</b>	<b>2,120</b>	<b>484</b>	<b>233</b>	<b>61</b>	<b>778</b>	<b>2,898</b>

## 〔 火 災 予 防 査 察 〕

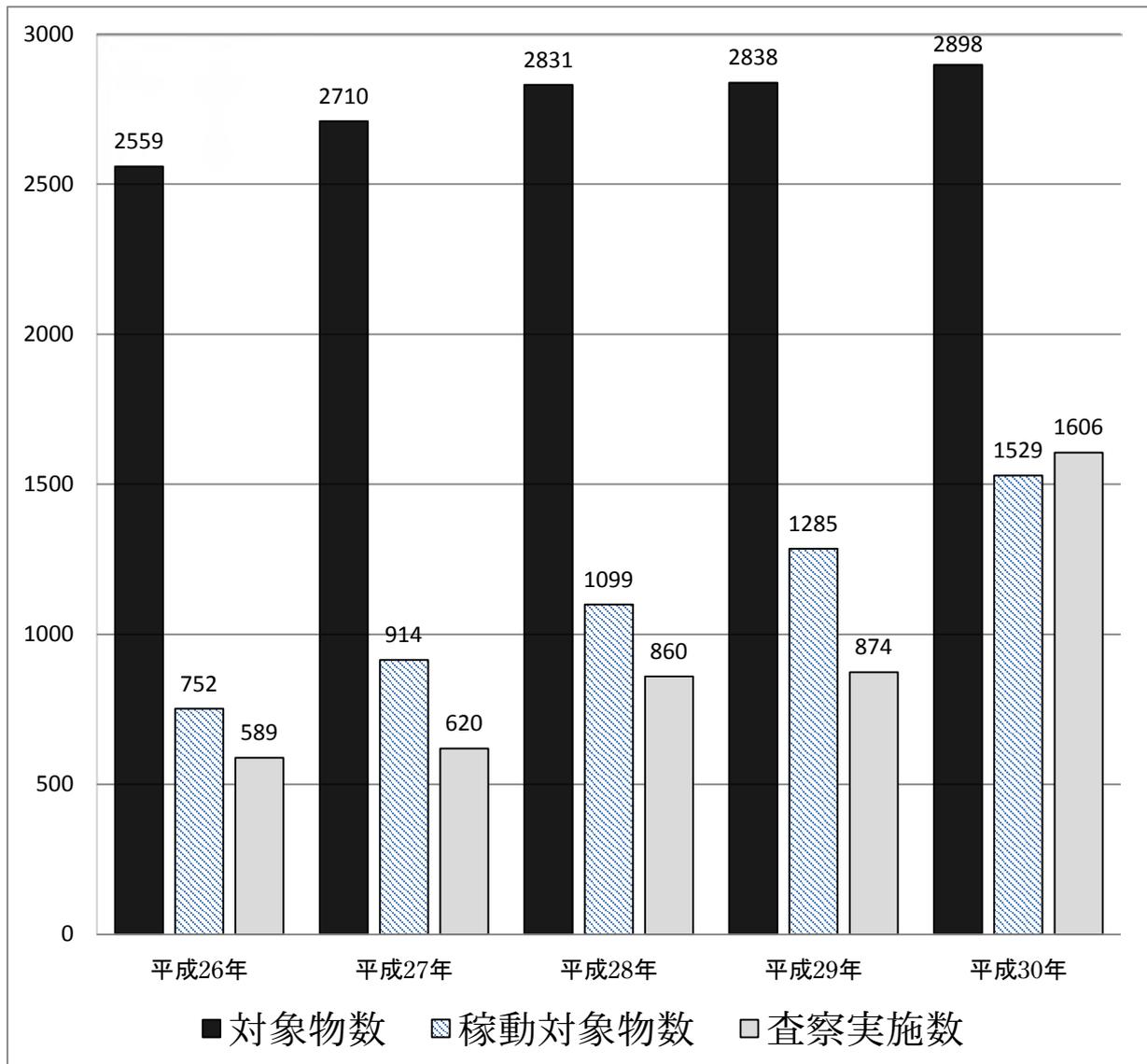
防火対象物(建築物等)から火災の発生、拡大または火災に伴う人命危険を防止するため、これらの関係場所に立ち入り、防火対象物の位置、構造、設備および管理の状況を検査し、火災予防上の不備欠陥事項を発見して、これらの排除または改善について関係者に対して積極的に指導を行っている。

### 月 別 査 察 状 況

(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

防火対象物の別	月 別	対象物総数	①稼動対象物数	②検査実施割合 (②/①)	③合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
						月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
1 項イ 劇場等		9	6	133%	8	1		2	1	2				2			
1 項ロ 公会堂等		108	44	118%	52	3		5	6	14		5	4	2	6	6	1
2 項イ キャバレー等																	
2 項ロ 遊技場等		13	1	100%	1					1							
2 項ハ 性風俗店等																	
2 項ニ カラオケボックス等		1															
3 項イ 料理店等																	
3 項ロ 飲食店等		44	8	138%	11				1	2	1	1			1	2	3
4 項 百貨店、マーケット等		76	17	100%	17	1		1		10	1	1	1	1	1		
5 項イ ホテル等		115	85	119%	101	6	6	2		43	5	8	2	13	3	6	7
5 項ロ 共同住宅等		587	409	104%	427	12	9	18	21	23	82	10	73	32	87	25	35
6 項イ(1) 病院		14	3	167%	5	1			1					1	2		
6 項イ(2) 診療所		2															
6 項イ(3) (1)を除く病院、(2)を除く有床診療所、有床助産所		1															
6 項イ(4) 無床診療所、無床助産所		32	6	117%	7		1			1			1	2	1	1	
6 項ロ(1) 老人短期入所施設、有料老人ホーム等		16	4	100%	4			1			1			2			
6 項ロ(2) 救護施設		1															
6 項ロ(3) 乳児院																	
6 項ロ(4) 障害児入所施設																	
6 項ロ(5) 障害者支援施設、短期入所施設、共同生活援助施設		8	1	100%	1										1		
6 項ハ(1) 老人デイサービスセンター、老人福祉センター等		16	6	117%	7	1		1	2		1			2			
6 項ハ(2) 更生施設																	
6 項ハ(3) 助産施設、保育所、児童養護施設等		14	4	125%	5			1		3		1					
6 項ハ(4) 児童発達支援センター等																	
6 項ハ(5) 身体障害者福祉センター、障害者支援施設等		23	7	100%	7		5								2		
6 項ニ 幼稚園等		19	2	100%	2				1				1				
7 項 学校等		89	27	115%	31		3	3	5	1	1		18				
8 項 図書館等		5	2	100%	2											1	1
9 項イ 熱気浴場等																	
9 項ロ 公衆浴場等		2	1	100%	1										1		
10 項 停車場等		1	1	200%	2											1	1
11 項 神社等		8	2	100%	2						1			1			
12 項イ 工場等		345	143	103%	148	3	5	4	5	4	13	16	16	28	17	19	18
12 項ロ 映画スタジオ等																	
13 項イ 駐車場等		57	33	97%	32	1				1	5	6	1	3	5	4	6
13 項ロ 格納庫等																	
14 項 倉庫等		457	249	100%	248	3	4	2	7	7	18	26	17	25	46	22	71
15 項 事務所等		683	420	104%	435	6	11	10	9	23	26	34	28	18	77	77	##
16 項イ 特定複合建物		92	29	110%	32		3		2	2	3	2	2	6	4	5	3
16 項ロ その他の複合建物		59	19	95%	18			2	1		5	3	1		2	2	2
16 の 2 項 地下街																	
16 の 3 項 準地下街																	
17 項 文化財等		1															
18 項 アーケード																	
19 項 山林																	
20 項 舟車																	
合 計		2,898	1,529	105%	1,606	38	47	52	62	137	163	113	165	138	258	171	262

## 過去5年間の防火対象物数・査察実施状況



### 〔 消防法違反の対応と措置 〕

防火対象物の位置、構造、設備および管理の状況が、消防法令に違反し、火災予防上危険が大きく火災が発生したときに人命に危険がある場合は、これを早期に改善させ、公共の安全を確保することは、消防行政の重大な使命である。

しかも、近時全国各地において火災による死傷者が激増する傾向にかんがみ、消防行政の責任と権限において法令違反の対象物に対し、法令を厳しく執行することは社会的要請ともいえよう。

このような背景をもとに、当広域においては、法令違反の対象物については、発見の都度繰り返し査察指導を行い、早期改善に努めているが、改善の意思の認められないもの等については、消防法上の権限を発動し、断固たる態度で処置する方針をとっている。

## 〔 火災予防に関する届出等 〕

消防法や火災予防条例では、火災予防に関する管理、設備、物質等の届出を義務付けている。これによって消防機関は、事前にそれらの状況を把握し、効果的な指導を行って適正な予防行政の執行に役立たせている（集計には設置・変更・廃止を含む）。

### 火災予防条例に基づく各種届出処理状況

（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

種 別	月 別												計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
防 火 対 象 物 開 始 届	14	13	42	28	22	27	25	12	10	14	16	16	239
防 火 対 象 物 廃 止 届	2	1	6	1		2	1	1	1	1		2	18
炉・かまど・温風暖房器・ボイラー・給湯湯沸設備・乾燥設備・サウナ設備・火花を生ずる設備設置届	1	3	7	2	4	2	1	4	4	2	4	8	42
発電・変電・蓄電池・燃料電池設備設置届	8	16	23	8	21	20	23	22	16	18	12	20	207
火災とまぎらわしい煙又は火災の発生する恐れのある行為の届	5	4	12	5	5	5	3	3	2	12	17	25	98
煙火打上げ・仕掛け届	1		2	3	1	2	6	2	1	1	1	2	22
催 物 開 催 届		1		1			1			1			4
水 道 断 減 水 届		1											1
道 路 工 事 届	26	18	17	26	22	32	31	24	31	33	53	25	338
露 店 等 の 開 設 届	1	2		7			5	4	3	8	4	4	38
指 定 洞 道 等 届													
少 量 危 険 物 貯 蔵 取 扱 い 届	6	3	4	3	4	4	3	5	3	4	6	9	54
指 定 可 燃 物 等 届	1			1	2		1		2	2		2	11
合 計	65	62	113	85	81	94	100	77	73	96	113	113	1,072

# 火災予防条例以外の各種届出処理状況

(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

種 別			月 別												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
防火管理者選解任届			6	12	6	16	22	16	11	22	10	18	15	20	174
消 防 計 画			7	11	5	18	25	15	12	13	8	20	11	10	155
圧縮アセチレンガス等貯蔵取扱い (開始・変更・廃止)届			8	5	5	6	4	11	5	7	12	1	10	7	81
危険物保安監督者選解任届			4	1	1	9	3	3	9		24	9	3	4	70
予 防 規 定 認 可 申 請			1				1								2
消 防 用 設 備 等	消火設備	着 工	9	1	3	1		1	5	4	3	1	4	5	37
		設 置	16	24	44	22	25	33	31	13	13	14	13	29	277
	警報設備	着 工	15	12	5	20	13	15	14	10	5	19	11	6	145
		設 置	9	17	34	19	23	21	35	14	12	12	16	17	229
	避難設備	着 工				1						1		1	3
		設 置	14	19	38	15	22	26	23	9	11	13	11	11	212
	消防活動上 必要な施設	着 工													
		設 置				1		2	2	1					6
点 検 結 果 報 告			30	40	49	27	24	32	34	34	34	64	36	30	434
防火対象物定期点検報告					3	3	5		1	1	2		2	1	18
意 見 書 交 付 申 請															
合 計			119	145	193	160	162	176	182	129	132	174	130	141	1,843

## 〔 防 火 管 理 者 制 度 〕

火災の予防及び被害の軽減を図るためには、消防機関の強化拡充のみでは不十分であり、一般市民の協力が必要である。とくに興業場、百貨店、旅館、病院、キャバレーなどは出火危険が高く、また、火災が発生した場合の人的、物的の被害が大きいため、消防法第8条では一定の収容人員以上のこれらの防火対象物の権限者に対して防火管理者を選任し、消防計画を作成させ、かつ、当該消防計画に基づいて、消火、通報及び避難訓練の実施、消防の用に供する設備等の点検及び整備、火気の使用または取扱に関する監督、避難または防火上必要な構造及び設備の維持管理など、防火管理に必要な業務を行わなければならないことを義務付けている。

### 防火管理者を必要とする稼働対象物

(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

防火対象物数	選任を必要とするもの	選任されているもの	選任の割合 (%)
1,529	923	843	91%

### 過去5年間の防火管理講習（資格取得講習）状況

年 別	回 数	受 講 者 数(人)
平 成 26 年	1	27
平 成 27 年	1	43
平 成 28 年	1	45
平 成 29 年	1	60
平 成 30 年	1	63

## 〔 消 防 広 報 〕

火災のほとんどは、ちょっとした不注意によって発生しており、火災の未然防止は、何といても住民一人ひとりが常に完全防火意識を持つことが最も肝要である。このような観点から特に予防に関する広報活動については住民参加の防火をモットーに、幅広い活動を展開している。又、消防広報を効果的に推進するため、テレビ、新聞等のマスコミ関係を活用し、各種防災関係行事等の消防情報を随時提供し、地域住民に対する理解を図っている。

### 広報活動実施状況

(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

行 事 名	対 象	実 施 回 数
防 火 講 話	防 火 対 象 物	23 回
	郡 内 住 民	15 回
	郡 外 避 難 住 民	1 回
防 火 訪 問	防 火 対 象 物	0 件
	郡 内 住 民	671 戸
	郡 外 避 難 住 民	332 戸
消 火 器 訓 練	防 火 対 象 物	104 回
	郡 内 住 民	3 回
	郡 外 避 難 住 民	1 回
消 防 訓 練	防 火 対 象 物	132 回
消 防 施 設 見 学	園 児 ・ 小 学 生	6 回
警 戒 広 報	郡 内 住 民	3,093 回
各 町 村 イベントにおける 消 防 広 報	郡内住民・郡外避難住民	13 回
各 町 村 広 報 誌 記 事 掲 載	"	24 回
消 防 通 信	"	4 回
防 火 広 報 紙	"	1,920 枚
防 火 看 板	"	7 枚

## 〔 危 険 物 の 規 制 ・ 指 導 〕

石油等の危険物の需要は、年々増加の一途をたどり、その施設数は、平成30年12月31日現在、下表に示すに至った。

こうした危険物は、事業所をはじめ各家庭にまで形態を変えて入り込み、危険物に起因する災害が発生する要素は、至るところに潜在している。

このような情勢に対応して、危険物による災害を未然に防止するため、危険物施設等に対する取締り、指導はもとよりその管理者、危険物取扱者ならびに従業員等に対する保安教育の実施、さらに危険物輸送時の安全を確保するための指導の強化に努めている。

### 危険物施設数（町村別）及び立入検査実施状況

（平成30年12月31日現在）

施設別 町村別	合 計	製 造 所	貯 蔵 所								取 扱 所				
			小 計	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タン ク 貯 蔵 所	屋 内 タン ク 貯 蔵 所	地 下 タン ク 貯 蔵 所	簡 易 タン ク 貯 蔵 所	移 動 タン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所	移 送 取 扱 所
施設総数	759	10	499	60	162	11	104		145	17	250	74		175	1
①稼働施設数	462	4	327	27	124	10	39		119	8	131	34		96	1
広野町	143	4	99	11	68	1	5		12	2	40	7		32	1
檜葉町	73		49	4	10	5	13		17		24	7		17	
富岡町	109		72	11	8	1	23		26	3	37	15		22	
川内村	35		23	3	3		11		6		12	3		9	
大熊町	181	6	118	18	52		24		15	9	57	12		45	
双葉町	114		86	7	8	4	7		59	1	28	8		20	
浪江町	89		44	6	9		19		8	2	45	20		25	
葛尾村	15		8		4		2		2		7	2		5	
②立入検査実施数	463	4	326	26	122	10	40		120	8	133	37		95	1
実施率（②/①）	100%	100%	100%	96%	98%	100%	103%		101%	100%	102%	109%		99%	100%

## 危険物施設数（類別）

（平成30年12月31日現在）

施設別 類別	合 計	製 造 所	貯 蔵 所								取 扱 所				
			小 計	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タンク 貯蔵所	屋 内 タンク 貯蔵所	地 下 タンク 貯蔵所	簡 易 タンク 貯蔵所	移 動 タンク 貯蔵所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所	移 送 取 扱 所
合 計	759	10	499	60	162	11	104		145	17	250	74		175	1
第 1 類	3	1	2	2											
第 2 類															
第 3 類															
第 4 類	744	6	490	52	162	10	104		145	17	248	74		173	1
第 5 類	3		3	2		1									
第 6 類															
混 在	9	3	4	4							2			2	

## 危険物施設数（数量別）

（平成30年12月31日現在）

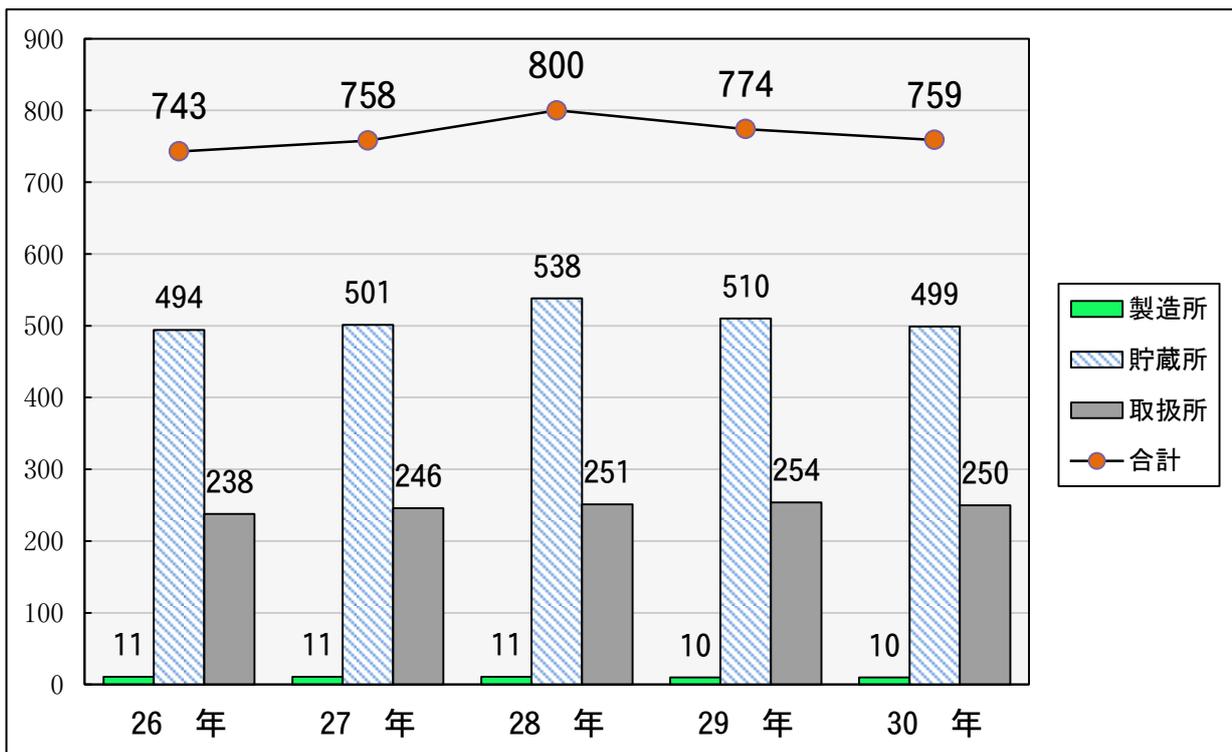
施設別 数量	合 計	製 造 所	貯 蔵 所								取 扱 所				
			小 計	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タンク 貯蔵所	屋 内 タンク 貯蔵所	地 下 タンク 貯蔵所	簡 易 タンク 貯蔵所	移 動 タンク 貯蔵所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所	移 送 取 扱 所
合 計	759	10	499	60	162	11	104		145	17	250	74		175	1
5 倍 以 下	234	2	166	17	10	7	38		90	4	66	5		61	
5倍を超え10倍以下	102	2	67	12	19	4	31			1	33	5		28	
10 " 50 "	248	1	169	12	64		29		53	11	78	21		57	
50 " 100 "	74	4	34	14	17		3				36	15		21	
100 " 150 "	33		24	3	17		2		2		9	9			
150 " 200 "	8										8	8			
200 " 1,000 "	43	1	30	2	26		1			1	12	11		1	
1,000 " 5,000 "	5		2		2						3			3	
5,000 " 10,000 "	3		3		3										
10,000倍を超えるもの	9		4		4						5			4	1

## 第4類（可燃性液体）屋外貯蔵タンク数（容量別）

容量(KL)	100未満	100以上 ～1,000未満	1,000以上 ～10,000未満	10,000以上
合計	131	22	5	4
	162			

## 危険物施設過去5年間の推移

年	製造所	貯蔵所	取扱所	合計
26年	11	494	238	743
27年	11	501	246	758
28年	11	538	251	800
29年	10	510	254	774
30年	10	499	250	759



# 危険物製造所・貯蔵所・取扱所等申請処理状況

(平成30年12月31日現在)

種別	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
給油取扱所	設置許可													
	変更許可	1	1			2			1		1			6
一般取扱所	設置許可	1	2					1		2	1	3	1	11
	変更許可		1	2		2						2		7
移送取扱所	設置許可													
	変更許可									1				1
簡易タンク貯蔵所	設置許可													
	変更許可													
屋外貯蔵所	設置許可													
	変更許可													
屋内貯蔵所	設置許可													
	変更許可								1				1	2
地下タンク貯蔵所	設置許可											1	1	2
	変更許可													
屋外タンク貯蔵所	設置許可	1					1					1		3
	変更許可							1						1
屋内タンク貯蔵所	設置許可													
	変更許可													
移動タンク貯蔵所	設置許可			1									3	4
	変更許可	5			1			1		1			1	9
製造所	設置許可													
	変更許可		1		1	1		2				1		6
小計		8	5	3	2	5	1	5	2	4	2	8	7	52
水圧検査申請書				1										1
水張検査申請書														
完成検査申請書		7	2	3	4	1	6	1	3	2	2		4	35
仮貯蔵・仮取扱承認申請書		2	4	2			1	5	1	4	3	2		24
譲渡引渡届						1		1			2		1	5
品名・数量・倍数変更届					3					2				5
廃止届		1	1	9	1	6	1	2		1	9			31
保安検査申請書														
仮使用申請書		1	2		1	3		2	2	1		2	1	15
小計		11	9	15	9	11	8	11	6	10	16	4	6	116
合計		19	14	18	11	16	9	16	8	14	18	12	13	168



# 警 防



平成30年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練 平成30年11月17日 実施



## 相互応援協定等

消防は、消防組織法に基づきそれぞれの市町村の責任において消防業務を処理しているが、特に市町村境界付近については、消防力を互いに補完しあうことにより災害の拡大防止を図っている。

### 相互応援協定

名 称	協定先	締結年月日	内 容
消 防 相 互 応 援 協 定	相馬地方広域組合	昭和48年4月1日	火災、救急、その他の災害
	郡山地方広域組合	昭和48年12月1日	
	いわき市	昭和49年12月1日	
	伊達地方消防組合	昭和58年9月1日	
福島県広域消防協定	県内 11 消防本部	平成9年12月26日	大規模災害、特殊災害、その他の災害
火災原因調査に係る協定	県内 11 消防本部	平成11年12月27日	大規模、又は特異な火災原因調査
常磐自動車道消防協定	いわき市	平成14年1月23日	高速道路の火災、救急、救助、その他の災害
常磐自動車道消防協定	相馬地方広域組合	平成26年8月8日	高速道路の火災、救急、救助、その他の災害

### 協 定 等

名 称	協定先	締結年月日	内 容
小名浜海上保安部と双葉地方広域市町村圏組合消防機関との業務協定	小 名 浜 海 上 保 安 部	昭和53年7月20日	船舶火災
原子力発電所における消防活動に関する消防機関と事業者との協定	東 京 電 力 株 式 会 社 福 島 第 一 ・ 第 二 原 子 力 発 電 所	平成14年5月30日	火災、救急、救助
災害・武力攻撃事態等における医療救護活動協定	双葉郡8町村、社団法人双葉郡医師会 双葉郡歯科医師会、双葉郡薬剤師会 社 団 法 人 福 島 県 看 護 協 会	平成19年11月1日	医療救護活動
鉄道災害時における鉄道事業者と消防機関との連携に関する覚書	鉄 道 事 業 者	平成22年3月29日	鉄道災害（火災は鉄道沿線を含む）
福島県ふたば医療センター附属病院医師等の救急現場出動に関する協定	福 島 県 ふ た ば 医 療 セ ン タ ー 附 属 病 院	平成30年8月21日	救急
災害時における大型重機等の支援要請に関する協定	福 島 県 建 設 業 協 会 双 葉 支 部	平成30年9月10日	火災、救助



# 消 防 力 の 現 況

(平成30年12月31日現在)

管内市町村			現	水槽付消防ポンプ自動車	3	消	団本部	8		
人 口	62,882人			有	消防ポンプ自動車		4	分 団 数	53	
					三 点 セ ツ ト		大型高所放水車			1
大型化学車	1									
泡原液搬送車	1									
面 積	865.12km <sup>2</sup>		消	救助工作車		1	人 員	1,448		
防 機 構	消防本部	1		防	大型水槽車				2	水槽付消防ポンプ 自動車
	消防署	2	資器材搬送車		3					
	分署	1	機		支援車 [I型]		1	消防ポンプ 自動車	27	
	出張所	2			救急自動車 [高規格救急自動車]		7			可搬動力 ポンプ
人 員			126	械	指揮車		2	搭 載 車	80	
					広報車・連絡車 (原子力防災車含む)		10			

# 通信施設の現況

(平成30年12月31日現在)

機器名	配置所署						計
	消防本部	浪江消防署	葛尾出張所	富岡消防署	檜葉分署	川内出張所	
指令装置							
指令台	2						2
地図等検索装置	2						2
長時間録音装置	1						1
非常用指令設備	1						1
指令制御装置	2						2
携帯電話・IP電話受信転送装置	1						1
所署端末装置		1	1	1	1	1	5
無線指令受付装置		1	1	1	1	1	5
表示盤	3						3
無線統制台	1						1
指令伝送装置							
送信装置	1						1
出力装置		1	1	1	1	1	5
気象情報収集装置	1						1
災害状況等自動案内装置	1						1
順次指令装置	1						1
音声合成装置	1						1
システム監視装置	1						1
電源設備	1	1	1	1	1	1	6
統合型位置情報通知装置	1						1
携帯電話一斉指令装置	1						1
IT情報端末	2						2
119受信FAX	1						1
回線多重化装置	1						1
消防情報支援システム							
消防情報管理装置	1						1
消防情報支援端末装置	1	3	1	3	2	1	11
避雷装置	1	1	1	1	1	1	6
専用回線							
電力施設	3						3
県総合情報	1						1
県緊急時連絡網装置	2						2
消防用無線（アナログ）							
固定局/基地局	1						1
車載型							
携帯(可搬型含)	1	1	1	1	1	1	6
消防用無線（デジタル）							
固定局/基地局	1						1
移動局							
卓上型		1	1	1	1	1	5
車載型	2(3)	8(1)	3	9(2)	5	3	36
※括弧内は県備	2(1)	6(21)	2	6(21)	3(11)	2	75

# 消防水利の現況

(平成30年12月31日現在)

種 別 町村別	消 火 栓			防 火 水 槽									
	小 計	公 設	私 設	小 計	公 設				私 設				
					100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 以上 100m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 以上 60m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 以上 40m <sup>3</sup> 未満	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 以上 100m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 以上 60m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 以上 40m <sup>3</sup> 未満	
広野町	556	228	338	39	1		30			2		6	
檜葉町	284	232	52	90			61	22				7	
富岡町	276	221	55	87	1		80		1	1		4	
川内村				85			84					1	
大熊町	190	138	52	117		1	75					41	
富岡消防署管内 小計	1,316	819	497	418	2	1	330	22	3	1		59	
双葉町	289	268	21	48			29					13	6
浪江町	363	361	2	56			49	1				6	
葛尾村	23	23		38			38						
浪江消防署管内 小計	675	652	23	142			116	1				19	6
合計	1,991	1,471	520	560	2	1	446	23	3	1		78	6

# 消防車両の現況

(平成30年12月31日現在)

所 属	署 所	車 種 名	社 名	登 録 番 号	登 録 年 月 日	型 式 等	備 考
消 防 本 部	消 防 本 部 仮 庁 舎	指揮車 (双葉11)	トヨタ	いわき 800 さ 8170	平成 27 年 9 月 24 日		
		原子力防災車 (双葉12)	ニッサン	いわき 800 さ 3765	平成 16 年 2 月 27 日	資機材搬送車	
		原子力防災車 (双葉13)	トヨタ	いわき 800 さ 7205	平成 25 年 3 月 26 日	指揮/広報車	
		原子力防災車 (双葉34)	三菱	いわき 800 さ 7571	平成 26 年 3 月 5 日	資機材搬送車	
		支援車 (双葉支援11)	いすゞ	いわき 800 は 568	平成 25 年 2 月 25 日		緊急消防援助隊 後方支援小隊 登録
浪 江 消 防 署		広報車 (双葉21)	ニッサン	いわき 800 さ 8578	平成 28 年 12 月 21 日		
		原子力防災車 (双葉22)	ニッサン	いわき 800 さ 4739	平成 18 年 3 月 27 日	資機材搬送車	緊急消防援助隊 後方支援小隊 登録
		資機材搬送車 (双葉23)	ニッサン	いわき 800 さ 6726	平成 24 年 3 月 5 日		大阪市消防局 譲受
		ポンプ車 (双葉ポンプ21)	日野	いわき 800 さ 8193	平成 27 年 10 月 13 日	CAFS搭載 水槽 800ℓ	緊急消防援助隊 消火小隊 登録
		タンク車 (双葉タンク21)	日野	いわき 800 は 760	平成 27 年 10 月 16 日	水槽 1,500ℓ	
		資機材搬送車 (双葉搬送21)	日野	いわき 800 さ 7216	平成 25 年 3 月 28 日		大阪市消防局 譲受
		大型水槽車 (双葉水槽21)	ニッサン	いわき 800 は 483	平成 24 年 4 月 12 日	水槽 10,000ℓ	富士市消防本部 譲受
		救急車 (双葉救急21)	トヨタ	いわき 800 さ 7943	平成 27 年 2 月 17 日	高規格救急車	緊急消防援助隊 救急小隊 登録
		救急車 (双葉救急22)	ニッサン	いわき 800 さ 7539	平成 26 年 2 月 14 日	高規格救急車	
葛 尾 出 張 所		ポンプ車 (双葉ポンプ22)	日野	いわき 800 さ 6040	平成 22 年 2 月 10 日	CAFS搭載 水槽 600ℓ	
		救急車 (双葉救急23)	トヨタ	いわき 800 さ 7941	平成 27 年 2 月 17 日	高規格救急車	
		連絡車 (双葉連絡21)	スズキ	いわき 580 ち 8000	平成 28 年 10 月 25 日		
富 岡 消 防 署		指揮車 (双葉31)	スバル	いわき 800 さ 6263	平成 22 年 10 月 19 日		
		原子力防災車 (双葉32)	三菱	いわき 800 さ 8340	平成 28 年 3 月 24 日	資機材搬送車	
		タンク車 (双葉タンク32)	日野	いわき 800 は 324	平成 20 年 2 月 1 日	CAFS搭載 水槽 1,500ℓ	緊急消防援助隊 消火小隊 登録
		大型水槽車 (双葉水槽31)	日野	いわき 800 は 478	平成 24 年 3 月 12 日	水槽 10,000ℓ	新城市消防本部 譲受
		救助工作車 (双葉救助31)	日野	いわき 800 は 522	平成 24 年 10 月 22 日	II 型	
		大型高所放水車 (双葉高所31)	日野	いわき 88 や 1341	平成 11 年 1 月 8 日	30m級	
		泡原液搬送車 (双葉原液31)	三菱	いわき 800 は 192	平成 16 年 3 月 9 日	原液槽 6,000ℓ	
	救急車 (双葉救急31)	ニッサン	いわき 800 さ 7540	平成 26 年 2 月 14 日	高規格救急車	緊急消防援助隊 救急小隊 登録	
楯 葉 分 署		広報車 (双葉33)	トヨタ	いわき 800 さ 8919	平成 30 年 1 月 18 日		
		ポンプ車 (双葉ポンプ31)	日野	いわき 800 さ 8194	平成 27 年 10 月 13 日	CAFS搭載 水槽 800ℓ	緊急消防援助隊 消火小隊 登録
		タンク車 (双葉タンク31)	日野	いわき 800 は 289	平成 19 年 1 月 17 日	水槽 1,500ℓ	緊急消防援助隊 消火小隊 登録
		大型化学車 (双葉化学31)	三菱	いわき 800 は 13	平成 16 年 2 月 6 日	原液槽 2,000ℓ	
		資機材搬送車 (双葉搬送31)	日野	いわき 800 さ 7217	平成 25 年 3 月 28 日		大阪市消防局 譲受
		マイクロバス (双葉支援31)	ニッサン	いわき 800 さ 8674	平成 29 年 3 月 24 日	要員搬送車	乗車定員 25人
		救急車 (双葉救急32)	トヨタ	いわき 800 さ 6743	平成 24 年 3 月 9 日	高規格救急車	JA共済連福島 受贈
		救急車 (双葉救急33)	ニッサン	いわき 800 さ 7541	平成 26 年 2 月 14 日	高規格救急車	
川 内 出 張 所		ポンプ車 (双葉ポンプ32)	日野	いわき 800 さ 5688	平成 21 年 2 月 17 日	CAFS搭載 水槽 600ℓ	
		救急車 (双葉救急34)	トヨタ	いわき 800 さ 5368	平成 20 年 1 月 10 日	高規格救急車	
		連絡車 (双葉連絡31)	スズキ	いわき 580 ち 8001	平成 28 年 10 月 25 日		

# 県備品原子力防災資器材の現況

(平成30年12月31日現在)

品 名	型 式	保有数
サ - ベ イ メ - タ	日立アロカメディカル 電離箱式 ICS-311	6
	日立アロカメディカル 電離箱式 ICS-321	13
	日立アロカメディカル 電離箱式 ICS-323	5
	日立アロカメディカル GM管式 TGS-136	3
	日立アロカメディカル GM管式 TGS-146	4
	富士電機 GM管式 NHJ120	13
	日立アロカメディカル シンチレーション式 TCS-171	5
	日立アロカメディカル ヘリウム管式 TPS-451C	1
線量マッピングシステム	ポリマスター PM1703MO-1B	3
熱画像直視装置	アルゴス 4HR320	1
電子式ポケット線量計	パナソニックSN九州 ZP-144P	133
放射能標準ガンマ線源	日本アイソトープ協会 ガンマ線源401タイプ	1
個人被ばく線量管理システム一式	原子力エンジニアリング	1
災害時情報提供システム	ゼンリン OA-Light II 一式・パソコン・プリンター一式	1
	ゼンリン OA-Light III 一式・パソコン・プリンター・ラック・椅子	1
大判プリンター 大判コピーシステム	CANON iPF650 CiC24 MFP	1
	Canon iPF785 M40 MFP Tray	1
特殊耐熱服	重松製作所 FC-30PM (アルミ蒸着品)	6
内部装着式放射線防護服	重松製作所 KH-3型インナーサーベージスーツ	14
化学防護服	重松製作所 PS-2100-R (呼吸器内装型)	8
	ドレーゲル ワークマスタープロ R29400 (呼吸器外装型)	6
	ドレーゲル ワークマスタープロET R29401 (呼吸器外装型)	4
	ドレーゲル CPS7900 R29500 (呼吸器内装型)	12
化学防護服の気密試験器	ドレーゲルテストセット	3
空気呼吸器	川崎防災工業 Z-30	28
	川崎防災工業 A-1	10
	エア・ウォーター防災 A1-08	10
	ドレーゲル PSS90	10
	ドレーゲル PSS100	10
	ドレーゲル PSS7000 (被ばく患者搬送用呼吸器)	2
	MSA BD96 (01-564186)	10
レスクマスキ	ドレーゲル レスクマスク ハーフマスク R 55875	3
カーボン製空気ボンベ	川崎防災工業 8 <sup>リットル</sup> (815CZ) O J	49
	ドレーゲル (6.8 <sup>リットル</sup> ) 29.4Mpa (TC6830)	15
	ドレーゲル ライトプラスゲージ内蔵型29.4Mpa (TC6831)	10
	ブルーネッカー 29.4Mpa (730C II Z)	40
	カーボンライトシリンダ CH-45 JIS 150ビルトイン	10
	ドレーゲル製 ウルトラレッサ-ゲージ内蔵型ALT-630J	30
酸素呼吸器	川崎防災工業 OXY-GEM-11	8
高圧酸素用ボンベ (予備)	川崎防災工業 SB-1.7 128F	8

品名	型式	保有数
発電機	HONDA EU16i	1
	HONDA EU24i	1
	HONDA EUインバーター16i	5
投光器（コードリール付き）	シールドビーム投光器500W K-500	1
	HAYATA防災用ハロゲンライト PHCX-505KS	5
車載照明装置	メタルハライド照明装置 ナイトとスキャンチーフ	3
自立型照明装置	エアーライト（発動機ホンダEU16i付き）	3
ラジオ付強力ライト	BF-759RB	17
マイクロバス	トヨタ コースター（拡声器・スタットレスタイヤ含）	1
原子力防災車	トヨタ エスティマHV（警告灯・拡声器・スタットレスタイヤ・衛生電話含）	1
	ニッサン キャラバン（赤色灯・スタットレスタイヤ含）	3
	三菱 デリカD:5	1
車載無線機	日本無線 JHM-201S10ST	6
可搬型無線機一式	日本無線 JHR-292E	4
携帯無線電話装置一式	日本無線 JHP-228SO5T	28
	アイコム IC-VH37MFT	11
	STANDARD VX-581IVFT	10
映像伝送装置（ドコモ携帯）	NTTドコモ FOMA SH900i シャープ製	3
特定小電力トランシーバー	ウエッジ icon IC-4800	16
	STANDARD FTH-108	14
トランシーバー中継器	STANDARD BOOMER RP88	2
電気メガホン	TOAハンドマイク大一式 ER-81W	2
	TR315S	4
	TOAハンドマイク大一式 ER-3115	2
	TOAハンドマイク防滴メガホン ER-1115	2
	noboruトランジスタメガホン TS-711	2
	TOA ER-115	4
	ユニボックス製 TR-315	5
	(株)ノボル電機製作所TS-623	15
エアー式テント一式	住友電工ハイブリット SAT-663G	1
	藤倉ゴム工業 F-36	1
除線シャワーテント一式	プライケム DP-1	2
	伊藤忠商事 除染システム MC-2	1
除染テント用接続資器材	ブレードホース 媒介金具	3
RI除染キット	千代田テクノル TH-E3301	4
エアーコンプレッサー	パウアーコンプレッサー MARINER-II	2
携帯警報機	GRACE スーパーパスII	25
レスキューセット	CMC スタンダード	2
ストレッチャー	スノッグ ストレッチャーモデル1032	20
	CMC タイタンti一体型	1
全身固定用ボード一式（ストラップ等含む）	日本船舶薬品 ハイテクバックボード2010、ストラップ436-BG、ヘッドイモビライザー445	9

# 消防資器材の現況

(平成30年12月31日現在)

種 別		配置別	合計	浪江 消防署	葛尾 出張所	富岡 消防署	檜葉 分署	川内 出張所
消火用資器材・放水器具	ホース 65mm		367	108	47	49	125	38
	ホース 50mm		224	77	36	26	69	16
	山火事用ホース							
	水幕用ホース		11	3	2	2	2	2
	管鎗 65mm		15	3	1	3	7	1
	管鎗 50mm		11	2	1	4	4	
	特殊管鎗 (ガンタイプ/無反動/フォグガン/ロータリー)		36	14	4	2	14	2
	エア-ホームプロポ-ショナー		9	1	1	1	6	
	発泡装置 (東消式)		1				1	
	ラインプロポ-ショナー		5	1	1	1	1	1
	小型ポンプ (山火事用)		1			1		
	背負い式ポンプ		83	42	3	2	30	6
	組立水槽		2				1	1
	低水位ストレーナー		7	2	1	1	2	1
	フローティングストレーナー		12	2	2	2	4	2
三点セット用資器材	ホース 65mm×20m (ネジ)							
	ホース 65mm×35m (町野)		1				1	
	ホース 75mm×10m (ネジ)							
	ホース 75mm×10m (町野)		5				5	
	ホース 75mm×20m (ネジ)		2				2	
	管鎗 65mm		4				4	
	投光器一式		4				4	
	発電機		2				2	
	ドラム吸液用ピックアップ		2				2	
	放水銃 (ターレット)		2				2	
一般救助用器具	かぎ付きはしご		3	1			2	
	三連はしご		6	2		1	3	
	金属製折りたたみはしご							
	ワイヤはしご		1				1	
	空気式救助マット		1				1	
	救命索発射銃		2				2	
	サバイバースリング		2	1			1	
	救助用縛帯		3	1		1	1	
	平担架		2	1			1	
重量物排除用器具	油圧ジャッキ		1					1
	油圧スプレッダー		2				2	
	可搬ウィンチ		2	1			1	
	ワイヤロープ		17	8	1	2	5	1
	マンホール救助器具		2	1			1	
	マット型空気ジャッキ一式		2	1			1	
	大型油圧スプレッダー		3	1		1	1	
	チェーンブロック		2	1			1	
切断用器具	油圧切断機		3	1			2	
	エンジンカッター		2	1			1	
	ガス溶断器		1				1	
	チェーンソー		4	1	1		1	1
	鉄線カッター		15	5	2	1	6	1
	空気鋸		1				1	
	大型油圧切断機		2			1	1	
	空気切断機		1				1	
コンクリート・鉄筋切断用チェーンソー		1				1		

種 別	配置別	合計	浪江 消防署	葛尾 出張所	富岡 消防署	檜葉 分署	川内 出張所
		破壊 用 器具	万能斧	14	6	1	1
	ハンマー	11	4	2		4	1
	携帯用コンクリート破壊器具	1				1	
	削岩機	1				1	
	ハンマドリル	1				1	
検 知 ・ 測 定 用 器 具	可燃性ガス測定器	6	2			3	1
	放射線測定器						
呼 吸 保 護 用 器 具	空気呼吸器	33	8	3		19	3
	予備ボンベ（空気）	62	28			31	3
	酸素呼吸器						
	予備ボンベ（酸素）						
	防塵マスク	5				5	
	送排風機	1				1	
隊 員 保 護 用 器 具	耐電手袋	31	8	1	5	17	
	安全帯	27	10	3		14	
	防塵メガネ						
	携帯警報器	5				5	
	防毒マスク	5				5	
	化学防護服（陽圧式化学防護服を除く）						
	陽圧式化学防護服						
	耐熱服						
	放射線防護服						
	耐電衣	4				4	
	耐電ズボン	2				2	
	耐電長靴	4				4	
	クーリングベスト	191	119	6		56	10
水 難 救 助 用 器 具	救命胴衣	39	11		3	16	9
	水中投光器						
	救命浮環	17	2		4	8	3
	浮標						
	救命ボート	1				1	
	船外機	1	1				
山 岳 救 助 用 器 具	登山器具一式	1				1	
	バスケット担架	4	1	1	1	1	
そ の 他 の 救 助 用 器 具	投光器一式	9	3	1	1	3	1
	携帯投光器	11				11	
	携帯拡声器	10	4		1	5	
	携帯無線機	19				17	2
	応急処置用セット	4				3	1
	その他の携帯救助器具	1				1	
	緩降器	1				1	
	ロープ登降器	1				1	
	発電機	16	3		3	9	1
検 査 器 具 ・ 調 査 器 具	張力計	2	1			1	
	自動火災報知器用試験器						
	水圧試験器						
	ピトーゲージ	4			1	3	
	絶縁測定器	5	2	1		2	
そ の 他	火災原因調査器具一式	8	1	1	1	4	1
	119番通報訓練装置	1				1	
	テント						
	双眼鏡						
	コンプレッサー	1				1	
	カーナビゲーション	13	5		2	5	1

# 町村別救助活動状況

(平成30年12月31日現在)

町村別		事故種別		交通 事故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	計	
		建 物	建 物 以 外										
広野町	出動件数			4					1		1	6	
	活動件数			1					1		1	3	
	救助人員			2					1		2	5	
	うち 高速	出動件数											
活動件数													
救助人員													
檜葉町	出動件数			2	1		1				1	5	
	活動件数			1	1		1				1	4	
	救助人員			1	1		1				1	4	
	うち 高速	出動件数		1									1
活動件数													
救助人員													
富岡町	出動件数			2							2	4	
	活動件数			1								1	
	救助人員			2								2	
	うち 高速	出動件数											
活動件数													
救助人員													
川内村	出動件数			2								2	
	活動件数												
	救助人員												
大熊町	出動件数			1							1	2	
	活動件数										1	1	
	救助人員										1	1	
	うち 高速	出動件数											
活動件数													
救助人員													
双葉町	出動件数												
	活動件数												
	救助人員												
	うち 高速	出動件数											
活動件数													
救助人員													
浪江町	出動件数			4								4	
	活動件数			1								1	
	救助人員			1								1	
	うち 高速	出動件数		1									1
活動件数													
救助人員													
葛尾村	出動件数												
	活動件数												
	救助人員												
圏域外	出動件数			2								2	
	活動件数												
	救助人員												
	うち 高速	出動件数		2									2
活動件数													
救助人員													
合計	出動件数			17	1		1		1		5	25	
	活動件数			4	1		1		1		3	10	
	救助人員			6	1		1		1		4	13	
	うち 高速	出動件数		4									4
		活動件数											
	救助人員												

## 過去5年間の救助活動状況

(平成30年12月31日現在)

年 別	事故種別	火災		交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	合 計
		建 物	建 物 以 外									
平成26年	出動件数			15			1				3	19
	活動件数			6							1	7
	救助人員			6							1	7
平成27年	出動件数			10	2		1				9	22
	活動件数			6							6	12
	救助人員			7							6	13
平成28年	出動件数	1		16	1		4				4	26
	活動件数	1		11	1						2	15
	救助人員	1		17	1						2	21
平成29年	出動件数			27					2		7	36
	活動件数			15					1		4	20
	救助人員			17							4	21
平成30年	出動件数			17	1		1		1		5	25
	活動件数			4	1		1		1		3	10
	救助人員			6	1		1		1		4	13
合 計	出動件数	1		85	4		7		3		28	128
	活動件数	1		42	2		1		2		16	64
	救助人員	1		53	2		1		1		17	75

# 消防車両の活動状況

(平成30年12月31日現在)

区分 月別	合計			火災出動			救急出動		
	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両
1月	559	1,433	718				88	259	88
2月	451	1,194	610	2	50	16	60	178	60
3月	624	1,459	824	2	63	22	78	231	78
4月	469	1,189	596	1	26	10	61	184	61
5月	586	1,433	785				64	193	64
6月	545	1,359	647				59	176	59
7月	600	1,551	721				109	331	109
8月	612	1,581	774				142	429	142
9月	511	1,239	636				69	214	69
10月	559	1,340	741				73	221	73
11月	529	1,351	732	1	31	13	89	269	89
12月	596	1,476	797	6	109	41	93	281	93
合計	6,641	18,943	7,109	12	279	102	985	2,966	985

区分 月別	その他の出動			演習・訓練等			広報・指導		
	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両
1月	18	50	18	67	195	76	11	25	11
2月	13	40	14	43	123	44	12	37	17
3月	25	75	27	64	188	68	127	299	129
4月	17	50	18	47	140	47	10	38	14
5月	17	49	17	81	265	93	27	75	28
6月	15	45	16	52	143	53	36	112	40
7月	22	72	31	41	124	45	60	148	65
8月	27	97	37	60	168	64	31	78	35
9月	30	83	33	63	165	67	15	46	22
10月	19	69	27	79	232	86	21	55	24
11月	13	46	18	64	191	71	91	245	101
12月	21	60	25	46	125	50	22	51	22
合計	237	736	281	707	2,059	764	463	1,209	508

区分 月別	救助出動			風水害等の災害出動			搜索出動			誤報等出動		
	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両
1月	6	80	28							1	19	7
2月	1	12	4							4	40	15
3月	2	16	5	1	10	5				2	8	3
4月										2	6	2
5月	1	15	5							2	11	4
6月	1	9	3							4	20	7
7月	1	11	4							7	60	22
8月	3	55	20							22	8	3
9月	1	15	5				1	10	4	2	6	2
10月	2	25	8							5	40	16
11月	4	71	27							2	18	7
12月	3	38	13							1	3	1
合計	25	347	122	1	10	5	1	10	4	34	239	89

区分 月別	警防調査			火災調査			特別警戒			予防査察		
	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両	回数	延人数	延車両
1月	50	139	50				291	800	294	27	61	27
2月	16	46	16	4	12	4	258	729	266	38	100	41
3月	25	60	25	4	9	4	249	650	250	45	101	47
4月	20	50	22				272	771	273	39	90	40
5月	41	118	45	1	4	1	306	861	310	46	107	46
6月	45	108	45				269	738	269	64	151	65
7月	48	123	51				262	691	263	50	115	52
8月	24	66	27				280	755	297	43	93	45
9月	25	66	26				253	680	257	52	119	53
10月	34	94	34				254	670	255	72	166	72
11月	26	71	26	3	8	3	178	483	178	58	140	61
12月	42	109	44	4	16	6	278	727	279	80	191	80
合計	396	1,050	411	16	49	18	3,150	8,555	3,191	614	1,434	629

## 気象注意報発令状況

(平成30年12月31日現在)

種別	月別												計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
大雨特別警報													
大雪特別警報													
暴風特別警報													
暴風雪特別警報													
波浪特別警報													
高潮特別警報													
大雨警報								1		1			2
洪水警報								1		1			2
大雪警報	1												1
暴風警報	2	2	3	2				1	2				12
暴風雪警報	2												2
波浪警報			3				1	1	2				7
高潮警報													
大雨注意報			1					2	1				4
洪水注意報			1		1		1	2	1	1			7
大雪注意報	1											1	2
強風注意報	8	7	10	11	6	4	3	4	7	7	6	12	85
風雪注意報	4											1	5
波浪注意報	6	5	8	6	3	2	3	3	6	5	1	4	52
高潮注意報	1				1	2	2	2	4	3	2	3	20
濃霧注意報	4	3	5	5	12	13	11	11	12	18	12	5	111
雷注意報		1	1	1	10	6	16	16	6	3	1		61
乾燥注意報	4	4	2	4	1							3	18
なだれ注意報	1												1
着氷注意報													
着雪注意報	1											1	2
融雪注意報													
霜注意報			8	7	1					6	20		42
低温注意報	2	2			1			1					6
合計	37	24	42	36	36	27	37	45	41	45	42	30	442

## 火災気象注意報発令状況

(平成30年12月31日現在)

基準別	月別												計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
(イ)の基準	3	3	2	4	1							2	15
(ロ)の基準	3	2	5	4	2			1		2		5	24
合計	6	5	7	8	3			1		2		7	39

# 火 災



平成30年度避難指示区域内における大規模火災対応訓練 平成30年5月25日 実施



# 火災発生状況

(平成30年12月31日現在)

区分 町村別	火災発生件数				焼失面積		損害見積額(千円)				焼失棟数			り災世帯		罹災人員		死傷者								
	建物	一般住宅	林	車	船	その他	建物(m <sup>2</sup> )	林野(a)	計	建物	収容物	野	両	船	その他	全焼	火元棟		延焼棟	全	半	小	死	傷者		
																	全	部分							全	部分
広野町	1	1					262		29,012	28,780	232								2	3	1			1	1	
檜葉町	2	2					1		683	31	652							1	1						2	
富岡町	1																									
川内村	2		2					40	167		167														1	
大熊町	3			1					3,879																	
岡富消防署	9	3	2	2	1		263	40	33,741	28,811	884	167	1,608					1	1	2	3	1			3	2
双葉町	1	1					58											1								
浪江町	1																									
葛尾村	1																									
浪江消防署	3	1					58											1								
合計	12	4	2	2	1		321	40	33,741	28,811	884	167	1,608				2,271	1	1	2	4	1			3	2

\* 焼失面積、損害見積額については、類焼による場合を含む。死者(48時間以内)

\* 「30日死者」、火災によって負傷した者が、負傷後48時間を経過して、30日以内に死亡した者。

# 町村別・月別火災発生件数

(平成30年12月31日現在) (単位：千円)

町村別	月 別												合 計
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	
広 野 町	件数	1											1
	損害額		29,012										29,012
檜 葉 町	件数		1									1	2
	損害額		600									83	683
富 岡 町	件数											1	1
	損害額												
川 内 村	件数			1	1								2
	損害額				167								167
大 熊 町	件数									1	2		3
	損害額									3,004	875		3,879
富岡消防署	件数		2	1	1					1	4		9
	損害額		29,612		167					3,004	958		33,741
双 葉 町	件数											1	1
	損害額												
浪 江 町	件数											1	1
	損害額												
葛 尾 村	件数			1									1
	損害額												
浪江消防署	件数			1								2	3
	損害額												
件 数	合計		2	2	1					1	6		12
	損害額		29,612		167					3,004	958		33,741

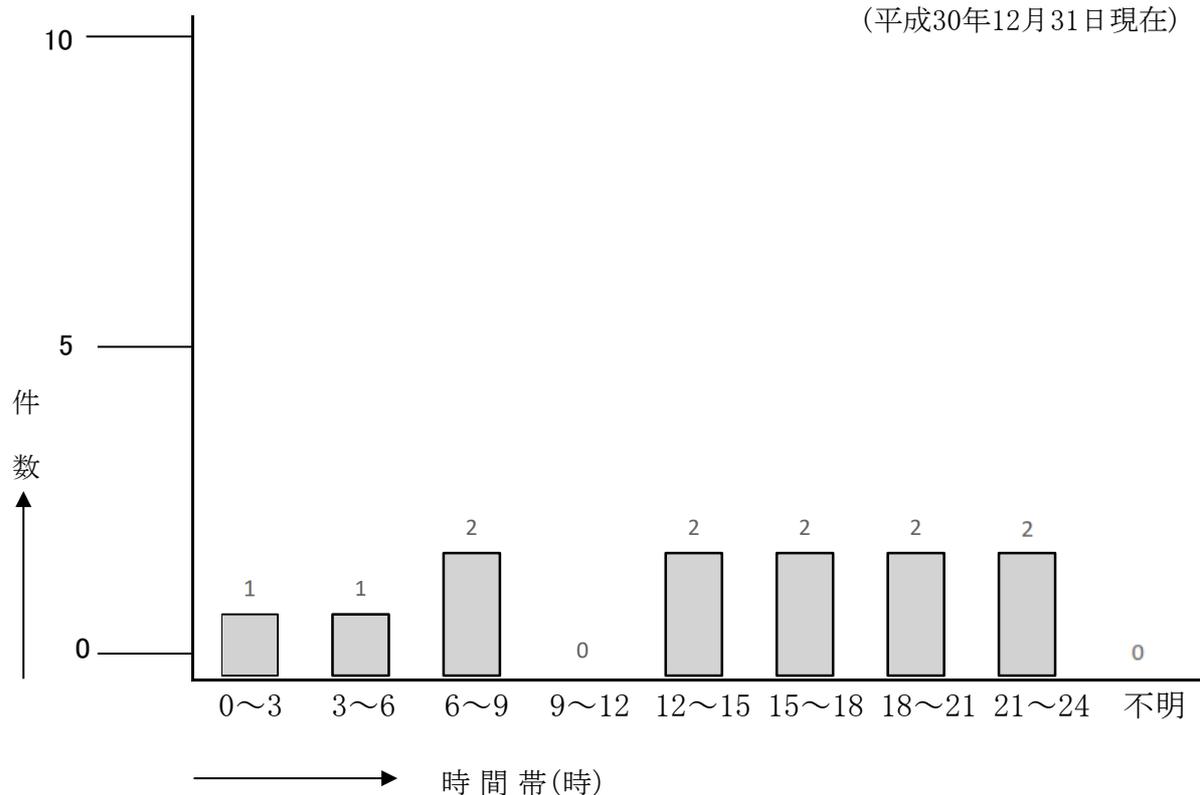
## 町村別・月別焼損面積

(平成30年12月31日現在)

町村別	種 別	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	合 計
広 野 町	建物火災 (㎡)		262											262
	山林原野火災 (a)													
檜 葉 町	建物火災 (㎡)												1	1
	山林原野火災 (a)													
富 岡 町	建物火災 (㎡)													
	山林原野火災 (a)													
川 内 村	建物火災 (㎡)			37										40
	山林原野火災 (a)				3									
大 熊 町	建物火災 (㎡)													
	山林原野火災 (a)													
富岡消防署	建物火災 (㎡)		262										1	263
	山林原野火災 (a)			37	3									40
双 葉 町	建物火災 (㎡)												58	58
	山林原野火災 (a)													
浪 江 町	建物火災 (㎡)													
	山林原野火災 (a)													
葛 尾 村	建物火災 (㎡)													
	山林原野火災 (a)													
浪江消防署	建物火災 (㎡)												58	58
	山林原野火災 (a)													
合 計	建物火災 (㎡)		262										59	321
	山林原野火災 (a)			37	3									40

## 時間帯による火災発生件数

(平成30年12月31日現在)



## 曜日別火災発生件数

(平成30年12月31日現在)

月別 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	不明	合計
1 月									
2 月	1				1				2
3 月		1					1		2
4 月							1		1
5 月									
6 月									
7 月									
8 月									
9 月									
10 月									
11 月				1					1
12 月	2	2	2						6
合計	3	3	2	1	1		2		12

# 気象別火災発生件数

## 湿度別

(平成30年12月31日現在)

湿度 月別	30%未満	30%以上	40%以上	50%以上	60%以上	70%以上	80%以上	90%以上	不明	合計
1月										
2月			1	1						2
3月					1			1		2
4月							1			1
5月										
6月										
7月										
8月										
9月										
10月										
11月					1					1
12月					4	1	1			6
合計			1	1	6	1	2	1		12

## 風速別

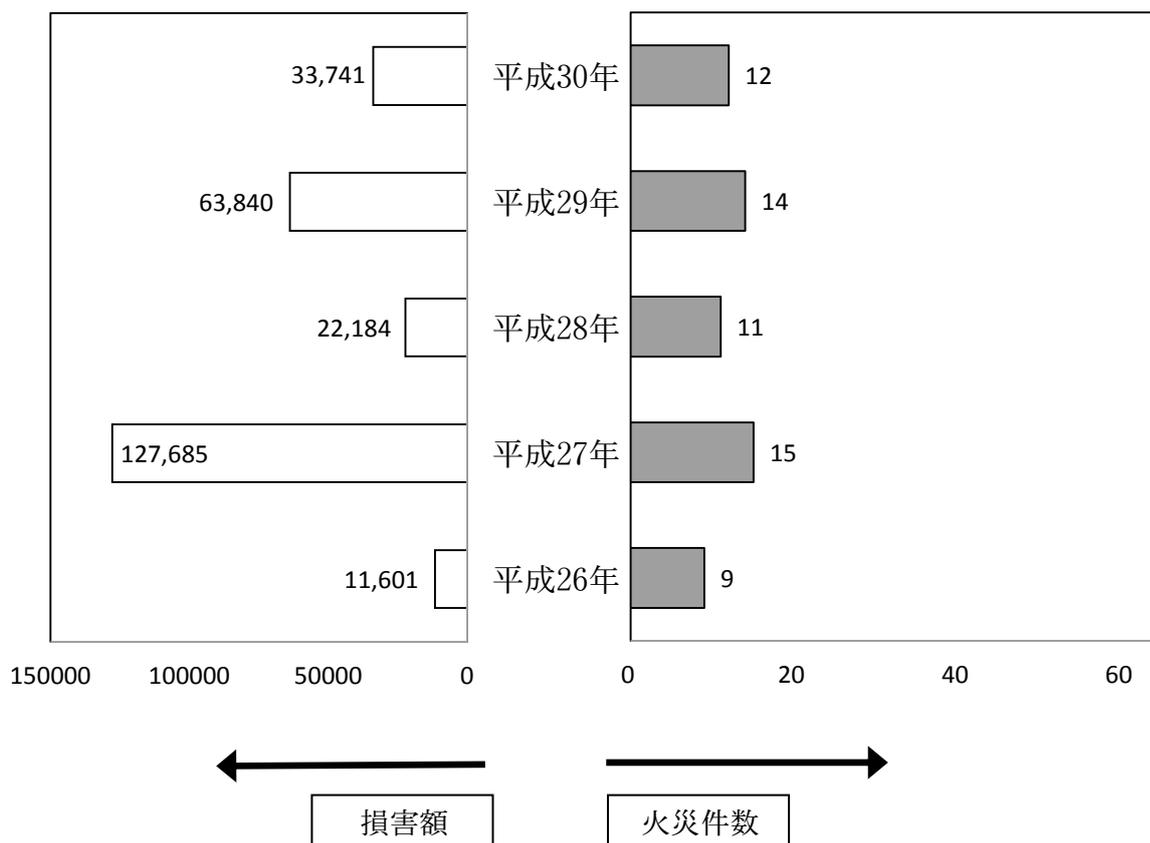
(平成30年12月31日現在)

風速 月別	1m以下	2m以下	3m以下	4m以下	5m以下	6m以下	7m以下	8m以下	9m以下	10m以下	11m以下	12m以下	13m以下	不明	合計
1月															
2月			1						1						2
3月	1	1													2
4月	1														1
5月															
6月															
7月															
8月															
9月															
10月															
11月				1											1
12月	2	3		1											6
合計	4	4	1	2					1						12

## 過去5年間の火災発生状況

過去5年間の火災損額（単位：千円）

過去5年間の火災件数（単位：件）



(平成30年12月31日現在)

町村別 \ 年別	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
広野町	2	3	4	1	1
檜葉町	1	1	2	6	2
富岡町	1	3	2	3	1
川内村	0	2	0	1	2
大熊町	2	2	1	0	3
双葉町	0	2	0	0	1
浪江町	2	2	2	3	1
葛尾村	1	0	0	0	1
合計	9	15	11	14	12

# 原因別火災発生状況

## 火災種別

(平成30年12月31日現在)

原因 種別	たばこ	こんろ	かまど	かまど・ か風	風	炉	焼却炉	ストーブ	こたつ	ポイラー	煙突 突道・	排気管	電気機器	電気装置	電線の配 等の電話	内燃機関	配線器具	火あそび ライター ライター	たき火	溶接機 断機	灯火	火花の 衝撃	灰	入れ	火	放火	疑い	その他	調査中・不明	合計
建物											1															1	1	1	4	
林野																								2					2	
車両												1																	1	
船舶																														
その他																												5	5	
合計											1	1												2	1	1	1	6	12	
%											8%	8%												17%		8%	8%	50%	100%	

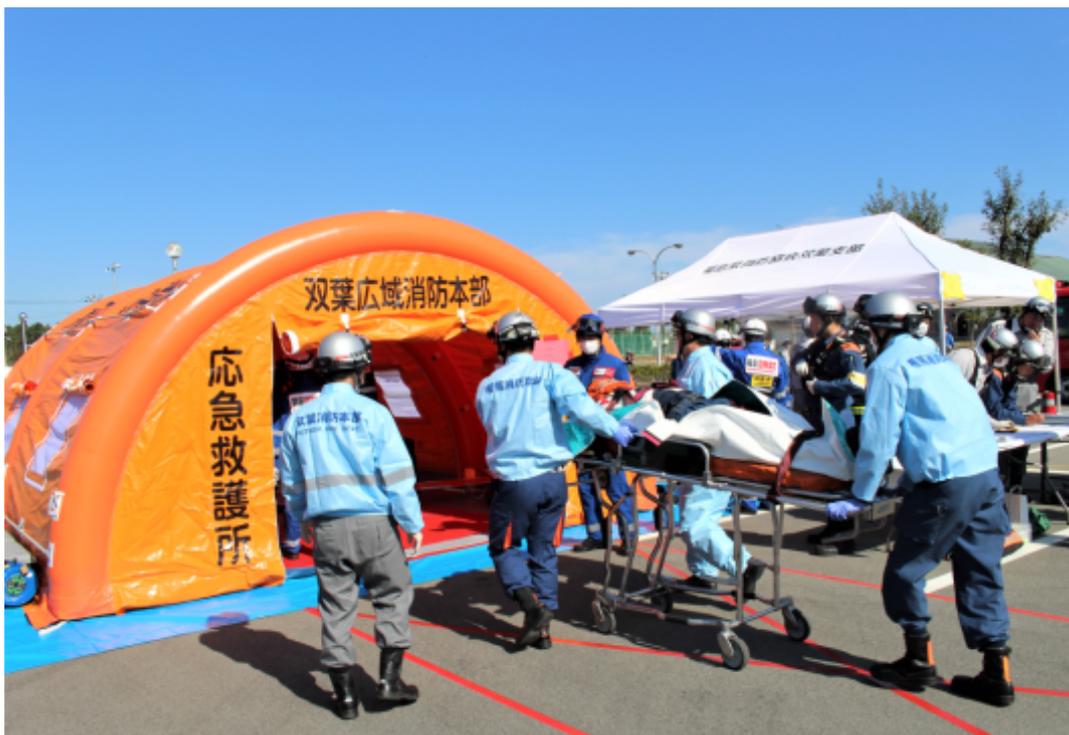
## 町村別

(平成30年12月31日現在)

原因 町村別	たばこ	こんろ	かまど	かまど・ か風	風	炉	焼却炉	ストーブ	こたつ	ポイラー	煙突 突道・	排気管	電気機器	電気装置	電線の配 等の電話	内燃機関	配線器具	火あそび ライター ライター	たき火	溶接機 断機	灯火	火花の 衝撃	灰	入れ	火	放火	疑い	その他	調査中・不明	合計	
広野町																										1			1	1	
檜葉町											1																1			2	
富岡町																														1	1
川内村																								2						2	2
大熊町																												2		3	
双葉町																												1		1	
浪江町																												1		1	
葛尾村																												1		1	
合計											1	1												2	1	1	1	6	12		



# 救 急

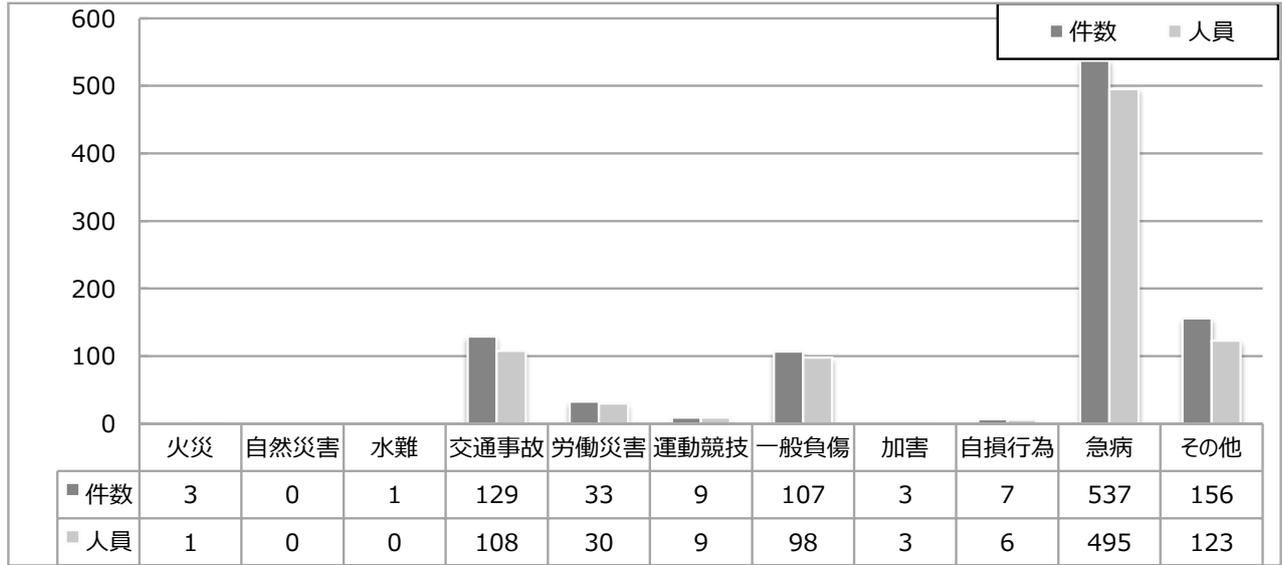


平成30年度多数傷病者対応訓練 平成30年10月26日 実施

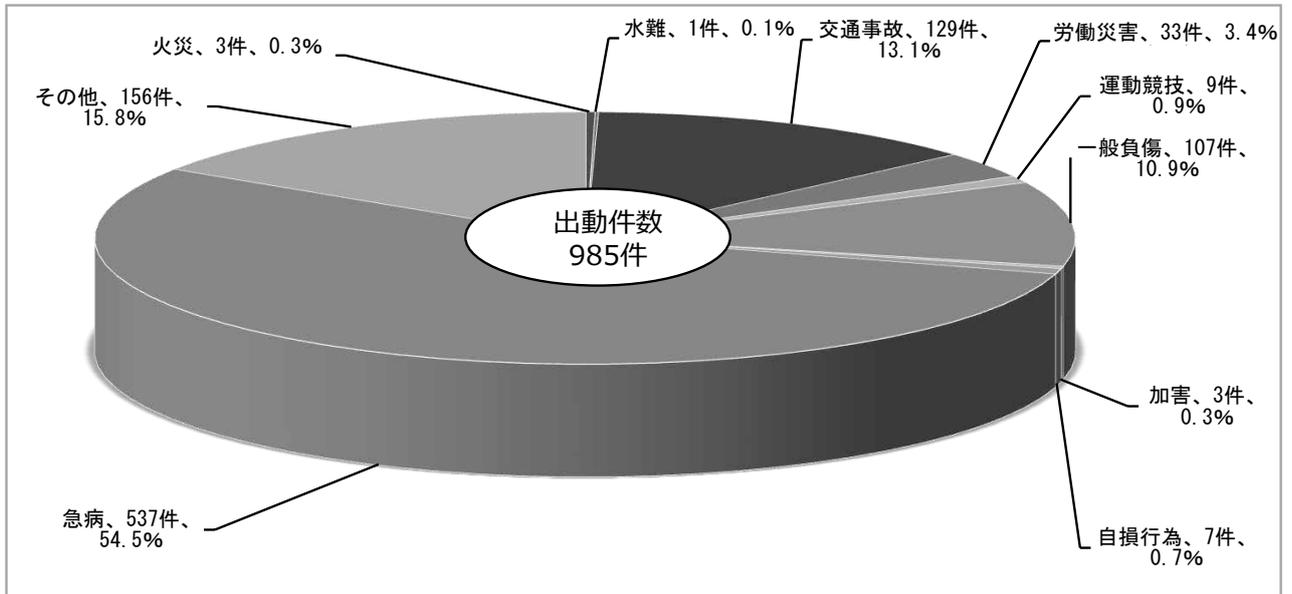


## 救急活動状況

(平成30年12月31日現在)



(平成30年12月31日現在)



## 過去5年間の救急活動状況

(平成30年12月31日現在)

年	管内人口 (A)	救急車台数 (B)	救急出場件数 (C)	搬送人員 (D)	搬送割合 (A/D)
平成26年	65,531 人	7 台	427 件	396 人	165.5 人に1人の割合
平成27年	66,376 人	7 台	607 件	491 人	135.2 人に1人の割合
平成28年	65,452 人	7 台	739 件	608 人	107.7 人に1人の割合
平成29年	64,094 人	7 台	890 件	711 人	90.1 人に1人の割合
平成30年	62,882 人	7 台	985 件	873 人	72.0 人に1人の割合

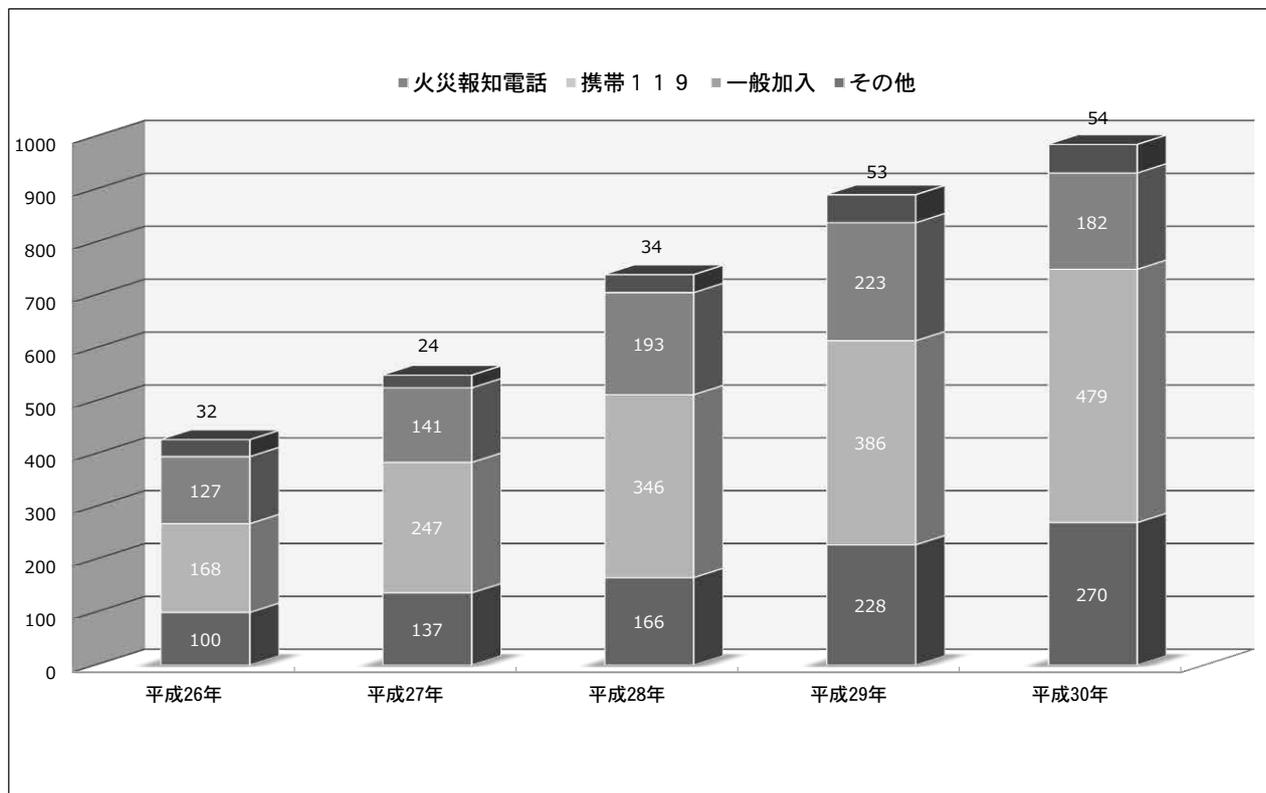
# 月別活動状況

(平成30年12月31日現在)

月	事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				合計	不搬送	管内搬送	管外搬送
												転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他				
1月	出場件数				14	3		11		1	46	7	6		88	19	15	54	
	搬送人員				12	3		10		1	38	7			71		15	56	
	うち 高速				5						2				7	3	2	2	
2月	出場件数				16	2	1	8	1	2	25	2	2	1	60	15	20	25	
	搬送人員				13	2	1	6	1	2	21	2			48		22	26	
	うち 高速				4										4	1	1	2	
3月	出場件数	2			11	8		2		2	38	7	5	3	78	21	18	39	
	搬送人員	1			6	6		2		1	34	7			57		18	39	
	うち 高速									1					1			1	
4月	出場件数				1	1	1	10	1		39	3		5	61	9	24	28	
	搬送人員					1	1	10	1		36	3			52		24	28	
	うち 高速																		
5月	出場件数				5		1	7	1		40	10			64	4	35	25	
	搬送人員				3		1	7	1		40	10			62		37	25	
	うち 高速																		
6月	出場件数				4	1	2	7			29	14	1	1	59	2	32	25	
	搬送人員				6	1	2	7			29	14			59		34	25	
	うち 高速				1						2				3	2	1		
7月	出場件数				9	3		7		1	68	19		2	109	8	53	48	
	搬送人員				9	3		6		1	67	18			104		55	49	
	うち 高速																		
8月	出場件数			1	20	4	1	21			72	22		1	142	20	71	51	
	搬送人員				14	4	1	19			65	22			125		74	51	
	うち 高速				7										7	4	2	1	
9月	出場件数				8	2	1	7			41	7		3	69	9	30	30	
	搬送人員				6	2	1	7			37	7			60		30	30	
	うち 高速																		
10月	出場件数				8	3		3			51	8			73	6	26	41	
	搬送人員				8	3		3			47	8			69		27	42	
	うち 高速				3						2				5	1	2	2	
11月	出場件数				17	5	1	10			45	11			89	12	42	35	
	搬送人員				15	4	1	10			40	10			80		45	35	
	うち 高速				1						3				4	1	2	1	
12月	出場件数	1			16	1	1	14		1	43	15		1	93	13	42	38	
	搬送人員				16	1	1	11		1	41	15			86		46	40	
	うち 高速				4										4	3	1		
合計	出場件数	3		1	129	33	9	107	3	7	537	125	14	17	985	138	408	439	
	搬送人員	1			108	30	9	98	3	6	495	123			873		427	446	
	うち 高速				25						10				35	13	12	10	

## 過去5年間の覚知状況

(平成30年12月31日現在)



## 医療機関搬送人員

(平成30年12月31日現在)

地域別	町村別	合計	広野		楢葉		富岡		川内	大熊	双葉		浪江		葛尾	圏外				
			うち高速	うち高速	うち高速	うち高速	うち高速	うち高速			うち高速	うち高速	うち高速 いわき市	うち高速 南相馬市						
広域圏内	広域圏内	427	16	134	4	121	4	72	47	10	2	2	32	3	6	3	2	1		
	その他の域																			
	小計	427	16	134	4	121	4	72	47	10	2	2	32	3	6	3	2	1		
広域圏外	いわき地区	228	7	82	4	71	2	52	8	11		1	2			1	1			
	相馬地区	73	3	11		4		13	1	7	2	4	31	1		1		1		
	その他の	142						12		113	1		1		14	1				
	県外	3	1	1								1	1	1						
	小計	446	11	94	4	75	2	77	1	128	14		6	1	35	1	14	3	1	1
合計		873	27	228	8	196	6	149	1	175	24	2	8	1	67	4	20	6	3	2

# 過去5年間の署所別活動状況

(平成30年12月31日現在)

年 別	事故種別 署所別		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	その他				合 計
													転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他	
平成 26年	浪江消防署	出場件数				28	12		17	2	1	88	13			2	163
		搬送人員				26	12		15	2	1	78	13			3	150
	富岡消防署	出場件数	1			53	21		23	1		158	6			1	264
		搬送人員				61	19		22	1		138	5				246
平成 27年	浪江消防署	出場件数	1			22	8		8	2	2	24				19	86
		搬送人員	1			17	5		7	1	1	19					51
	富岡消防署	出場件数	2			64	40	3	59	4	5	291	27			26	521
		搬送人員				61	34	3	53	3	2	258	26				440
平成 28年	浪江消防署	出場件数				33	9	2	9			32	3	2		26	116
		搬送人員				32	9	2	8			31	3				85
	富岡消防署	出場件数	2	1		102	26	6	49	3	7	323	46	32	1	25	623
		搬送人員	1	1		110	23	5	45	3	3	286	46				523
平成 29年	浪江消防署	出場件数				33	9	2	12		4	60	11	2		32	165
		搬送人員				33	7	2	10		1	54	11				118
	富岡消防署	出場件数	3			108	28	5	83	2	11	342	74	47		22	725
		搬送人員	1			90	26	5	76	2	5	314	74				593
平成 30年	浪江消防署	出場件数				23	10		13			46	6			9	107
		搬送人員				18	9		12			40	6				85
	葛尾出張所	出場件数				6	1		9			19	2				37
		搬送人員				5	1		7			17	2				32
	富岡消防署	出場件数	2		1	38	14		9	1	2	77	57			4	205
		搬送人員	1			31	12		6	1	2	72	57				182
	檜葉分署	出場件数	1			48	7	9	56	2	4	267	43	14		3	454
		搬送人員				42	7	9	53	2	3	253	43				412
	川内出張所	出場件数				14	1		20		1	128	17			1	182
		搬送人員				12	1		20		1	113	15				162

## 町村別出場件数

(平成30年12月31日現在)

種別 町村別	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	その他				計
											転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他	
広野町				36	3	8	26	1	4	133	29	2		2	244
檜葉町				20	5	1	30	2		137	16	2		1	214
富岡町			1	27	8		8		1	57	55	5		3	165
川内村	2			17	1		19		1	138	19	2		1	200
大熊町				5	4		5		1	14		1			30
双葉町	1			2	1		1			4				6	15
浪江町				13	10		9			42	6	2		4	86
葛尾村					1		9			11					21
圏域外				9						1					10
合計	3		1	129	33	9	107	3	7	537	125	14		17	985

## 曜日別出場件数

(平成30年12月31日現在)

種別 曜日別	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	その他				計
											転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他	
日				8	1	7	13	1		82	10			1	123
月	1		1	12	7		16		3	80	18	2		2	142
火				25	6		19	1	1	72	14	1			139
水				23	7		16	1	2	78	23	5		3	158
木				25	4	1	11		1	83	25	4		6	160
金				19	6		8			76	29	2		3	143
土	2			17	2	1	24			66	6			2	120
計	3		1	129	33	9	107	3	7	537	125	14		17	985

## 現場到着所要時間別出場件数（町村別）

（平成30年12月31日現在）

現場到着 町村別	3分未満		5分以上 10分未満		10分以上 20分未満		計
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	20分以上	
広野町		3	126	93	22		244
檜葉町	6	1	77	123	7		214
富岡町	2	25	82	44	12		165
川内村	11	13	98	48	30		200
大熊町				20	10		30
双葉町			1	12	2		15
浪江町	7	7	36	21	15		86
葛尾村	1	1	6	11	2		21
圏域外				2	8		10
合計	27	50	426	374	108		985

※119番通報から現場に到着するまでに要した時間

## 収容所要時間別搬送人員（町村別）

（平成30年12月31日現在）

収容時間 町村別	10分未満		10分以上 20分未満		20分以上 30分未満		30分以上 60分未満		60分以上 120分未満		計
	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	120分以上				
広野町			12	104	101	11					228
檜葉町			2	120	67	7					196
富岡町		2	13	54	65	15					149
川内村				21	128	26					175
大熊町				8	15	1					24
双葉町				4	4						8
浪江町			2	45	18	2					67
葛尾村				5	15						20
圏域外				2	3	1					6
合計		2	29	363	416	63					873

※119番通報から病院に収容するまでに要した時間

# 時間別発生状況

(平成30年12月31日現在)

時刻別 事故種別	火災		自然災害		水難		交通		労働災害		運動競技		一般負傷		加害		自損行為		急病		その他の					合計			
	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員		
0～1													1	1						12	10							1	11
1～2													1	1					1	13	13						1	15	
2～3													1	1						8	8	1					1	10	
3～4							2	1					2	2						10	9							14	
4～5													3	3						13	13					1	1	16	
5～6							5	4										1	15	14						1	1	19	
6～7							13	12					3	3				1	21	21	1	1					39		
7～8							22	18					9	9				1	24	23						2	59		
8～9							8	5	3	3			6	4					34	31	3	2					56		
9～10	2	1					2	1	4	4	1	1	6	5				1	45	43	6	7					67		
10～11							5	5	7	5	2	2	9	6					34	29	14	14	6				77		
11～12							10	7	2	2	1	1	11	10					27	23	26	25	2		1		80		
12～13							2	2	2	2	2	2	6	6					23	20	15	15	1				51		
13～14							7	3	3	3	2	2	8	8					26	23	9	9	2				57		
14～15							17	16	5	4	1	1	5	5					23	22	7	6			2		60		
15～16							7	8	1	1			6	6					25	23	11	10	1				51		
16～17							6	6	5	5			7	6	1	1	1	1	25	23	10	10			2		57		
17～18							5	6					2	2					30	27	8	8					45		
18～19							8	7					8	8					31	28	5	5					52		
19～20							3	3					2	2					25	23	3	3					33		
20～21							1	1					1	1	1	1			20	18	1	1				3	27		
21～22	1						2			1	1		7	7					23	22	3	3				1	38		
22～23							2	2					2	2				1	15	14	2	2				1	23		
23～24							2	1					1	1	1	1			15	15							19		
計	3	1	1			129	108	33	30	9	9	107	98	3	3	7	6	537	495	125	123	14				17	985		
																												873	

# 救急隊員の行った応急処置件数

(平成30年12月31日現在)

応急処置 種別	応急処置対象人員	止血	固定	人工呼吸	心臓マッサージ	心肺蘇生	気道確保			保温	被覆	在宅療養継続	在宅療養継続			除細動	静脈路確保「輸液」	薬剤投与	その他の応急処置	血圧測定	心音・呼吸音の聴取	血中酸素飽和度の測定	心電図	β刺激薬投与	静脈路確保		血糖測定	エピネフリン投与	ブドウ糖投与	計
							※1	※2	※3				※4	※A	※B										※C	うちCPA後				
急病	495	6	1	2		15	2	135	25	2	9	361	3	1	1		3	212	479	201	484	448		7	3				2,413	
交通事故	105	15	69					17				57	19					37	105	48	104	43						514		
一般負傷	98	19	18			3		9	5		2	57	21	1			1	42	93	22	93	57		1				442		
その他	172	16	22					35				137	17			2	76	168	58	168	134				2	1		834		
合計	870	56	110	2		18	2	196	30	2	11	612	60	2	2	5	367	845	329	849	682		8	5	23			4,203		

気道確保 ※1には、経鼻エアウェイを使用した気道確保を行った件数を内数として記載すること。

※2には、喉頭鏡・鉗子等により異物除去を行った件数を内数として記載すること。

※3には、救急救命士がラリゲンゲアルマスク等を使用して気道確保を行った件数を内数として記載すること。

※4には、救急救命士法に基づき重症傷病者に対して気管チューブを用いて行った件数を内数として記載すること。

在宅療養継続 ※Aには、在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴が施されている傷病者に対し応急処置を行った件数を内数として記載すること。

※Bには、気管切開孔又は気管・人工肛門等の外瘻が施されている傷病者に対して応急処置を行った件数を内数として記載すること。

※Cには、※A・※B以外の在宅療養継続中の傷病者に対して応急処置を行った件数を内数として記載すること。

# 事故種別・年齢区分別・傷病程度別搬送人員

(平成30年12月31日現在)

年齢区分	事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
	傷病程度												
新生児	死亡												
	重症												
	中等症												
	軽症										1		1
	その他計										1		1
乳幼児	死亡												
	重症											1	1
	中等症				1						2		3
	軽症				2			5			7	1	15
	その他計				3			5			9	2	19
少年	死亡												
	重症				1						1		2
	中等症						1				3		4
	軽症				1		7	3			6		17
	その他計				2		8	3			10		23
成人	死亡										1		1
	重症				5	2		1		2	16	12	38
	中等症				17	18		8		2	57	34	136
	軽症				61	8	1	7	2		107	4	190
	その他計				83	28	1	16	2	4	182	50	366
高齢者	死亡							2			8		10
	重症							10		1	37	12	60
	中等症	1			3			25		1	145	49	224
	軽症				17	2		37	1		103	10	170
	その他計	1			20	2		74	1	2	293	71	464
合計	死亡							2			9		11
	重症				6	2		11		3	54	25	101
	中等症	1			21	18	1	33		3	207	83	367
	軽症				81	10	8	52	3		224	15	393
	その他計	1			108	30	9	98	3	6	495	123	873

(注1)年齢区分

- (a)新生児とは、0日から28日までをいう。
- (b)乳幼児とは、29日から6歳までをいう。
- (c)少年とは、7歳から17歳までをいう。
- (d)成人とは、18歳から64歳までをいう。
- (e)高齢者とは、65歳以上をいう。

(注2)傷病程度とは、初診時における医師の診断に基づき分類する。

- (1)死亡とは、初診時において死亡が確認されたものをいう。
- (2)重症とは、傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするものをいう。
- (3)中等症とは、傷病の程度が重症又は軽症以外のものをいう。
- (4)軽症とは、傷病の程度が入院加療を必要としないものをいう。
- (5)その他とは、医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したものの。

## 応急処置普及指導状況

### 応急手当指導員養成講習

(平成30年12月31日現在)

区分	対象者	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	医師・救急救命士等医療従事者等	その他	計	登録を抹消した者	講習回数
	応急手当指導員講習Ⅰ(修了者)								
	応急手当指導員講習Ⅱ(修了者)								
	応急手当指導員講習Ⅲ(修了者)								
	消防長が認められた者								
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者								
	合計								

平成30年中については未実施

### 応急手当普及員養成講習

区分	対象者	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	医師・救急救命士等医療従事者等	その他	計	登録を抹消した者	講習回数
	応急手当普及員講習Ⅰ(修了者)					42	42		5
	応急手当普及員講習Ⅱ(修了者)								
	消防長が認められた者								
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者								
	合計					42	42		5

### 住民に対する応急手当普及啓発活動

応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱に基づく普及講習									
普通救命講習Ⅰ		普通救命講習Ⅱ		普通救命講習Ⅲ		上級救命講習		合計	
受講人数	回数	受講人数	回数	受講人数	回数	受講人数	回数	受講人数	回数
605	42							605	42

### その他の講習

その他		救命入門コース	
受講人数	回数	受講人数	回数
2,531	64		

# 救急資器材の現況

(平成30年12月31日現在)

分類	保有別		計	浪江消防署	葛尾出張所	富岡消防署	檜葉分署	川内出張所
	品名							
観察用資器材	血圧計		29	8	4	4	9	4
	血中酸素飽和度測定器		25	6	2	5	8	4
	検眼ライト		23	5	2	4	9	3
	心電計		7	2	1	1	2	1
	体温計		55	9	4	11	11	20
	聴診器		22	4	3	4	7	4
	血糖値測定器		8	3	1	1	2	1
呼吸・循環管理用資器材	吸引器一式		15	4	2	2	4	3
	喉頭鏡		18	5	2	4	3	4
	酸素吸入器一式		7	2	1	1	2	1
	酸素ポンベ 300L		34	16	2	9	4	3
	酸素ポンベ 1500L		50	20	3	12	11	4
	自動式人工呼吸器一式		7	2	1	1	2	1
	自動体外式除細動器		11	3	1	2	3	2
	マギール鉗子		31	9	4	7	7	4
	呼気二酸化炭素測定器具		8	4	2		1	1
	自動式心マッサージ器		7	2	1	1	2	1
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡		6	2	1	2	1		
保温・搬送用資器材	雨おおい		8	2	1	1	2	2
	スクープストレッチャー		11	4	2	1	2	2
	担架		21	6	3	3	7	2
	バックボード		17	3	2	4	6	2
通信用資器材	無線装置		10	4	2	1	2	1
	携帯電話		8	2	2	1	2	1
	衛星電話		7	2	1	1	2	1
	情報通信端末		1					1
救急資器材	救命浮環		7	2	1	1	2	1
	万能斧		7	2	1	1	2	1
その他の資器材	懐中電灯		24	7	4	3	6	4
	救急バッグ		16	8	3	1	2	2
	トリアージタック		1,271	650	76	201	298	46
	膿盆		28	4	7	6	7	4
	はさみ		30	7	3	6	8	6
	分娩用資器材		7	2	1	1	2	1
訓練用資器材 普及啓発	蘇生訓練用人形		27	10	4	9	2	2
	成人		22	10	4	4	2	2
	乳幼児用		5			5		
	外傷模型セット		2	2				
	AEDトレーナー		28	8	5	9	4	2
	気管挿管訓練人形 (ACLS人形含む)		8	2	1	3	1	1

双葉地方広域市町村圏組合消防本部(仮庁舎)

〒979-0513

福島県双葉郡楢葉町大字山田岡字仲丸1-110番地

TEL 0240(25)8523

FAX 0240(25)8524

E-mail honbu\_soumu@futabashobohonbu.jp

HP <http://www.futabashobohonbu.jp>